

# 01

**題材名** オリエンテーション／「こんなところが同じだね」【話・聞】（第1時／全1時間）  
**目標** 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。（知・技）  
**学習の流れ**

	教師の働きかけ	児童の活動
15分	①オリエンテーション 「国語の学びを見わたそう」を黒板に書く。p4 学習を見わたし、進んで学習できるようにする。 ○3つのカテゴリー 【話す・聞く】伝えたいことをはっきりさせてわかりやすく伝える。話をしっかり聞いて自分の考えをもつ。 【書く】相手に伝わるように目的をはっきりさせて書く。 【読む】気持ちを考えて読み、感想をもつ。 ○漢字 202 字（授業 40 日だと 1 日当たり 5 個。4 年の漢字を讀めて 3 年までの漢字を使えるようにする。	
3分	②「こんなところが同じだね」を黒板に書く。p10 ○【話す・聞く】を意識しながら授業を進める	
3分	友だちとの共通点をさがそう	
5分	・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。 ④教材文を読み、活動の流れを確かめて、2 人一組になって 2 分間で共通点を探させる。 ○ボキャブラリーを増やせるように、正しい発音やイントネーションで話せるように、～に～がなどの助詞に気を付けて話せるように指導する。	③ワークシートに丁寧(1 画を意識して中心線にまっすぐ)に書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で読む。 ④ 2 人一組になって 2 分間で共通点を探す。
5分	⑤二つの組で 4 人グループを作り、5 分間でできるだけ多くの共通点を探させる。 ○④と同様の点に留意する。	⑤ 4 人一組になって 2 分間で共通点を探す。記入例「形の上で目じるしとするもの」
6分	⑥みんなに教えたい共通点を発表し合わせる。 ○いろいろな視点が増えるように子どもから意見を聞く。 (例; 服の色、時計の色、持ち物、好きなキャラクターなど) ○人権を意識しながら共通点を挙げさせる。その上で、いろいろな視点でものをとらえ、わかりやすく伝える大切さを感じられるようにする。	⑥共通点を発表する。「私のグループも…」など、同じかどうかや付けたしをしながら話す。
6分	⑦今週の漢字 5 つから 2 つ選び、新出漢字の練習をさせる。	⑦筆順、「とめ・はね・はらい」を意識して練習する。
2分	信・達・飛・席・建（5 字目／202 字中）	
分	⑧次時の予告をする。	

## 指導のポイント

- 学習の進め方に関して
  - ・オリエンテーションに時間をかけ、「何のために学ぶか」を感じられるようにすると共に、「学んだことが使える」ことが求められていることを理解できるように常にはたらきかける
  - ・【話す・聞く】【書く】【読む】のどの学習かをはっきりさせておくと子どもはそれに向かって学習を進めやすい。
- 漢字学習について
  - ・1 日 2 個を例にとり、授業中に指導を行う。週 5 個のペースで行うと補習校の学習中に終わることを伝える。漢字学習は、学習進路と関係なく進めることができることを、子どもにも保護者にも理解してもらえると、1 日 1 個でも 2 日ごとに 2 個でもその子のやり方に合わせて進めることができる。理解がもらえたら、p152「この本で習う漢字」5 つずつ区切り、進路を確定する。
  - ・授業中に採りあげる漢字は、その日扱う漢字を前から 2 つ取り上げてもよいし、筆順が難しい漢字や字形を取りにくい漢字を取り上げてもよい。指導案では、指導したい 2 字を□囲みしておく。筆順や基本に忠実な文字、逆に難しい字を□囲みした。取り上げ方で子どものやる気にかかわるので留意する。
  - ・漢字の多くは「上から下、右から左に書く」「部首などのパーツの組合せ」「とめ・はね・はらいはきれいに見せるため」など、コツや意義を合わせて伝えると意欲が持続する。
  - ・奇数時間に漢字練習を位置づけているが、その日の適当な時に指導する。
  - ・表記例 信・達・飛・席・建（5 / 202）←達・飛を指導することを推奨。5 / 202 は、202 字指導する中で 5 字目までが記されていることを意味する。

# 01

題材名 オリエンテーション／「こんなところが同じだね」【話・聞】(第1時／全1時間)

目標 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。(知・技)

領域等 A 話すこと・聞くこと

① 題材名「こんなところが同じだね」を黒板に書

② 本時の目標を児童に知らせる。

「図書館で必要な情報をさがそう。」

・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

④ 友達との共通点をさがさせるようにする。目に見えないもの(性格、好きな人など)を挙げるのはよいが、あとから発表してみんなが知ったり、言われて嫌なことがあったりするとよさが際立たない。

⑤ 今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

## 板書例

オリエンテーション

◎3つの学習

【話す・聞く】

【書く】

【読む】

◎漢字202字

1日5つで40日+2文字

学習の進み方とは別

学校で2文字。自分で3文字。

こんなところが同じだね

友だちとの共通点をさがそう。

◎共通点

・

☆今週の漢字

字をきれいに見せるポイント

☆ひつじゅん

☆とめ・はね・はらい

⑧ 次時の予告をする。

「次の時間は、『春のうた』を学習します。」

オリエンテーション／「こんなところが同じだね」  
四年 組

オリエンテーション

◎ 3つの学習

【話す・聞く】

【書く】

【読む】

◎ 漢字  
202字

1日5つで40日＋2文字

学習の進み方とは別

学校で2文字。自分で3文字。

「こんなところが同じだね」

今日の学習（中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましよう）

--

友だちと同じところを見つけたらメモしよう

オリエンテーション／「こんなところが同じだね」

四年 組

オリエンテーション

◎3つの学習

【話す・聞く】

【書く】

【読む】

◎漢字  
202字

1日5つで40日＋2文字

学習の進み方とは別

学校で2文字。自分で3文字。

「こんなところが同じだね」

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

## 友だちとの共通点をさがそう

友だちと同じところを見つけたらメモしよう

○自分の考えをメモし、まとめてから話せるようにする。

服の色、時計の色、持ち物、好きなキャラクターなど

## 2

**題材名** 「春のうた」（第1時／全1時間）

- 目標**
- ・春の訪れを喜ぶかえるの気持ちを、叙述をもとに想像できる。
  - ・言葉のリズムを楽しみながら声に出して読める。

**領域名** C 読むこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「春のうた」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">かえるの様子や気持ちを想像しよう。</div> ・学習シートを配布し、目標を書き込ませる。	・教科書を用意する。 ・学習シートに目標を書き込む。
展 開 25 分	③ かえるが見た「土の中」と「地上」とを対比させながら、開地 上の春のイメージを思い浮かべさせる。 ・見えるもの（もの、色など） ・感じるもの（あたたかさ、風、においなど） ④ 詩の特徴や感じたことなどについて話し合わせる。 ・言葉の表現に着目し、水や風の表し方を楽しむ。	・詩を微音読し、かえるが土の中 から出てきたことを知り、その 時に見えたものや感じたことな どを想像し話し合う。 ・「ほっ」から感じることを話し 合う。
終 末 15 分	⑤ 視写をさせる。 ・漢字が使われていないことや、気づいたことなどを話し合いなが ら詩のイメージを膨らませて音読に生かすようにする。音読をさせ る。 ・声の大きさや抑揚のつけ方、読む速さに気をつけて音読するよう気 をつける。 ⑥ かえるの気持ちを想像し、ノートにまとめさせる。 ⑦ 次回の学習の内容を伝える 「音読の工夫を考えながら読むこと」	・学習シートを活用し、丁寧に書 き写す。 ・春の訪れを喜ぶかえるの気持ち を感じて読む。 ・かえるの気持ちを学習シートに まとめる。

### 指導のポイント

- 春のイメージを豊かに読み取らせる。
  - ・自分の思い浮かべた春のイメージを意識して、「春のうた」を読み取らせたい。春のイメージを豊かにするため、「自然・生き物」「行事・出来事」「春の気分」などの観点を与える。
- 詩の構成と特徴を生かした指導に努める。
  - ・冬の間土の中にいたかえるが地上に出てきて、春を喜びこれからの生活への期待感に満ちている様子が描かれている。冬の様子との対比、かえるの顔の表情の変化、かえるの見たものを想像させるなどを手だてとして、叙述から情景を豊かに読み取らせていきたい。

板書例

- ①題材名「春のうた」を黒板に書く。
- ②本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを書き込ませる。

- ③かえるが見た「土の中」と「地上」とを対比させることで、地上の春のイメージを思い浮かべる。
- ④詩の感想を話し合わせる。

- ⑤視写をする。  
かえるの気持ちを想像しながら音読する。
  - ・声の大きさ
  - ・抑揚の付け方
  - ・速さ音読する。

板書例

春のうた

かえるの様子や気持ちを想像しよう。

冬の中・・・寒い、冷たい、暗い  
おながすいた、さみしい

春の地上・・・太陽の陽射しがまぶしい、あたたかい、明るい、

見えるもの ←

霜柱、雪解け水、青い空、大きな植物の芽  
雪、風に揺れている植物

気持ち ←

うれしい、飛び跳ねたい、うたいたい、  
他の穴から友達が顔を出したので会いたい

ケルルンクツク ←

- ⑥かえるの気持ちを想像し、ノートにまとめる。

- ⑦次回の学習の内容を伝える。  
「音読の工夫を考えながら読むこと」

# 春のうた

4年組 氏名( )

目標

冬、土の中にいるとき

春、土の中から出てきたとき

「ほっ」

みずはぐるぐる

かぜはそよそよ

詩を写しましょう。

かえるのきおが

# 春のうた

4年組 氏名( ) 例

目標 春の訪れを喜ぶかえるの気持ちを、叙述をもとに想像できること。  
言葉のリズムを楽しみながら声に出して読めること。

冬、土の中にいるとき

・ミミズやもぐらに会った。 ・真つ暗で冷たかった。 ・雨がしみこんできた。  
・車が通るとゴーゴーと音が響いて聞こえた。

春、土の中から出てきたとき

・太陽の光がまぶしかった。 ・いろいろな色が見えた。  
・風が気持ちいい。 ・虫の声や水の音が聞こえた。  
・動いているものに驚いた。

「ほつ」

・光を感じてあたたかいな。  
・明るくて安心したな。

みずはつるつる

・土の中では上から水が垂れてきたのに、地上では川が流れ、葉から水がこぼれ落ちるのに、驚き喜ぶ様子。

かぜはそよそよ

・草の間を抜けてくる風が心地よく感じる。

詩を写しましょう。

かえるのきもち

[Blank box for writing the poem]

・地上に出ると、いろいろな色が見えるし、明るいし、暖かい。いろいろな生き物に会えるし、何よりも楽しい。



### 3

**題材名** 「白いぼうし」(第1時/全4時間)

**目標** 情景描写や人物描写に気をつける読み方を知り、作品をより楽しんで感想を深める。

**領域名** C 読むこと

#### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「白いぼうし」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">物語のあらましをつかもう</div> ・学習シートを配布し、目標を書き込ませる。	・教科書を用意する。  ・学習シートに目標を書き込む。
展 開 25 分	③ 範読を聞きながら、新出漢字や分からない言葉に振り仮名や印をつけさせる。 ④ 新出漢字の練習をさせる。 ⑤ 一人で黙読をさせる。 ・松井さんの家族はどんな方がいるのかな。 ・夏みかんの木を想像してみよう。 ・もぎたての果物が放つ香りってどんな感じかな。 ・いなかのおふくろ(松井さんのお母さん)の気持ちを想像しよう。	・教師が読むのを聞き、物語を楽しむと同時に、わからない漢字に振り仮名を振る。 ・学習シートを活用し、新出漢字を練習する。 ・黙読をし、物語を楽しみながら主人公の心を読み取ったり蝶の気持ちを考えたり、物語の不思議な場面を楽しんだりしながら読み進める。
終 末 15 分	⑥ 感想を書かせる。 ⑦ 感想を発表させる。 ⑧ 次回の学習の内容を確認する。 「登場人物について考える」	・感想を学習シートに書く。  ・発表をし、抱いた気持ちを共有する。

#### 指導のポイント

- 児童の感想から指導計画を組む。
- ・①夏みかん ②たけのたけお君の白いぼうし ③女の子 ④聞こえてきた不思議な声 の4つの点を分けながら板書をしていき、抱いたイメージを共有させていくことで、物語を深める。
- ・松井さんの人柄と、色やにおいから情景を想像して学習を進める。

# 板書例

- ①題材名「白いぼうし」を黒板に書く。
- ②本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを書き込ませる。

③ 範読を聞きながら、新出漢字や分からない読み方に振り仮名をふったり印をつけたりし、内容をつかむ。

- ④全員で黙読をする。
  - ・松井さんとお客さんの会話から、母への想いを感じ取らせながら読ませたい。また、季節感あふれる夏みかんから漂う景色や香り等も想像させながら読ませたい。

板書例

白いぼうし

物語のあらましをつかもう。

感想  
印象  
笑い  
菜の花  
辺り  
運転席  
飛び出す  
置く  
変わる  
信号  
残る

- ⑤感想を書き発表する。
  - 設定場面を確認する。

- ⑥次回の学習の内容を伝える。
  - 「登場人物について考える」



# 白いぼうし

## 1

4年 組 氏名 ( )

目標 情景描写や人物描写に気をつける読み方を知り、作品をより楽しんで感想を深める。

残る <sup>のこ</sup>	残る <sup>のこ</sup>	残る <sup>のこ</sup>	残る <sup>のこ</sup>	残る <sup>のこ</sup>
信号 <sup>しんごう</sup>	信号 <sup>しんごう</sup>	信号 <sup>しんごう</sup>	信号 <sup>しんごう</sup>	信号 <sup>しんごう</sup>
変わる <sup>かわ</sup>	変わる <sup>かわ</sup>	変わる <sup>かわ</sup>	変わる <sup>かわ</sup>	変わる <sup>かわ</sup>
置く <sup>おき</sup>	置く <sup>おき</sup>	置く <sup>おき</sup>	置く <sup>おき</sup>	置く <sup>おき</sup>
飛び出す <sup>とびだす</sup>	飛び出す <sup>とびだす</sup>	飛び出す <sup>とびだす</sup>	飛び出す <sup>とびだす</sup>	飛び出す <sup>とびだす</sup>
運転席 <sup>うんてんせき</sup>	運転席 <sup>うんてんせき</sup>	運転席 <sup>うんてんせき</sup>	運転席 <sup>うんてんせき</sup>	運転席 <sup>うんてんせき</sup>
辺り <sup>あたり</sup>	辺り <sup>あたり</sup>	辺り <sup>あたり</sup>	辺り <sup>あたり</sup>	辺り <sup>あたり</sup>
菜の花 <sup>なの花</sup>	菜の花 <sup>なの花</sup>	菜の花 <sup>なの花</sup>	菜の花 <sup>なの花</sup>	菜の花 <sup>なの花</sup>
笑い <sup>わらい</sup>	笑い <sup>わらい</sup>	笑い <sup>わらい</sup>	笑い <sup>わらい</sup>	笑い <sup>わらい</sup>
印象 <sup>いんしょう</sup>	印象 <sup>いんしょう</sup>	印象 <sup>いんしょう</sup>	印象 <sup>いんしょう</sup>	印象 <sup>いんしょう</sup>

読んだ感想を書きましょう。

- ・ なんか、自分も見たいことのある景色のような気がした。

モンシロチョウが黄色い夏みかんになっていたら、男の子は

驚いだけれうけど、きっと大人になっても忘れられない記憶に

なっているかもしれない。松井さんって優しいな。 私も

松井さんのような大人になりたいな。

## 4

**題材名** 「白いぼうし」 (第2時/全4時間)

**目標** 情景描写や人物描写に気をつける読み方を知り、作品をより楽しんで感想を深める。

**領域名** C 読むこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「白いぼうし」を黒板に書く。  ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">松井さんの人柄や心情の変化を読み取ろう。</div> ・学習シートを配布し、目標を書き込ませる。	・教科書を用意する。  ・学習シートに目標を書き込む。
展開 25分	③ 第一意味段落を読み、松井さんの行動から人柄などを想像させる。 また、お母さんの気持ちなども想像させる。  ④ 第二意味段落を読み、松井さんの行動から人柄などを想像させる。	・にこにこ紳士と話す松井さんの様子から、その人柄を想像する。 ・「速達で送ってくれたのです。」と喜ぶ松井さんの心情を読み取る。 ・「一番大きいのを車に乗せてきたという松井さんの思いを想像する。 ・夏みかんを送った母の気持ちを考える。 ・はっとしてアクセルから足を離れた松井さんの気持ちを考える。 ・小さなぼうし、ため息をついている松井さんを想像し、その情景を寸劇で表したり、心情を考え発表したりする。 ・かたをすぼめて立っていた、松井さんを考える。
終末 15分	⑤ 教科書19頁の最後の行と20頁の1行目～6行目を視写させる ⑥ 次回の学習の内容を確認する。 「女の子と松居さんの様子」	・白いぼうしの中に夏みかんを入れ石でつばを押さえた松井さんの行動から、気持ちを読み取る。 ・夏みかんの表現から感じること。

### 指導のポイント

○児童の感想から指導計画を組む。

- ・①夏みかん ②たけのたけお君の白いぼうし ③女の子 ④聞こえてきた不思議な声 の4つの点を分けながら板書をしていき、抱いたイメージを共有させていくことで、物語を深めていく。
- ・松井さんの人柄と、色やにおいから情景を想像して学習を進めていく。

○比喩表現と色彩、においに着目させる。

- ・視写をさせて、比喩表現や色彩、においの表現から、その背景にある情景描写を感じさせる。

板書例

①題材名「白いぼうし」を黒板に書く。  
 ②本時の目標を児童に知らせる。  
 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。

③第一場面を読み、松井さん  
 の人柄をつかむ。

④第二場面を読み松井さんの行動と  
 気持ちや人柄について考える。

白いぼうし	松井さんの人柄や心情の変化を読み取ろう。	第一場面		松井さんの台詞 もぎたてのなので す。 速達で送ってください。 した。 においまでわたしに 届けたかったのでし ょう	気持ち	お母さんの気持ち
第二場面						
はっとする つまみ上げる ため息 かたをすぼめて						
19頁の最後の行と20頁の1行目〜6行目						
夏みかんに白いぼうし 石でつばをおさえました						

⑤次回の学習の内容を確認する。  
 「女の子と松井さんの様子」

⑥視写をする。

# 白いぼろし

2

4年 組 氏名 ( )

目標

--

第一場面

松井さんのせりふ	松井さんの気持ち	お母さんの気持ち
もぎたてなのです。		
速達で送ってくれました。		
においまでわたしにとどけたかったのです。		

第二場面

はつとする

↓

つまみ上げる

↓

ため息

↓

かたをすぼめて

↓

--

夏みかんに白いぼろし

↓

石でつぼを叩き壊しました

↓

# 白いぼうし

## 2

4年 組 氏名 ( )

目標 松井さんの人柄や心情の変化を読み取る。

### 第一場面

松井さんのせりふ	松井さんの気持ち	お母さんの気持ち
もぎたてなのです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさとの青空が浮かんでくるなあ。</li> <li>・いいにおいだなあ。</li> <li>・田舎を思い出すな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐに送ってあげたい。</li> <li>・ふるさとの景色を送ってあげたい。</li> </ul>
速達で送ってくれました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お母さんは優しいなあ。</li> <li>・お母さんの気持ちが伝わるなあ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少しでも早く届けてあげたい。</li> <li>・香りが無くならないうちに届けたい。</li> </ul>
においまでわたしにとどけたかったのですよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お母さんの笑顔が浮かんでくるなあ。</li> <li>・お母さんの気持ちまで一緒に届くようだな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この香りと一緒に、田舎の空気や景色も送りたい。</li> </ul>

### 第二場面

はつとする

→ 帽子が落ちていているということは子どもがいる。危険だ！

つまみ上げる

→ 名前が書いてあるかな。何歳ぐらいの子かな。

ため息

→ 幼稚園の子がつかまえた蝶を逃がしてしまった。

かたをすぼめて

→ 子どものことを考えると、逃がしてしまったことを反省している。

運転席から取り出したのは、あの夏みかんです。まるで、あたたかい日の光をそのままそめつけたような、見事な色でした。すっばい、いいにおいが、風で辺りに広がりました。

夏みかんに白いぼうし

→ 子どもにとっての蝶と松井さんにとっての夏みかさんは同じぐらいの価値がある。

石でつばをおさえました

→ 飛んでいかないように、転がっていかないように帽子が飛んでばれないように。



# 5

**題材名** 「白いぼうし」 (第3時/全4時間)  
**目標** 情景描写や人物描写に気をつける読み方を知り、作品をより楽しんで感想を深める。  
**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「白いぼうし」を黒板に書く。  ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px 0;">             女の子と松井さんの様子を読み取ろう           </div> ・学習シートを配布し、目標を書き込ませる。	・教科書を用意する。  ・学習シートに目標を書き込む。
展開 25分	③ 教科書20頁の7行目からの場面を読み進めさせる。 ・不思議な女の子について、自分なりの考えをもたせる。 ・なぜ突然表れ、突然消えたのか。 ・松井さんの女の子に対する対応から人柄を読み取る。 ・男の子があらわれた時の女の子の慌てぶりなどから、女の子の実態などを話し合う。 ・男の子が夏みかんを見つけたときの様子を想像している松井さんの様子から、人柄を考える。  ④ 場面に応じて、ロールプレイングを行ったり、寸劇を取り入れて表現したりしながら、場面を深く読み取らせる。	・女の子が突然後部シートに現れたことや「四角い建物ばかり」という言葉遣い、更に男の子の出現に対する慌てぶり、突然の消失などから、女の子の正体などについて考えをもち、話し合う。 ・女の子に対応する松井さんの様子や、男の子の様子を想像する松井さんなどから人柄について話し合う。  ・言葉で表現ができない場合は、寸劇やロールプレイングで表現し、その場面の情景を描き出していく。
終末 15分	④ 感じたことを学習シートに書かせていきながら、音読のコツに活かせるような手だて作りにさせる。  ⑤ 次回の学習の内容を確認する。 「音読会を開く」	・自分の考えを学習シートに書き込みをし、次回の音読発表会に活かしていく。

## 指導のポイント

○不思議な女の子について

・不思議な女の子について自分なりの考えをもたせる。

○松井さんについて

・松井さんの楽しい想像の様子から松井さんの人柄を想像していく。不思議な登場をした女の子に驚かず、白いぼうしを空けたときの男の子のことを楽しく想像しているところから、松井さんの人柄を記入させる

板書例

①題材名「白いぼうし」を黒板に書く。  
②本時の目標を児童に知らせる。  
・ワークシートを配布し、書き込ませる。

③おっぱのかわいい女の子の場面を読み、その心情を読み取る。

④水色の新しい虫取り網をかかえた男の子の様子をとらえ、その心情を読み取る。

板書例

白いぼうし	女の子や松井さんの様子を読み取ろう。	女の子	おっぱのかわいい女の子	四角い建物	あ、ええ、あの、あのね、	菜の花横丁であるかしら。	早く、おじちゃん。早く行ってちょうだい
	松井さん					菜の花橋のことですね。	【かふかふ】
						【楽しい想像】	

⑤松井さんがその後の男の様子を想像する場面と女の子がいなくなった場面を読み、松井さんの人柄を描いていく。

⑥次回の学習の内容を確認する。  
「音読会を開く。」

# 白いぼうし 3

四年 組 氏名 ( )

目標

--

女の子のことがわかる場面を抜き出し、自分の考えを書きましょう。

女の子の場面	自分の考え

松井さんの人柄がわかる場面を抜き出し、自分の考えを書きましょう。

松井さんの場面	自分の考え

# 白いぼうし

3

記入見本例

四年 組 氏名 ( )

目標

情景描写や人物描写に気をつける読み方を知り、作品をより楽しんで感想を深める。

女の子のことがわかる場面を抜き出し、自分の考えを書きましょう。

女の子の場面	自分の考え
<ul style="list-style-type: none"><li>・タクシーの中、後部座席</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・突然現れた女の子は、いったい誰なんだろう。モンシロチヨウの妖精なのかな。ふんわりとした感じの絵が描いてあるから、本物の人間の女の子じゃないかもしれない。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・突然消えた女の子</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・すごく不思議な感じ。松井さんも特に驚いていないし、お化けとかじゃない。きっと、モンシロチヨウの妖精かもしれない。</li></ul>

松井さんの人柄がわかる場面を抜き出し、自分の考えを書きましょう。

松井さんの場面	自分の考え
<ul style="list-style-type: none"><li>・夏みかんのいいかおり</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・お母さん思いの優しい人</li><li>・田舎へ帰ると、きつとお母さんの肩をもらってあげたりしているとおもう。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・夏みかんを帽子の中においた</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・モンシロチヨウをつかまえた男の子の思いを壊さずに、夏みかんを見つけたときの驚きとして置き換えたなんて、すてきな考えをする人だな。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・不思議な声</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・モンシロチヨウが仲間が、松井さんに助けられたモンシロチヨウに、よかつたね、と言っているんじゃないかな。</li></ul>

# 6

**題材名** 「白いぼうし」（第4時／全4時間）  
**目標** 情景描写や人物描写に気をつける読み方を知り、作品をより楽しんで感想を深める。  
**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「白いぼうし」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">             様子が表れるように音読しよう。           </div> ・学習シートを配布し、目標を書き込ませる。	・教科書を用意する。 ・学習シートに目標を書き込む。
展開 25分	③ 教科書22頁6行目から最後まで読ませる。 ④ 女の子が消えた場所との関連を見つけ、女の子の正体を考えさせる。 ・車は止まらず走り続けているのに、消えた女の子をとらえさせる。 ⑤ 「よかったね。」「よかったよ。」の音読の工夫を考えさせる。 ・シャボン玉のはじけるような、小さな小さな声を考えさせる。	・場面を把握するために全員で読む。 ・情景描写を楽しむために、自分ひとりで読む。 ・女の子の正体を話し合いながらつかんでいく。 ・蝶の声をどんな風に表現するかを話し合う。 ・練習した後、発表する。
終末 15分	⑥ 指示語（こそあど言葉）に印をつけ、その言葉がさしていることをとらえさせる。 ⑦ 最後に、この物語を読んで心に残ったことを書かせる。 ⑧ 次回の学習の予告をする。 「漢字の広場」に入る。	・指示語が指している内容をつかむ。 ・学習シートに、読み終えた感想を書く。

## 指導のポイント

- 受けとり方のちがいの交流
  - ・児童によっては、受けとり方のちがいが出てくる。それぞれの思いを交流するための話し合いの場を持つ。
- 白いぼうしの振り返りをする。
  - ・学習を振り返り、物語のおもしろさはどんなところにあるのかを自分なりにまとめる。

# 板書例

- ①題材名「白いぼうし」  
を黒板に書く。
- ②本時の目標を児童に知らせる。  
・ワークシートを配布し、書き込ませる。

③教科書 22頁6行目 ~最後までを読む。

④女の子が消えた場所から、女の子の正体を考えていく。

## 板書例

白いぼうし

様子が表れるように音読しよう。

女の子・・・小さな団地の前の小さな野原

← 白い蝶が二十も三十も・・・

「よかったね。」  
「よかったよ。」  
「よかったよ。」

シャボン玉のはじけるような、小さな小さな声

指示語（これ、それ、あれ、どれ）  
※「そあど言葉」

⑤第4の場面の音読をする。シャボン玉のはじけるような小さな小さな声を考えながら表現させる。

⑥次回の学習の予告をする。  
「漢字の広場」



# 白いぼうし

4

4年 組 氏名 ( )

目標

情景描写や人物描写に気をつける読み方を知り、作品をより楽しんで感想を深める。

女の子はどうして消えたのでしょうか。自分の考えを書きましょう。

・ 女の子が突然現れた時も驚いたと思う。女の子が消えたときも同じように驚いたと思う。後からモンシロチョウの群れが見えて、よかつたよ、よかつたね、という声が聞こえてきたのは、きっと女の子はモンシロチョウの妖精だったんだと思う。だから、松井さんに助けられて喜んでいる様子や、仲間とのモンシロチョウと再会で喜んでいる様子が書かれているんじゃないかなと思う。

この物語を読み終えて、どんなことが心に残っていますか。書いてみましょう。

・ モンシロチョウの妖精は、なんだか不思議な感じがするけど、モンシロチョウの話を通して、小さな生き物の命の大切さを感じた。それに、松井さんは大人なのに、モンシロチョウや男の子に対して優しいし、お母さん思いの方だった。そんな大人になりたいと思いました。



# 07

**題材名** 「図書館の達人になろう」（第1時／1時間）

**目標** 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技①）

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「図書館の達人になろう」を黒板に書く。 <留意> 図書館が無い環境の補習校は、「たくさんの本から読書に親しもう」という授業にならない。本時の目的は「読書に親しむ」ことである。そこで、教科書なら p58、p80、p104、p137 など、身近な本の中からその楽しさを感じられるようにする。ここでは、図書館の様子やシステム、工夫を想像し、話せるようにする。	
3分	②本時の目標を書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">図書館で必要な情報をさがそう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	②ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で読む
12分	③「たくさんの本から必要な情報をさがしだせるようにするにはどう本を分けたらよいだろう」について考える。教科書の写真を見たり経験したことを基に考えたり想像したりさせる。 ○順番に並べる <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者、著者名 ・タイトル名など</li> </ul> ○分ける <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容・テーマ</li> <li>・物語、童話などの分野 など</li> </ul> ○取り上げる（ピックアップ） <ul style="list-style-type: none"> <li>・話題になっているかどうか など</li> </ul>	③どんなふうに分類されているかを考えて話す。そのとき、教科書の写真や経験したことを参考にして、根拠を示しながら話す。例「日本の学校に行ったときに、名前順に並んでいたのので探しやすかったから、タイトル順で並べるとみんなに役立つと思うよ」
20分	④自分ならどう分類するか考えさせ、発表させる 「自分の本がたくさんあったら探すのも大変だね。どうやっすぐに探せるようにするか考えよう」または「（高度であるが）p137～p139をどうやって分けて並べるか考えてみよう」	④自分の考えに友だちの考えの良いところを加えて考え、ワークシートに考えを書く。
6分	⑤今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">典・成・訓・類・順</div> （20字目／202字中）	⑤筆順、「とめ・はね・はらい」を意識して練習する
2分	⑥次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

・日本では図書館司書が本を探してくれたり、子どもたち同士で本を選んだりすることが多い。本の選び方のノウハウを知ることがねらいでないことを再確認したい。

# 07

題材名 「図書館の達人になろう」(第1時/1時間)

目標 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技①)

領域等 知識・技能

① 題材名「図書館の達人になろう」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

「図書館で必要な情報をさがそう。」

・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

③ 「たくさんの本から必要な情報をさがしだせるようにするにはどう本を分けたらよいだろう」について考える。教科書の写真を見たり経験したことを基に考えたり想像したりさせる。

⑤ 今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

## 板書例

図書館の達人になろう

図書館で必要な情報をさがそう。

◎ 図書館ってどんなところ

- ・本がたくさんある
- ・コンピュータ↑何のため
- ・本に番号

◎ 本をさがしやすくするくふう

- ・ラベル
- ・しよukaiコーナー

↓ 「分ける」

◎ 自分ならどう分ける

- ・順番にならべる
- ・分ける
- ・取り上げる

☆ 今週の漢字

字をきれいに見せるポイント

- ☆ ひつじゅん
- ☆ とめ・はね・はらい

<日本の図書館を知らない子への手だて>

- 教科書の写真からイメージさせる。本屋や地元の図書館から想像させる。
- 「本を楽しみ、読書に親しむ」ことがねらいなので、図書館のシステムを知ることが目的でない。ねらいに近づけるように導く。

⑥ 次時の予告をする。

「次の時間は、『漢字の組み立て』を学習します。」

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましよう)

--

本をどう分けたら探しやすいか考えよう

--

自分ならどうわかるかな

--

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

### 図書館で必要な情報をさがそう。

本をどう分けたら探しやすいか考えよう

- 順番に並べる
- ・ 筆者、著者名 ・ タイトル名など
- 分ける
- ・ 内容・テーマ
- ・ 物語、童話などの分野 など
- 取り上げる(ピックアップ)
- ・ 話題になっているかどうか など

自分ならどうわけけるかな

「ぼくなら、タイトル順になります。探しやすいし、本を返すときにわかりやすいからです。」のように、考えと理由を述べるようにする。

# 8

**題材名** 「漢字の組み立て」 (第1時/全1時間)  
**目標** 漢字の組み立てについて理解する。  
**領域名** 伝統的な言葉文化と国語の特質に関する事項  
**学習の流れ**

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「漢字の組み立て」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">漢字がどのような部分からできているか考えよう</div> ・学習シートを配布し、目標を書き込ませる。	・教科書を用意する。 ・学習シートに目標を書き込む。
展開 25分	③ 教科書 32頁の上段の問題を解かせる。 ④ 冠の例を示し、提示された4種類の冠の意味を考えさせる。 ・上にかぶせるものを冠という。家のウ冠草、草の草冠などがある。 ⑤ 脚・によろ・垂・構えについてそれぞれの意味を考えさせる。	・問題を解きながら、漢字のつくりの学習の取り組みをとらえる。 ・ウ冠は建物に関するものであることに気づく。 ・竹冠は竹のようなものであることに気づく。 ・雨冠は雨に関するものであることに気づく。 ・下心は、気持ちに関するものであることに気づく。 ・れっかは火に関するものであることに気づく。 ・しんによろは道に関するものであることに気づく。 ・まだれは屋根や建物であることに気づく。 ・国構えは囲みめぐらす意味をつかむ。 ・門構えは物の入口を指すことをつかむ。
終末 15分	⑥ 既習の漢字から、ここに出てきた部分を持つ漢字を探す。 ⑦ 次回の学習の内容を伝える。 「漢字辞典の使い方」に入る。	・知っている漢字から当てはまる物を探す。

## 指導のポイント

- 部分の名称をつかませる。
  - ・かんむり、あし、によろ、たれ、かまえというカテゴリー名の意味を考えさせる。
- 漢字字典の使い方がわかる学習に力を入れる。
  - ・教科書に出てきた漢字以外にも、これらの部分を持つ漢字があることをクイズなどの漢字探しを通してとらえさせたい。

板書例

- ① 題材名「漢字の組み立て」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 教科書 32 頁上段 の課題に取り組む。

④ 冠の例を知り、提示された 4 種類の冠の意味を考える。

板書例

漢字の組み立て

漢字がどのような部分からできているか  
考えよう

問 ↓ 門 + 日  
悪 ↓ 亜 + 心  
宿 ↓ ウ冠 + イ + 百  
広 ↓ マダレ + ム  
道 ↓ 首 + しん + しよう

かんむり ・ くさかんむり  
・ うかんむり  
・ たけかんむり  
・ あめかんむり

あし  
・ ところ  
・ れんが (れっか)

によ  
・ しん + しよう

たれ  
・ まだれ

かまえ  
・ く + がまえ  
・ もん + がまえ

へん  
と  
つくり

⑤ 脚、によ、垂、構えについて、それぞれの意味を知る。

⑥ 次の学習の内容を伝える。  
『漢字辞典の使い方』



# 09

題材名 「漢字辞典の使い方」 (第1時/1時間)

目標 漢字辞書の使い方を理解し使うことができる。(知・技)

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「漢字辞書の使い方」を黒板に書く。	①「辞」「典」も初出であるので筆順を見る。
3分	②本時の目標を書かせる。声に出して読ませる。	②ワークシートに丁寧(1画を意識して中心線にまっすぐ)に書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で読む。
	漢字辞典の使い方を学ぼう。	
	・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	
3分	③p34 上段を読んで漢字辞典の使い方がわかるところに線を引かせ、ワークシートにまとめさせる。	③記入例「読み方、成り立ち、意味、使い方がわかる。組み立てている部分や画数を知ることができる」
4分	④p34 下段の「飛」を例に「読み方」「成り立ち」「意味」「使い方」を確認する。p34 最下段①～④を意味が理解できるようにゆっくり読ませる。	④文節を意識して、意味を理解しながらゆっくり読む
4分	⑤p35 上段「部首」を読んで、「部首」がわかるところに線を引き、ワークシートにまとめさせる。 ☆p32「漢字の組み立て」を参考にさせる。	⑤記入例「形の上で目じるしとするもの」
4分	⑥p35 下段「画数」を読んで、「画数」がわかるところに線を引き、ワークシートにまとめさせる。	⑥記入例「何画でその漢字を書くか」
3分	⑦p36 からの「音訓引き」「部首引き」「総画さくいん」を読む。児童は、「どんな時に使うかがわかるところに線を引き」ながら聞かせる。 ☆「総画さくいん」は、線を引かず、「画数で探す」と答えられるととても良い	⑦線の例 「音訓引き」；音か訓がわかっているとき(に使う) 「部首引き」；部首を手がかりにするとき(に使う)
14分	⑧p37 1の中から自分で選んで引く練習をさせる。 ☆漢字辞典に慣れていなかったり理解できない児童が多い場合、同じ漢字を決めて、みんなで確認したり教えあったりすると理解が深まる。	⑧「〇〇引き」で「△」を引くと宣言して、引いてみる。
6分	⑨今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。 愛・昨・城・覚・伝(25字目/202字中)	⑨筆順、「とめ・はね・はらい」を意識して練習する
2分	⑩次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・実際に漢字辞典を使って指導する。同じ辞典があるのが指導しやすいが、愛着を持たせるために自分のものを使わせるのもよい。
- ・わからない漢字が出てきたらその都度調べるようになるように導いていく。



# 09

題材名 「漢字辞典の使い方」(第1時/1時間)  
目 標 漢字辞書の使い方を理解し使うことができる。(知・技)  
領域等 知識・技能

① 題材名「漢字辞典の使い方」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
「漢字辞典の使い方を学ぼう」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

④～  
引き方の特徴を理解させ、自分にとってどれが、早く、楽に調べられるかを体験から選ばせる。

⑤ 今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

## 板書例

漢字辞典の使い方

漢字辞典の使い方を学ぼう

◎漢字辞典

- ・読み方、成り立ち、意味、使い方
- ・組み立てている部分、画数

◎読み方で探す ↓ 音訓さくいん (音訓引き)

◎部首で探す ↓ 部首さくいん (部首引き)

◎画数で探す ↓ 総画さくいん (総画引き)

☆自分のできそうな引き方で探す

☆今週の漢字

字をきれいに見せるポイント

- ☆ ひつじゅん
- ☆ とめ・はね・はらい

### <漢字辞典への抵抗がある子への手だて>

○「漢字辞典」は「漢和辞典」「漢字の辞書」など呼ばれるが、「漢和辞典」で統一しておく。このような言い方や「パソコンで調べればいい」など学習から遠ざからろうとする児童が見られる。「成り立ち(部首・画数)」を意識することで、字形を意識できるようになることを伝える。

⑩ 次時の予告をする。

「次の時間は、『春の楽しみ』を学習します。」

今日の学習(中心線を意識しして、ていねいに書きましよう)

--

部首とは

--

画数とは

--

漢字辞典で調べてみよう

--

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましよう)

## 漢字辞典の使い方を学ぼう

部首とは

形の上で目じるしとするもの

画数とは

何画で書くか

漢字辞典で調べてみよう

写…「音読み 訓読み 画数 部首」まで調べると教科書の引き方が網羅できる

# 10

**題材名** 「春の楽しみ」（第1時／1時間）【書く】

**目標** ◎言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。（知・技）

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	① 題材名「春の楽しみ」を黒板に書く。 【留意】「本単元は、積極的に語彙を豊かにし、行事を説明する文章を書こうとする」という【書く】単元であることを意識して指導する。	
2分	②p38 題名と最初の4行を読み、ここで学習することを線で引かせる。	②線で引く部分「春の行事と、その行事のかんたんな説明を書きましょう」
3分	③本時の目標を書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">春の行事やイメージを文章に書こう。</div> 【留意】日本の春をイメージを出し合って、「眼に浮かべられる」ようにする。 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	③ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
5分	④3月の別名が弥生4月卯月5月皐月を読んで、覚えさせる。 【留意】1分で覚える。漢字で書く必要はない。1年かけて全部覚えるように配置してあるので、ここでは3か月でよい。	④月の別名を覚える。
5分	⑤p38 右下の「大だこ祭り」を読む。それを参考に3月の行事「ひな祭り」の説明文をみんなで作らせる。 ・子どもに言葉を言わせ先生が黒板にまとめる ○記入例「3月のひな祭りにはひな人形をかざります。ひしもちやももの花もかざります。ちらしずしやはまぐりのおすいものを食べてお祝いします」	⑤大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で大だこ祭りを読む。ひな祭りの説明を絵を参考にして話す。
10分	⑥「大だこ祭り」と「ひな祭り」を例に自分で選んで、4月から5月の行事の紹介文を書かせる。	⑥記入例「四月にはさくらの花がさきます。花見のおだんごやさくらもちを食べてさくらの花を見ながら春を楽しみます。花びらが川に流れて、とてもきれいです。花いかだというそうです。」
5分	⑦書いた文章をみんなで読みあい、良いところを伝えあわせる。	
10分	⑧時間があったら、春か3～5月にある自分の町の行事を紹介する文章を書かせる。	
2分	⑨次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・本単元は、「書く」単元である。途中、「大だこ祭り」を読む場面もあるが、4年生位では、何度か読むうちに暗唱できるようになる。暗唱は、リズム、アクセント、語彙を増やす意味でも有効である。「書く」ねらいからはそれと考えると考えがちだが取り入れたいところである。

# 10

題材名 「春の楽しみ」(第1時/1時間)

目標 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。(知・技)

領域等 B 書くこと

① 題材名「春の楽しみ」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

「春の行事やイメージを文章に書こう。」

・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

③ 別な読み方を覚えさせる

リズムカルに読ませて、覚えさせることを通して、日本語に興味をもたせる

⑥ 説明文を書く

「楽しみ」が条件であることを理解させることで、場に応じた文章を書く練習になる。

## 板書例

◎ 春の楽しみ」の説明文を書こう

◎ 『ひな祭り』の説明文

- ・ ひな人形
- ・ ひしもち
- ・ ももの花

↓ とくちよう ↓ 説明文

◎ 別名

- ・ 三月 ↓ やよい
- ・ 四月 ↓ うづき
- ・ 五月 ↓ さつき

春の楽しみ

春の行事やイメージを文章に書こう

<日本の春を知らない子への手だて>

○教科書の挿絵から読み取ったり、友達の話から想像させたりすることでイメージを膨らませる。

⑥ 次時の予告をする。

「次の時間は、『聞き取りメモのくふう』を学習します。」

今日の学習(中心線を意識<sup>しき</sup>して、ていねいに書きましよう)

--

ひな祭りの説明文を書きましよう

--

春の楽しみの説明文を書きましよう。

--

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

春の行事やイメージを文章に書こう。

ひな祭りの説明文を書きましょう

3月のひな祭りにはひな人形をかざります。ひしもちやももの花もかざります。ちらしずしやはまぐりのおすいものを食べてお祝いします

春の楽しみめの説明文を書きましょう

四月にはさくらの花がさきます。花見のおだんごやさくらもちを食べてさくらの花を見ながら春を楽しみます。花びらが川に流れて、とてもきれいです。花いかなだというそうです。

# 1 1

**題材名** 「聞き取りメモのくふう」（第1時／2時間）【話・聞】

**目標** 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉えることができる。（知・技）

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「聞き取りメモのくふう」を黒板に書く。	
2分	②p40 題名と最初の4行を読み、ここで学習することを線で引く。	②記入例「聞き取ったことを後から確かめたり、だれかに伝えたりするためのメモの取り方を考えてみましょう」
3分	③本時の目標を書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     大事なことを落とさずに聞き、メモを取るときにくふうを見つけよう                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	③ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
10分	④p41 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">1</span> を読んで、メモを取った経験を話させる。 ○友達の話をもとに付け足させる。	④話す例「学校で博物館見学をしたときメモを取ったよ」「私はその時に、説明が早すぎてメモできなかった」「書いたけど後から読んでも何の事だか分らなかったよ」…
3分	⑤子どもたちに p42「竹中さん」「北山さん」を見させながら、先生は p41 の□囲みを読む。二人のメモの特徴をメモさせる。	
7分	⑥2人のメモを比べ、「似ているところ・違うところ」を話させる。p9「くらべる」を参考にさせる。	⑥記入例「たて書き・横書き、かじょう書き、まとめて…」などキーワードを使いながら文章で話す。
10分	⑦自分がどちらのメモタイプかを決め、どうしてそう決めたかを話させる。	⑦記入例「私は竹中さんタイプ。それは…だから。でも、北山さんの…は取り入れたい」
6分	⑧今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。 説・好・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">印</span> ・要・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">的</span> （30字目／202字中）	⑧筆順、「とめ・はね・はらい」を意識して練習する。
2分	⑨次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・どんな話のメモを取らせるかが課題となる。いろいろなテーマでメモを取らせる学習も考えられるが、ここでは、p41を使い、良いメモにしていく（進化させていく）ことで学習を深める。



# 11

題材名 「聞き取りメモのくふう」(第1時/1時間)

目標 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉えることができる。(知・技)

領域等 A 話すこと・聞くこと

① 題材名「聞き取りメモのくふう」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

「大事なことを落とさずに聞き、メモを取るとき工夫を見つけよう」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

⑥ 竹中さんと北山さんのメモの特徴をあげさせ、似ているところと違うところを比べる。

⑧ 今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

## 板書例

聞き取りメモのくふう

大事なことを落とさずに聞き、メモを取るとき工夫を見つけよう

◎メモを取ったけいけん

・ 見学に行ったとき

・ 伝言をたのまれた

◎とくちよう

・ 竹中さん

↓

・ 北川さん

↓

◎くらべる

・ にているところ

↓

・ ちがうところ

☆今週の漢字

字をきれいにさせるポイント

☆ ひつじゅん

☆ とめ・はね・はらい

<メモをとったことのない子への手だて>

○見学や買い物などでメモを取ることが多いが、その経験がないとメモとは縁遠い。メモの良さを伝えるより、やってみる中で良さを感じ取らせるようにしたい。

⑨ 次時の予告をする。

「次の時間は、『聞き取りメモのくふう』の2時間目を学習します。」

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましよう)


竹中さんのとくちよう


北川さんのとくちよう


にているところ


ちがうところ


今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

大事なことを落とさずに聞き、メモをとるときのくふうをみつ  
けよう

竹中さんのとくちよう

- ・横書き
- ・線を使っている

北川さんのとくちよう

- ・箇条書き
- ・見出しをつけている

にているところ

- ・短くまとめている
- ・大切な言葉を使っている

ちがうところ

- ・まとめ方(文と箇条書き)
- ・短くする方法(記号と見出し)

# 12

**題材名** 「聞き取りメモのくふう」（第2時／2時間）【話・聞】

**目標** 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの手を捉えることができる。（知・技）

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「聞き取りメモのくふう」を黒板に書く。	
2分	②p41の□囲みを読んでメモをとる練習をすることを伝え、そのために、上手な話し方、聞き方を勉強することを伝える。	
3分	③本時の目標を書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">                     ③どんな話し方や聞き方が良いかを考えよう                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	③例「話をする人は表情が大事」「真面目な顔や笑顔を内容によって変えたいね」「声の大きさや速さも聞く人に合わせたいね」「聞くときも…」など友だちの考えに付け足していく
15分	④p44、45を読ませる。そこから、良い話し方、聞き方を考えさせる。 ☆10分位で読む。大切なところに線を引かせる。考えを発表できるようにしておく。 ○友だちの話を基に付け足させる。	
6分	⑤子どもたちに p42「竹中さん」「北山さん」を見させながら、先生は p41 の□囲みを読む。 再度、先生は p41 の□囲みを読む。2人のメモを参考に自分なりのメモをとらせる。	⑤どんなメモをとるかイメージをもってからメモをとる。
15分	⑥みんなのメモを見せ合い、良いところや工夫した点を出し合わせる。	⑥例「後から見ても話しての言いたいことがよくわかるメモだね」「かじょう書きにすることでポイントがつかみやすいね」「Aさんのメモをまねしたいな。メモを見るだけで話の内容がわかるよ」…
2分	⑧次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・本単元はメモを取ることを通して【話す・聞く】学習に活かすことが大切になる。ただ、見やすくわかりやすいメモを取ることを目的でなく、メモを通して話し手の言いたいことを再現したり、メモを活かして別の人に伝えたりすることを意識しながら学習を深めたい。子どもにもその部分を意識させて学習に取り組ませることで、「色分けされた」「見やすい」「きれいな字」などの見た目の良さが話の中心にならずに済む。

# 12

**題材名** 「聞き取りメモのくふう」（第2時／2時間）  
**目標** 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができる。（知・技）  
**領域等** A 話すこと・聞くこと

① 題材名「聞き取りメモのくふう」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
「どんな話し方や聞き方が良いかを考えよう」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

④ 良い話し方・聞き方と共に、良くない話し方・聞き方を聞いて、  
そうしないことで、良さを際立たせることも可能。とにかくたくさん話させる。

⑥ メモの工夫を話させる。

## 板書例

聞き取りメモのくふう

どんな話し方や聞き方が良いかを考えよう

◎話し方や聞き方  
・よい話し方  
↓

◎メモを取るときくふうしたこと  
・よい聞き方  
↓

. . .

<話すことが苦手な子への手だて>  
○この単元は「話す・聞く」がねらいである。話し手を育てることを大切にしがちだが、良い聞き手を育てることが大切であるp44を大切に指導したい。

⑧ 次時の予告をする。  
「次の時間は、『漢字の広場』の学習をします。」

聞き取りメモのくふう

四年 組

今日の学習(中心線を意識<sup>しぼ</sup>して、ていねいに書きましょう)

--

良い話し方・聞き方をメモしよう

よいところやくふうした点

--

今日の学習(中心線を意識<sup>しき</sup>して、ていねいに書きましよう)

どんな話し方や聞き方が良いかを考えよう。

良い話し方・聞き方をメモしよう。

○自分の考えをメモし、まとめてから話せるようにする。

話し方

・話す速さ ・間の取り方

聞き方

・話す人を見る ・うなずきながら聞く

よいところやくふうした点

○Aさんのメモがわかりやすい。メモを見ただけでどんな話かが分かる。それは、文字の大きさを変えて大切なことを：

# 13

**題材名** 「漢字の広場①」（第1時／1時間）【書く】

**目標** 第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技）

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「漢字の広場」を黒板に書く。 【留意】「本単元は、第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使う」という【書く】単元であることを意識して指導する。	
2分	②p46最初の2行を読み、ここで学習することを線で引かせる。	②線で引く部分「町やまわりの様子をしようかいする文章を書きましょう」
3分	③本時の目標を書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">漢字をたくさん使って町をしようかいしよう。</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	③ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
5分	④□で囲んである漢字を読ませる。 ☆「3年の漢字であるから読める」と決めつけず、読めたものをほめるようにして意欲を高める。	
5分	⑤出てくる漢字の読みを見なくても言えるように覚えることを伝え、先生の後について読ませる。読みながら覚えさせる。 【留意】アクセントに気を付けて読むようにする。覚えることで、漢字のリズムと日本語語彙を増やすことにつなげる。一般的に3分ですべて覚えられる。	⑤先生の後について漢字を読む。アクセントやリズムに気を付ける。
8分	⑥覚えた読みをひらがなでワークシートに書かせる。それを漢字に直すことを通して、漢字学習への意欲を駆り立てる。 【留意】漢字は書けたところまでにする。全部書かせて漢字嫌いをつくらないようにする。	⑥覚えたものをひらがなでワークシートに書く。それを漢字に直す。
8分	⑦出てくる漢字をできるだけたくさん使って町の様子を紹介する文を書かせる。書く前に何個の漢字を使えそうか宣言してから文章を書かせると意欲が増す。	⑦「7個使って文章を書けそうだ。がんばるよ」 記入例「ぼくのまちには曲がりくねった坂道がたくさんあります。その途中に県立図書館や放送局があります。…」
5分	⑧書いた文を紹介し合う。友だちがいくつの漢字を使ったかを数えさせるようにする。	
6分	⑨今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。 必・初・案・街・試（35字目／202字中）	⑨筆順、「とめ・はね・はらい」を意識して練習する
2分	⑩次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・ p46の「この町の住人になりきって」が条件であることに注目させるとブレがない。
- ・ 「漢字の広場」であるが、最初から漢字を多用することを求めず、後で調べてみたり、友達の文章を読んで、漢字に直したりするなど学習を広げていく。



# 13

題材名 「漢字の広場①」（第1時／1時間）

目標 第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技）

領域等 B 書くこと

① 題材名「漢字の広場①」を黒板に書く。

③ 本時の目標を児童に知らせる。

「漢字をたくさん使って町をしょうかいしよう。」

・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

⑤ 書かれている漢字を覚える。（3分）

新しい外国語の単語を3分で覚えるのと3語程度。みんなで全部覚えることは十分に可能。30人のクラスで3人ぐらいは全部覚

⑧ たくさんの漢字を使って町の様子を紹介する。ここに出てくる漢字にこだわる必要はない。あとで文を読み合い、楽しめると言葉への興味が高まる。

⑨ 今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

## 板書例

漢字の広場①

漢字をたくさん使って町をしょうかいしよう。

◎□でかこんである漢字を読む

- ・発音
- ・口をしっかりと開けて

◎出てくる言葉をおぼえる

↓ みんなで全部言えるように

◎おぼえた言葉を書く

- ・漢字なら◎
- ・ひらがななら○
- ・一部でも△

↓ 漢字に直す

◎町の様子書く。

☆今週の漢字

字をきれいに見せるポイント

- ☆ ひつじゅん
- ☆ とめ・はね・はらい

<漢字への苦手意識がある子への手だて>

○漢字は書けなくてもICTが補ってくれる世の中になった。書けなくても読めなくても大丈夫程度の意識をもって無理やり指導することは控える。しかし、漢字は文化であり、書けたり読めたりすることは世界を広げる。あきらめたり逃げたりしないようにゆっくり導き、子ども自身で自分の世界を広げられるようにする。

⑩ 次時の予告をする。「次の時間は、『アップとルーズで伝える』を学習します。」

漢字の広場①

四年 組

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>して、ていねいに書きましよう)

--

覚えた言葉をできるだけ漢字で書こう

--

何個ぐらい漢字を使えそうかな。

--

個は使ってみたい

街の様子をできるだけ漢字を使って書こう

--

--

個の漢字を使えたよ

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

漢字をたくさん使って町をしようかいしよう。

覚えた言葉をできるだけ漢字で書こう

- ① 覚えた漢字を漢字で書く。
- ② 漢字で書けない場合、ひらがなで書く。その後、調べて漢字に直す。

例 美化

短い

さむい↓寒い

何個ぐらい漢字を使いそうかな。

3

個は使ってみたい

街の様子をできるだけ漢字を使って書こう

ぼくのまちには曲がりくねった坂道がたくさんあります。その途中に県立図書館や放送局があります。：

3

個の漢字を使ったよ

# 14

**題材名** 「思いやりのデザイン」 (第1時/全1時間)

- 目標**
- ・各段落が、文章の中でどのような役割を果たしているかを理解できる。
  - ・自分の考えを説明するために、二つの例を対比する文章を理解させる。

**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 全文を読んで、各段落の内容をつかませる。 ・各段落の内容について書かせる。	・段落ごとのおおまかな内容を書く。
展開 35分	② ①の段落には、どんな話題が示されているか考えさせる。 ③ ②の段落と同じことを書いている段落を、さがさせる。 ・意味段落は、「初め」「中」「終わり」でまとめられる。 ④ ③と④の段落は、二つの案内図を対比しています。くらべてわかるのはどんなことか考えさせる。 ・Aの案内図の長所(利点)と短所(欠点)を考えさせる。 ・Bの案内図の長所(利点)と短所(欠点)を考えさせる。	・この文章の話題を見いだす。 ・筆者の伝えたいことを考える。 ・二つの案内図を比べて、長所と短所を考える。
終末 5分	⑤ 筆者の考え方について考えさせる。 ・自分が何かを伝えるときのことを思い出させる。	・筆者の考え方について考える ・自分も筆者と同じように、何かを伝えるときに対比することはなかったか思い出す。

## 指導のポイント

- 各形式段落の内容をつかみ全文をまとめるので、意味段落をしっかり分ける。
- 物事を対比して考えることで、相手にわかりやすく伝えられることを理解させる。

# 板書例

① 各段落のおおまかな内容をつかませる。

- ② ①の段落には、どんな話題が示されているか考えさせる。
- ③ ②の段落と同じことを書いている段落を、さがさせる。
  - ・意味段落は、「初め」「中」「終わり」でまとめられる。
- ④ ③と④の段落は、二つの案内図を対比しています。くらべてわかるのはどんなことか考えさせる。
  - ・Aの案内図の長所（利点）と短所（欠点）を考えさせる。
  - ・Bの案内図の長所（利点）と短所（欠点）を考えさせる。

## 板書例

筆者の考え方について	B	A	
			長所
			短所

⑤ ④ ③ ② ①

思いやりのデザイン

五つの段落には、どんなことが書かれているでしょうか

⑤筆者の考え方について考えさせる。自分も同じように考えることがあったか考えさせる。

# 思いやりのデザイン

四年 組 氏名 ( )

- ① 五つの段落には、どんなことが書かれていますか。
- ②
- ③
- ④
- ⑤

二

	A	B
長所		
短所		

三 筆者の考えについてどう考えますか

# 思いやりのデザイーン

四年 組 氏名 ( )

一 五つの段落には、どんなことが書かれていますか。

- ① インフォグラフィックスの説明
- ② インフォグラフィックスの作者、  
作る時には相手の立場を考える
- ③ Aの案内図の特徴
- ④ Bの案内図の特徴
- ⑤ インフォグラフィックスを作るときは相手の目的にあわせる

二

	長所	短所
A	どこにどんな建物があるかわかる 多くの人に役立つ	目的地が決まっている人は迷ってしまう
B	目的知が決まっていると見やすい	町全体の様子はわからない

三 筆者の考え方についてどう考えますか

ちがう相手の立場に立って考えている  
対比してわかりやすく説明している

# 15

**題材名** 「アップとルーズで伝える」(第1時/全1時間)

- 目標**
- ・各段落が、文章の中でどのような役割を果たしているかを理解できる。
  - ・アップとルーズのそれぞれの特徴をとらえ、目的に応じた伝え方について考えられる。

**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 各段落の内容をつかみ、全文をまとめよう。 ・段落ごとに内容をつかむことを知らせる。 ・8段落に、一～八の番号をつけさせる。 ・各段落の内容について考えさせる	・段落ごとに内容をつかむ。 ・番号をつける
展開 35分	② アップとルーズとでは、どんな違いがあるか。 ・アップの長所(利点)と短所(欠点)を考えさせる。 ・ルーズの長所(利点)と短所(欠点)を考えさせる。 ③ アップとルーズが、「伝えられること」と「つたえられないこと」を分けてまとめるようにさせる。 ・新聞での工夫(目的にいちばん合うものを選んで使うことに着目させる。)	・長所、短所を考える。 ・広告の宣伝文を思い出してから考える。 ・持ってきた新聞を使って、考えてみる。
	④ 全文を三つの意味段落に分けさせ、そこで三・六・八の形式段落に注目させながらまとめさせる。	・意味段落をまとめる。
	⑤ 自分の意見を交えて、考えをまとめさせる。	・自分の意見をまとめる。
終末 5分	⑥ 新出漢字の確認 次に学習することを予告する。	

## 指導のポイント

- 接続語に注意しながら各段落の内容をつかみ全文をまとめるので、形式段落をしっかりと分ける。
- アップとルーズに関わらず、物事には長所(利点)と短所(欠点)があることを考えさせる。



板書例

①教科書の写真に番号を記入したり、形式段落にも番号を記入したりしてわかりやすくした上で内容を理解していくとよい。

②アップ (close-up : 大写し) については多くの児童が耳にしていると思われる。ルーズ(loose)については、アップから連想させるとよい。

④段落ごとに内容をつかむために、三つの大段落にまとめて考えるようにするとよい。

板書例

・・・

意味段落

新聞での工夫

ルーズ	アップ	
		長所
		短所

段落 (内容)

一〜八 段落 (番号付け)

各段落の内容をつかみ、全文をまとめよう。

「アップとルーズで伝える」

⑤段落ごとに内容をつかんだ上で、必ず自分の考えをまとめに加えるようにするとよい。

・新出漢字や既習漢字の組み合わせの学習のために、プリントを用意するとよい。  
⑥次時の学習の内容を伝える。





# 16

**題材名** 「カンジューはかせの都道府県の旅1」（第1時／1時間）

**目標** 第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技）

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「カンジューはかせの都道府県の旅1」を黒板に書く。	
2分	②p60 最初の2行を読み、ここで学習することを線で引く。	②例「都道府県名を使った分を書きましょう」
3分	③本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">県名を使った文を書こう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	③ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で読む。
12分	④6つずつ分を読んで、内容を覚えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生が①～⑥まで読む→先生の後に続いて声を出して読む→一人で読む→「内容を覚えましたか。次に行きます」</li> <li>・同様の活動を⑦～、⑬～、⑲～に分けて繰り返す。</li> </ul>	④大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で読む。
10分	⑤2人組になって問題を出し合わせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・読むほうもできるだけ教科書を見ないようにさせる。</li> <li>・「リンゴが特産品の県は」などのように文を再構成させる。</li> <li>・答えを漢字で書かせる。わからない場合、ひらがな（ローマ字）で書き、後で漢字に直させる。</li> </ul>	⑤例 ×「わんこそばで有名なのは埼玉県である。○か×か」 ○「わんこそばで有名なのは何県ですか」「いわてけん→岩手県」
13分	⑥p60 上段の地図だけ見えるように他を隠し、先生が番号を言っ てるその県の内容を文章に書かせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生「③の県を紹介してください」→子ども「③は岩手県で、わんこそばが有名です」                （「何県」と聞いても「都」「道」であることもあるルールであることを知らせる）</li> <li>・友達と問題を出し合うことも良い活動である。</li> </ul>	
3分	⑦次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・「北」「海」「道」のように、県名以外でも頻繁に使う感じで都道府県名が成り立っているところもあれば、「岐」「阜」の「阜」の字のように、ほとんど使われない字もある。子どもは、「使わないから覚えない」といいがちである。「○○さんの友達が住んでいる」など関係性で身近なものにしたい。覚えさせるにあたっては、「関係性」「そのもので覚える」「追うのつくりと十の組み合わせなどの成り立ち」で覚えることができる。子どもに合わせた指導をしたい。
- ・4年生の社会科で県名を覚える。これと関連して、県名を漢字で書く単元である。社会科で、白地図に県名を書き込ませたり、色塗りをして位置を覚えさせたりと苦勞して指導している。教えて終わりではなく、通年で指導し覚えさせたい。

# 16

**題材名** 「カンジーはかせの都道府県の旅1」（第1時／1時間）  
**目標** 第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技）  
**領域等** 知識・理解

① 題材名「カンジーはかせの都道府県の旅1」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
「県名を使った文を書こう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

④ 覚えることも大切だが、言葉のリズムが体感させる。また、知らない都道府県を身近なものにする。

⑤ 問題を出し合う。ヒントも重要な学習。「青森」と答えず、「青森県」と答えさせる。

⑥ 位置と名前と漢字が一致するようにワークシートに書かせる。

## 板書例

カンジーはかせの都道府県の旅1

県名を使った文を書こう。

◎問題を出し合う  
方法  
A 「りんごが特産品の県」  
B 「北海道」 A 「ざんねん」  
A 「ヒントです。青森県か、岩手県か、宮城県のどこかです」・

◎先生問題  
方法  
・ 地図だけ見る  
・ 「何県」↓「北海道」「東京都」もあり

### < 県名に興味のない子への手だて >

○見たことがない、行ったことがないところへの興味は薄い。続けていくうちに覚える楽しさを感じられるよう、九九のように「何個覚えた」とか「○○県には友達が住んでいる」のように関係性などで意識化させる。

⑧ 次時の予告をする。

「次の時間は、『お礼の気持ちを伝えよう』を学習します。」

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

--

友達が出した問題の答え

--

先生が出した問題の答え

--

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

県名を使った文を書こう。

友達が出した問題の答え

答えをメモするために使う。漢字で書けない場合は  
ひらがなで書き、後で調べて、漢字にする。  
○北海道  
○富山県  
○かながわ県↓神奈川県

先生が出した問題の答え

答えをメモするために使う。漢字で書けない場合は  
ひらがなで書き、後で調べて、漢字にする。  
○北海道  
○富山県  
○かながわ県↓神奈川県

# 17

**題材名** 「お礼の気持ちを伝えよう」（第1時／2時間）

**目標** 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。（思・判・表）

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「お礼の気持ちを伝えよう」を黒板に書く。	
2分	②p62最初の4行を読み、ここで学習することを線で引く。	②例「お世話になった方に、手紙でお礼の気持ちを伝えましょう」
3分	③本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">           気持ちが伝わる手紙を書こう         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	③ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で読む。
15分	④1を読んで、だれに、何のお礼を伝えるかを決めさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校生活をふりかえって」とあるが、それに限らない。目的意識をもたせることで「気持ちが伝わる手紙」になる。「だれに」「何のお礼か」をしっかり決めることが重要。だからと言ってここで迷っていると先に進まない。「自分がピンチの時、ドラえもんに道具を出してもらったお礼の手紙を書こう」など、スチュエーションを提示するのも一案。</li> </ul>	④例「校長先生に」「遠足で転んだ時に優しく言葉をかけてくれたお礼を手紙で伝える」
10分	④2を読んで下段にある「手紙の型」を確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・p64の例文でも「手紙の型」を確認させる。</li> </ul>	
15分	⑤手紙の下書きをする。	
6分	⑥今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。 柄・群・埼・潟・井（45字目／202字中）	⑥筆順、「とめ・はね・はらい」を意識して練習する
2分	⑦次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・行事を行った時に感想を書いたり、講師にお礼の手紙を書いたりすることが多い。同じような内容の手紙を30通も読む講師はたまらない。だから、個性を出すためにも「気持ちをこめた」手紙であることが求められる。そして、ていねいな字で書くことも大切となる。
- ・手紙を書くことが目的なので、お礼でなくてもよい。



# 17

**題材名** 「お礼の気持ちを伝えよう」（第1時／2時間）  
**目標** 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。（思・判・表）  
**領域等** B 書くこと

① 題材名「お礼の気持ちを伝えよう」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
「気持ちが伝わる手紙を書こう」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

④ 形式的な形であるが、どこにでも通じる形である。覚えておくにこしたことはない。

⑥ 今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

## 板書例

お礼の気持ちを伝えよう

気持ちが伝わる手紙を書こう。

◎お礼の気持ちを伝える

- ・だれに
- ・何の

◎手紙の型

- ・初めのあいさつ
- ・本文
- ・むすびのあいさつ
- ・後づけ

◎下書きをする

↓気持ちが伝わるように

☆今週の漢字

字をきれいに見せるポイント

- ☆ ひつじゅん
- ☆ とめ・はね・はらい

<手紙は書かないという子への手だて>

○IT機器の普及で手紙を書くことが少なくなった。しかし、手紙を書かざるを得ない状況になってから準備するのでは遅い。その意義を子どもに十分に理解させる。「日本の知り合いに送ったら喜ぶよ」では説得力に欠ける。常識の範ちゅうであることを理解させたい。

⑦次時の予告をする。

「次の時間は、『お礼の気持ちを伝えよう』の続きの学習します。」

お礼の気持ちを伝えよう

四年 組

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましよう)

--

だれに書こうかな

--

何のお礼を書こうかな

--

手紙の下書きをしよう

--



お礼の気持ちを伝えよう

四年 組

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましよう)

気持ちが伝わる手紙を書こう。

だれに書こうかな

校長先生に書く

何のお礼を書こうかな

遠足で転んだ時に優しく言葉をかけてくれたお礼を手紙で伝える

手紙の下書きをしよう

校長先生  
6月のクエンカ遠足のときのこと、校長先生にお礼を伝えたいと思  
います。:

# 18

**題材名** 「お礼の気持ちを伝えよう」（第2時／2時間）

**目標** 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表）

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「お礼の気持ちを伝えよう」を黒板に書く。	
3分	②本時の目標を黒板に書く。	
10分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">           気持ちが伝わる手紙を書こう。         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	④例「校長先生に」「遠足で転んだ時に優しい言葉をかけてくれたお礼を手紙で伝える」
10分	③手紙の下書きをさせる。	
10分	④p64最後の2行やp65下段「たいせつ」を読ませ、手紙を直させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・読みやすい字か</li> <li>・気持ちがこもっているか</li> <li>・字にまちがいがいないか</li> <li>・ていねいな言葉をつかっているか</li> </ul>	
10分	⑤清書をさせる。	⑤1画を意識して中心線にまっすぐに書く。
7分	⑥手紙を読みあってよいところを認め合わせる。	
2分	⑦次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・手紙はプライベートなものだから、読みあうことを嫌う場合は無理強いしない。
- ・「手紙を出す」ところまでもっていきたいが、ドラえもんなど架空の相手に書いた場合は難しいので、保護者など褒めてもらえる人に渡して成果を認めてもらえるように計らう。

# 18

題材名 「お礼の気持ちを伝えよう」（第2時／2時間）  
目標 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表）  
領域等 B 書くこと

① 題材名「お礼の気持ちを伝えよう」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
「気持ちが伝わる手紙を書こう」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

④ 言葉づかいや助詞（て・に・を・は）などを正しく使っているかに気をつけさせたい。

## 板書例

お礼の気持ちを伝えよう

気持ちが伝わる手紙を書こう。

◎下書きをする  
↓ 気持ちが伝わるように

◎読み返して直す  
・字に間違いがないか  
・ていねいな言葉をつかっているか

◎清書をする  
↓ 読みやすい字で気持ちが伝わるように

### <字をきれいに書けないという子への手だて>

○字がきれいであることは、パソコン等で文章を作るようになった今でも、価値がある。そのため、字がきれいでないことに劣等感を抱く子どもも多い。きれいに書けることに越したことはないが、大切なことは「ていねいに」書くことである。一画一画丁寧に書くとみられる字になる。4年生までは時間がかかっても、ゆっくりていねいに字を書かせたい。

⑦ 次時の予告をする。

「次の時間は、『漢字の広場』学習します。」

お礼の気持ちを伝えよう

四年 組

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

気持ちが伝わる手紙を書こう。

手紙の下書きをしよう

前時に使ったワークシートに書いた「下書き」に引き続き  
た文章を書かせる。

清書をしよう

前時と本時の下書きを校正しながら清書をする。

お礼の気持ちを伝えよう

四年 組

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

気持ちが伝わる手紙を書こう。

手紙の下書きをしよう

前時に使ったワークシートに書いた「下書き」に引き続き  
た文章を書かせる。

清書をしよう

前時と本時の下書きを校正しながら清書をする。



# 19

**題材名** 「漢字の広場②」（第1時／1時間）【書く】

**目標** 第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技）

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「漢字の広場」を黒板に書く。 【留意】「本単元は、第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使う」という【書く】単元であることを意識して指導する。	
2分	②p66最初の2行を読み、ここで学習することを線で引く。	②線で引く部分「夏の楽しみを文章に書きましょう」
3分	③本時の目標を書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">夏の楽しみを文章に書こう。</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	③ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
5分	④□で囲んである漢字を読ませる。 ☆「3年の漢字であるから読める」と決めつけず、読めたものをほめるようにして意欲を高める。	
5分	⑤出てくる漢字の読みを見なくても言えるように覚えることを伝え、先生の後について読ませる。読みながら覚えさせる。 【留意】アクセントに気を付けて読むようにする。覚えることで、漢字のリズムと日本語語彙を増やすことにつなげる。一般的に3分ですべて覚えられる。	⑤先生の後について漢字を読む。アクセントやリズムに気を付ける。
7分	⑥覚えた読みをひらがなでワークシートに書かせる。それを漢字に直すことを通して、漢字学習への意欲を駆り立てさせる。 【留意】漢字は書けたところまでにする。全部書かせて漢字嫌いをつくらないようにする。	⑥覚えたものをひらがなでワークシートに書く。それを漢字に直す。
8分	⑦出てくる漢字をできるだけたくさん使って夏の楽しみを書かせる。書く前に何個の漢字を使えそうか宣言してから文章を書かせると意欲が増す。	⑦「7個使って文章を書けそうだ。がんばるよ」 記入例「夏の暑さにはまいます。息つきをしながら泳ぐ練習を…」
5分	⑧書いた文を読み直して、正しく伝わるかを確認させる。 【留意】この場合の「正しく伝わる」は、「主語・述語のつながり」「句読点」に留意することであるが、この言葉を子どもに伝えないことでスムーズに学習が進む。友だちと読みあっても良い。	
6分	⑨今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。 梨・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">岡</span> ・茨・奈・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">富</span> （50字目／202字中）	⑨筆順、「とめ・はね・はらい」を意識して練習する
2分	⑩次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・ p66の「それぞれの人になったつもりで」が条件であることに注目させるとブレがない
- ・ 「漢字の広場」であるが、最初から漢字を多用することを求めず、後で調べてみたり、友達の文章を読んでみたりすることで、漢字に直してあげるなど学習を広げていく。

# 19

題材名 「漢字の広場②」（第1時／1時間）

目 標 第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技）

領域等 B 書くこと

① 題材名「漢字の広場②」を黒板に書く。

③ 本時の目標を児童に知らせる。

「夏の楽しみを文章に書こう」

・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

⑤ 書かれている漢字を覚える。（3分）

新しい外国語の単語を3分で覚えるのと3語程度。みんなで全部覚えることは十分に可能。30人のクラスで3人ぐらいは全部覚

⑧ たくさんの漢字を使って夏の楽しみを書く。ここに出てくる漢字にこだわる必要はない。あとで文を読み合い、楽しめると言葉への興味が高まる。

⑨ 今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

## 板書例

漢字の広場②

夏の楽しみを文章に書こう。

◎ □でかこんである漢字を読む

- ・ 発音
- ・ 口をしっかりと開けて

◎ 出てくる言葉をおぼえる

↓ みんなで全部言えるように

3分

◎ おぼえた言葉を書く

- ・ 漢字なら◎
- ・ ひらがななら○ ↓ 漢字に直す
- ・ 一部でも△

◎ 夏の楽しみを書く。

☆ 今週の漢字

字をきれいにさせるポイント

- ☆ ひつじゅん
- ☆ とめ・はね・はらい

### < 漢字への苦手意識がある子への手だて >

○ 漢字は書けなくてもICTが補ってくれる世の中になった。書けなくても読めなくても大丈夫程度の意識をもって無理やり指導することは控える。しかし、漢字は文化であり、書けたり読めたりすることは世界を広げる。あきらめたり逃げたりしないようにゆっくり導き、子ども自身で自分の世界を広げられるようにする。

⑥ 次時の予告をする。「次の時間は、『一つの花』を学習します。」

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>して、ていねいに書きましよう)

--

覚えた言葉をできるだけ漢字で書こう

--

何個ぐらい漢字を使えそうかな。

--

個は使ってみたい

夏の楽しみをできるだけ漢字を使って書こう

--

--

個の漢字を使えたよ



今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましょう)

夏の楽しみを文章に書こう。

覚えた言葉をできるだけ漢字で書こう

- ① 覚えた漢字を漢字で書く。
- ② 漢字で書けない場合、ひらがなで書く。その後、調べて漢字に直す。

例 美化

短い

さむい↓寒い

何個ぐらい漢字を使えそうかな。

4

個は使ってみたい

夏の楽しみをできるだけ漢字を使って書こう

夏の暑さにはまいます。息つきをしながら泳ぐ練習を…

7

個の漢字を使えたよ

## 20

**題材名** 「一つの花」(第1時/全2時間)

- 目標**
- ・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化情景などについて、叙述を基に想像して読む。
  - ・書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合う。

**領域名** C 読むこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「一つの花」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">物語を一読し、登場人物や時代背景などを確認し、人物の気持ちや世の中の様子を読み取ろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習シートを配布し、目標を書き込ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を用意する。</li> <li>・学習シートに目標を書き込む。</li> </ul>
展開 25分	③ 物語を一読させ、感じたことをワークシートに書き込ませる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物や時代背景、場所などを文中の語句から読み取らせる。</li> </ul> ④ 登場人物の気持ちや世の中の様子を、文中の語句から読み取らせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語を一読する。段落に番号を書きながら読み進める。</li> <li>・登場人物などを読み取る。</li> <li>・物語の文中から気持ちを表す言葉を見つけ出したり、挿絵などから感じたことを発表する。</li> </ul>
終末 15分	⑤ 戦争中と戦争後の場面を比べさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最後の場面に「一つだけ」という言葉が出てこない理由を考えさせる。</li> </ul> ⑥ 次回の学習の内容を伝える。 「なぜ一つの花という題がついているのか」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面の入れ替わりを読み取り、ゆみ子の心の成長を読み取る。</li> </ul>

### 指導のポイント

- 次のような言語活動を通して読むことの能力を育てたい。
  - ・物語や詩を読み、感想を述べあうこと。
  - ・紹介したい本を取り上げて説明すること。
  - ・必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。

板書例

①題材名「一つの花」を黒板に書く。  
 ②本時の目標を児童に知らせる。  
 ・ワークシートを配布し、めあてを書き込

③教科書を一読する。登場人物・場面の時代背景・場所などについて確認する。

④登場人物の気持ちや世の中の様子、出来事を読み取る。

板書例

一つの花		
物語を一読し、登場人物や時代背景などを確認し、人物の気持ちや世の中の様子を読み取ろう。		
感想		
登場人物		
・ゆみ子（2，3歳）12歳、13歳） ・お母さん・お父さん		
時代背景		
・日本が戦争の激しかった頃と戦後		
場所		
・町 ・駅のプラットフォーム		
	登場人物	
	気持ち	
	世の中の様子	
戦争中・・・軍歌、兵隊、防空頭巾、ぼくだん 戦争後・・・コスモスのトンネル、お肉とお魚 スキップ ミシンの音		

⑤戦争中と戦後の場面を比べる。

⑥次回の学習の内容を伝える。  
 「なぜ一つの花という題がついているのか」

# 一つの花

1

4年組 氏名 ( )

目標

--

一読した後の感想を書きましょう。

--

登場人物	人物の気持ち	世の中の様子や出来事

戦争中と戦争後の、それぞれの特徴を養う言葉を文中から見つけましょう。また、「一  
つだけちようだい」が戦争後に出てこないわけを考えましょう。

戦争中	戦争後



# 一つの花 1

4年 組 氏名 ( )

目標 物語を一読し、登場人物や時代背景などを確認し、人物の気持ちや世の中の様子を読み取ろう。

一読した後の感想を書きましょう。

登場人物	人物の気持ち	世の中の様子や出来事
例 ゆみ子	<ul style="list-style-type: none"> <li>はつきり覚えた最初の言葉↓一つだけちょうだい (戦争中の厳しさが分からない幼児期)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>たくさんものがない時期</li> </ul>
お母さん	<ul style="list-style-type: none"> <li>一つだけよと自分の分から一つ (自分を犠牲にしてまで子を思う母)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ものを大切にしている</li> </ul>
お父さん	<ul style="list-style-type: none"> <li>めちやくちやに高い高い (それしか娘を満足させることができない)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代のようにおもちゃもない。</li> </ul>
お母さん	<ul style="list-style-type: none"> <li>お父さんにゆみ子の泣き顔を見せたくなかった (戦争向かう夫への想い)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>厳しい、最後の別れになるときに涙なんて許されない</li> </ul>
お父さん	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなおにぎりをおやりよ (自分を犠牲にしてまで子を思う父)</li> </ul>	

戦争中と戦争後の、それぞれの特徴を表す言葉を文中から見つけましょう。また、「一つだけちょうだい」が戦争後に出てこないわけを考えましょう。

戦争中	戦争後
軍歌、兵隊、防空頭巾、ばくだん、はいきゅう	コスモスのトンネル、お肉とお魚、スキップ、ミシンの音

## 21

**題材名** 「一つの花」(第2時/全2時間)

- 目標**
- ・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化情景などについて、叙述を基に想像して読む。
  - ・書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合う。

**領域名** C 読むこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「一つの花」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             戦争後の文中には、「一つだけ」という言葉が出てこない理由を考えよう           </div> ・学習シートを配布し、目標を書き込ませる。	・教科書を用意する。 ・学習シートに目標を書き込む。
展開 25分	③ 戦争後には「一つだけ」という言葉が出てこない。その理由を考えさせる。 ・物の豊かさという視点から、戦争中と戦争後を比較し、文中の言葉を使って比べさせ、一つだけという言葉の意味を探る。 ④ 一つの花を紹介する文を書かせる。 何に着目して紹介するか考えさせる。 ・親の、子どもへの思い ・戦争の中で生きるということ ・十年という歳月	・文中の言葉から、戦争中と戦争後を特徴づける言葉を探す中で、一つだけという言葉の意味を考える。 ・紹介するときに、はじめと結びを考えてから内容をまとめていく。①
終末 15分	⑤ 使う言葉によって伝わる様子が違ってくこと例題を用いて理解させる。 ・教科書の例題を用いる。 ⑥ 次回の学習の内容を伝える。 「つなぎ言葉のはたらきを知ろう」に入る。	・副詞の種類を覚え、その内容を学び、文意に大きく関わってくることを知る。

### 指導のポイント

- 次のような言語活動を通して読むことの能力を育てたい。
  - ・物語や詩を読み、感想を述べあう。
  - ・紹介したい本を取り上げて説明する。
  - ・必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読む。

板書例

①題材名「一つの花」を黒板に書く。  
②本時の目標を児童に知らせる。  
・ワークシートを配布し、めあてを書き込ませる。

③戦争後には「一つだけ」という言葉が出てこない。  
その理由を考える。

④「一つの花」を紹介する文を書く。  
はじめと結びの部分を考える。

板書例

一つの花	戦争後の文中には、「一つだけ」という言葉が出てこない理由を考えよう。	物の豊かさについて、戦争中と戦争後を比較	戦争中 ・ はっきり覚えた最初の言葉↓ 一つだけちようだい	物が無い ・ 配給 ・ いつもお腹をすかしていた	戦争後 ・ お肉とお魚どっちがいい↓ ゆみ子がお昼を作る日 選択できる自由	豊か 一つだけとは…物のない厳しい状況を指す。 だからこそ、その一つの価値 が大きい。その一つに想いがこもる。	①とうとう泣き出した。 ②すぐに泣き出した。 ③間もなく泣き出した。 ①絶えず聞こえていた。 ②しばらく聞こえていた。 ③しばしば聞こえていた。
------	------------------------------------	----------------------	-------------------------------------	--------------------------------	--	--	---

⑤使う言葉によって、状況が変わってしまうことを例題を用いて理解する。

⑥次回の学習の内容を伝える。  
「つなぎ言葉のはたらきを知ろう」

# 一つの花

2

4年 組 氏名 ( )

目標

--

物の豊かさという視点で、戦争中と戦争後の特徴を表す言葉を文中から探しましょう。

戦争中	戦争後

「一つだけ」という言葉に込められる想いとは？自分の考えを書きましょう。

(題名にある一つの花の意味にせまる)

--

「一つの花」を紹介する際、どんなことに注目しますか。(親の、子どもへの思い、戦争の中で生きるということ、十年という歳月)

出だしの言葉

--

結びの言葉

--

状態を表す言葉 (副詞)

- ・ゆみ子は (とうとう・すぐに・まもなく) 泣き出した。
- ・ミシンの音が、 (たえず・しばらく・しばしば) 聞こえていた。

# 一つの花

2

4年組 氏名( )

目標 戦争後の文中には、「一つだけ」という言葉が出てこない理由を考えよう。

物の豊かさという視点で、戦争中と戦争後の特徴を表す言葉を文中から探しましょう。

戦争中	戦争後
<ul style="list-style-type: none"><li>はつきり覚えた最初の言葉→ 一つだけちようだい</li><li>配給</li><li>いつもお腹をすかしていた</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>お肉とお魚どつちがいい→ 選択できる自由</li><li>ゆみ子がお昼を作る日</li></ul>

「一つだけ」という言葉に込められる想いとは？自分の考えを書きましょう。  
(題名にある一つの花の意味にせまる)

一つだけとは…物のない厳しい状況を指す。だからこそ、その一つの価値が大きい。  
その一つに想いがこもる。

「一つの花」を紹介する際、どんなことに着目しますか。(親の、子どもへの思い、戦争の中で生きるということ、十年という歳月)

出だしの言葉

普段何気なく過ごしていて、一緒にいるのが当たり前としてとらえているのが両親の存在です。でも、この物語を読んで、考えが大きく変わりました。

結びの言葉

時代によって、身の回りにある物の質や量は違いますが、本当の豊かさって何なのかを自分なりに気がついたような気がします。これからもっと考えていきたいと思います。

状態を表す言葉(副詞)

- ゆみ子は(とうとう・すぐに・まもなく)泣き出した。
- ミシンの音が、(たえず・しばらく・しばしば)聞こえていた。

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

つなぎ言葉を使ってみよう。

つなぎ言葉を説明しよう

前の文と後ろの文のつなぎ方をはっきりさせる言葉

82ページ1から3つ選んで文の続きを書こう

- ① 明日は晴れるらしい。  
だから、運動会ができそうだ。  
しかし、最近、天気予報が当たらないから雨かもしれない。  
つまり、…

## 23

- 題材名** 「短歌・俳句に親しもう（一）」（第1時／全1時間）
- 目標** 短歌を声を出して読むことで、言葉の調子や響きに親しむことができる。  
 ◎ 積極的に言葉の調子やリズムに親しみ、覚えて言うことができる。
- 領域名** 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「短歌を楽しもう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を児童に知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px 0;">短歌や俳句を声に出して楽しもう</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。	・本時のめあてを知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 35分	③ 区切りを確認し、リズムを意識しながら、各自で俳句や短歌を繰り返し音読させる。 「声に出して読んでみましょう」 ・難読文字を確認する。 ④ おもしろいと感じる場所を発表しながら、風景や作者の気持ちを考えていく。 「おもしろいと思うところを発表しましょう」 「どんな風景や作者の気持ちが想像できますか」 ・日本の風景などの写真を用意すると想像しやすい。 ⑤ 好きなものを選び、音読したり暗唱したりする。 ⑥ グループで、自分が選んだ理由を話して、お互いに音読しあう。 「選んだ理由を言って、お互いに声に出して読んでみましょう」	・俳句や短歌を繰り返し声に出して読む。 ・おもしろいと感じる場所を自由に発表する。 ・風景や作者の気持ちを想像する。 ・好きな短歌を選んで、その理由を書く。 ・お互いに好きな短歌とその理由を発表しあう。
終末 5分	⑦ 本時の学習を確認させる。 「短歌・俳句を楽しく読んで、日本語のリズムを楽しむことができましたか」	・次時の見通しを持つ。

### 指導のポイント

- 日本の伝統文化に親しむ
  - ・何度も音読したり、暗唱することで、五七の調子や文語の響きに親しませる。
  - ・知っている言葉をてがかりにして、作者が描こうとした風景や思いを児童なりにつかませる。日本の風景を思い起こさせる写真などを準備するとよいだろう。

## 板書例

- ① 題材名「短歌・俳句に親しもう」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。

- ③ 区切りを確認し、リズムを意識しながら、各自で俳句や短歌を繰り返し音読させる。  
「声に出して読んでみましょう」
- ④ おもしろいと感じる場所を発表しながら、風景や作者の気持ちを考えていく。  
「おもしろいと思うところを発表しましょう」  
「どんな風景や作者の気持ちが想像できますか」
- ⑤ 好きなものを選び、音読したり暗唱したりする。
- ⑥ グループで、自分が選んだ理由を話して、お互いに音読しあう。  
「選んだ理由を言って、お互いに声に出して読んでみましょう」

### 板書例

短歌を楽しもう

短歌のことばの調子やひびきを楽しもう

岩ばしるたるみの上のさわらびの

もえいづる春になりにけるかも

きみがため春の野にいでてわかなつむ

わがころもでに雪はふりつつ

見わたせばやなぎさくらをこきませて

みやこぞ春のにしきなりける

名月や池をめぐりてよもすがら

夏かわをこすうれしきよ手にぞうり

すずめの子そこのけそこのけお馬が通る

二 おもしろいと思うところを発表しよう。

三 自分の好きな短歌とその理由

- ⑨ 本時の学習を確認させる。  
「短歌・俳句を楽しく読んで、日本語のリズムを楽しむことができましたか」



# 短歌・俳句に親しもう（一）

四年 組 氏名（ ）

今日の学習のめあて

一 声に出して読んでみましょう。

## ○短歌

岩ばしるたるみの上のさわらびの

もえいづる春になりにけるかも

きみがため春の野にいでてわかなつむ

わがころもでに雪はふりつつ

見わたせばやなぎさくらをこきまぜて

みやこぞ春のにしきなりける

## ○俳句

名月や池をめぐりてよもすがら

夏かわをこすうれしさよ手にぞうり

すずめの子そこのけそこのけお馬が通る

二 おもしろいと思うところを発表しよう。

三 自分の好きな短歌を選んでどこが好きかを書いてみよう。

## 24

題材名 「要約するとき」(第1時/1時間)【読む】

目 標 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。(思・判・表)

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「要約するとき」を黒板に書く。 【留意】要約を苦手とする子どもは少なくない。方法がわからないことを理由とするが、映画のあらすじや友達と遊んだことを家の人に伝えるなど生活の中で行っていることに気づいていないだけである。ここでは、理解を追いすぎず、表現できるよう、日常的な活動につながるよう心掛ける。	
2分	②p86下段を読み、ここで学習することを線で引く。	②線で引く部分「次のことに気をつけて要約しましょう」
3分	③本時の目標を黒板に書かせる。声に出して読ませる。 要約するとき気をつけることを確認しよう。 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	③ワークシートに丁寧(1画を意識して中心線にまっすぐ)に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
6分	④「要約」とは何か分かる文に線を引き、ワークシートにまとめさせる。	④線で引く部分「内容を短くまとめること」
10分	⑤説明する文章や意見文を要約するときに大切なことについて考えさせる。 ・教科書に書かれた2点。それ以外にも気をつけることを挙げるようにさせる。 ・P87上段の文章例を見て、大切なことに気をつけて要約されているか確認する。	⑤例「梅雨、スイカ割り、合宿、キャンプ、プール」
20分	⑥物語のあらすじを伝えるときに大切なことについて考えさせる。 ・知っている本の内容を要約して伝え合う。 ・教科書に書かれた2点。それ以外にも気をつけることを挙げるようにさせる。	
2分	⑦次時の予告をする。	

### 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・「どんな話でしたか」「簡単に言うとどうなの」「まとめて話してみても」と発問する。話したことが要約されていることを認めるようにする。

## 24

題材名 「要約するとき」(第1時/1時間)

目標 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。(思・判・表)

領域等 C 読むこと

① 題材名「要約するとき」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

「要約するとき気をつけることを確認しよう。」

・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

④長い文章を簡単に伝えることは、日常的に行っていることである。「要約」と構えることなく「短く」「わかりやすく」を意識させてまとめさせる。

### 板書例

要約するとき

要約するとき気をつけることを確認しよう。

◎要約  
↓内容を短くまとめること

- ・分量
- ・要約と意見を分ける

◎説明する文を要約する ↓「分ける」

- ・ラベル
- ・しよいかいコーナー

◎物語のあらすじを伝える  
あらすじ▶要約

#### <要約が苦手な子への手だて>

○「大切な言葉を挙げる」それを短くまとめる。要約は作業になることもある。しかし、わかりやすく、簡単に伝えることを入り口に要約を考えさせたい。わかりやすくするために「自分の意見を入れる」「文にない例を出す」など、原文から離れることだけは避けるように指導することで、案外簡単であると意識が変わる。

⑦次時の予告をする。

「次の時間は、『新聞を作ろう』を学習します。」

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましよう)

--

要約を説明しよう

--

説明文や意見文を要約するとき大切なことをメモしよう

--

物語のあらすじを伝えるとき大切なことをメモしよう

--

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

要約するとき気をつけることを確認しよう。

要約を説明しよう

話や本、文章の内容を短くまとめること。

(自分の言葉でもまとめさせるとよい)  
言いたいことを短くまとめること

説明文や意見文を要約するとき大切なことをメモしよう

繰り返し出てくる言葉やまとまりの中心となる文を使う。

(自分の言葉でもまとめさせるとよい)  
大事な言葉や何度も出てくる言葉が大切。それを、わかりやすい文章にする。

物語のあらすじを伝えるとき大切なことをメモしよう

中心となる登場人物がいつ、何をしたかをまとめる。

(自分の言葉でもまとめさせるとよい)  
どんな話を分かりやすくまとめる。

## 25

**題材名** 「新聞を作ろう」（第1時／全2時間）

**目標** ・ 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて書く上で必要な事柄を調べる。  
 ・ 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書く。

**領域名** B 書くこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「新聞を作ろう」を黒板に書く。 ② ③ 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">新聞の作り方を知り、自分で集めた情報を新聞として発信しよう。</div> ・ 学習シートを配布し、目標を書き込ませる。	・ 教科書を用意する。 ・ 学習シートに目標を書き込む。
展開 25分	④ 新聞の特徴をつかませ、記事にはいろいろな種類のものがあることを理解させる。また、記事の中で一番伝えたいものをトップニュースとして掲げていることなど、新聞の特徴をつかませる。 ⑤ 新聞の作り方を確認する。 ・ どんな新聞にしたいか。 ・ 記事にしたい内容を決める。 ・ 記事の下書きをする。 ・ 割付を考える。 ・ 新聞を仕上げる。 実物を取り上げ、児童に学習の見通しを持たせる。	・ 新聞の特徴をつかむ。 ・ 新聞を作成するにあたり、その構成を学んだり、レイアウトなどを考えたりしながら、新聞のおおよその形を作っていく。
終末 15分	⑥ 下書きをさせる。 ⑦ 次回の学習の予告をする。 「新聞を作り発表しよう」	・ 完成した新聞をイメージしながら作る。

### 指導のポイント

- 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすることや、収集した資料を効果的に使い、説明する文章を書くなどの言語活動を通して、書く力を高めたい。

# 板書例

①題材名「新聞を作ろう」を黒板に書く。  
②本時の目標を児童に知らせる。  
・ワークシートを配布し、書き込ませる。

③新聞の作り方を知り、効果的な新聞を作れるように考える。(個人で・グループで)

④新聞の枠の配置や小見出しが決まったら、資料や情報を集める。

## 板書例

新聞を作ろう

新聞の作り方を知り、自分で集めた情報を新聞として発信しよう。

新聞の特徴

- ・トップニュース
- ・一面二面
- ・見出し
- ・挿絵や画像や表など
- ・新聞名と発行日発行人

新聞の作り方

- ・新聞の読者の対象は誰か。
- ・記事の数を決める。
- ・記事の下書き(図などの位置)
- ・文末表現
- ・割付を決める。

⑤下書きをする。

⑥次回の学習の予告をする。  
「新聞を作り発表しよう」

# 新聞を作ろう 1

4年 組 氏名 ( )

新聞を開いて、その書き方や作られ方などで気がついたことを書きましょう。

新聞のつくりかた

①

自分だったら...

②

③

白い新聞に、自分なりのレイアウトを試してみよう。



# 新聞を作ろう 1

4年 組 氏名 ( )

新聞の作り方を知り、自分で集めた情報を新聞として発信しよう。

新聞を開いて、その書き方や作られ方などで気がついたことを書きましよう。

- ・新聞のタイトル以外に、記事ごとに大きな文字で書かれている題がある。
- ・写真が多くある。
- ・一面、二面という数がある。
- ・いろんな文字がある。
- ・4コマまんががある。

新聞のつくりかた

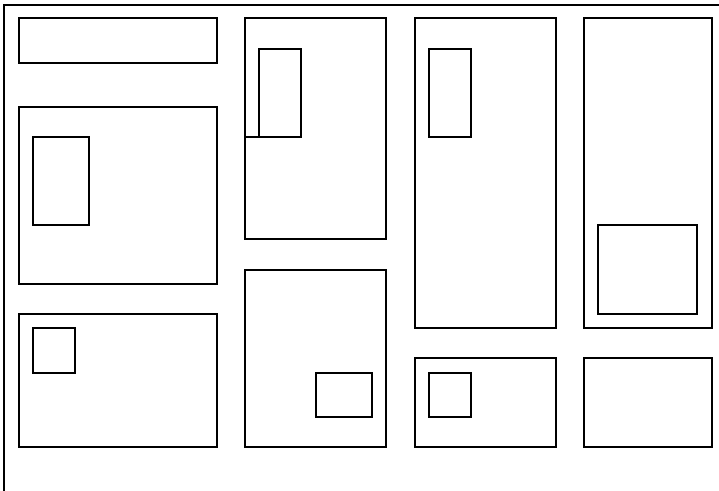
- ① どんな新聞にするのかを決める。

自分だったら..  
4年1組新聞

- ② 記事の下書きをする。

- ③ わりつけをする。

白い新聞に、自分なりのレイアウトを試みよう。



## 26

**題材名** 「新聞を作ろう」（第2時／全2時間）

- 目標**
- ・ 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて書く上で必要な事柄を調べる。
  - ・ 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書く。

**領域名** B 書くこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「新聞を作ろう」を黒板に書く。 ② ③ 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">新聞の作り方を知り、自分で集めた情報を新聞として発信しよう。</div> ・ 学習シートを配布し、目標を書き込ませる。	・ 教科書を用意する。 ・ 学習シートに目標を書き込む。
展開 25分	④ 集めた記事のレイアウトを決め、記事の清書をさせる。 ・ 下書きを基に、白紙の新聞上にどのように配置させるかを考えさせ、レイアウトを完成させる。 ・ 見出しは記事の内容を端的に表し、読者の目をひくようなものを考えさせる。 ・ 新聞を作り上げる。記事ごとに枠を設け、枠を貼り付けていってもいい。 ⑤ 新聞の発表会を開く。 ・ 友達のいいところを見つけ、お互いの学習に生かせるようにさせる。	・ レイアウトを完成させる。 ・ 新聞を完成させる。 ・ 自分の作った新聞の特徴を強く打ち出すように発表する。
終末 15分	⑥ 新聞作りの賞を決めさせる。 ・ 全員に賞がわたるようにし、お互いが賞を決められるようにする。 ⑦ 次回の学習の予告をする。 「カンジーはかせの都道府県の旅2」	・ 互いに努力したことを認め合えるような賞を考える。

### 指導のポイント

- 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすることや、収集した資料を効果的に使い、説明する文章を書くことなどの言語活動を通して、書く力を高めたい

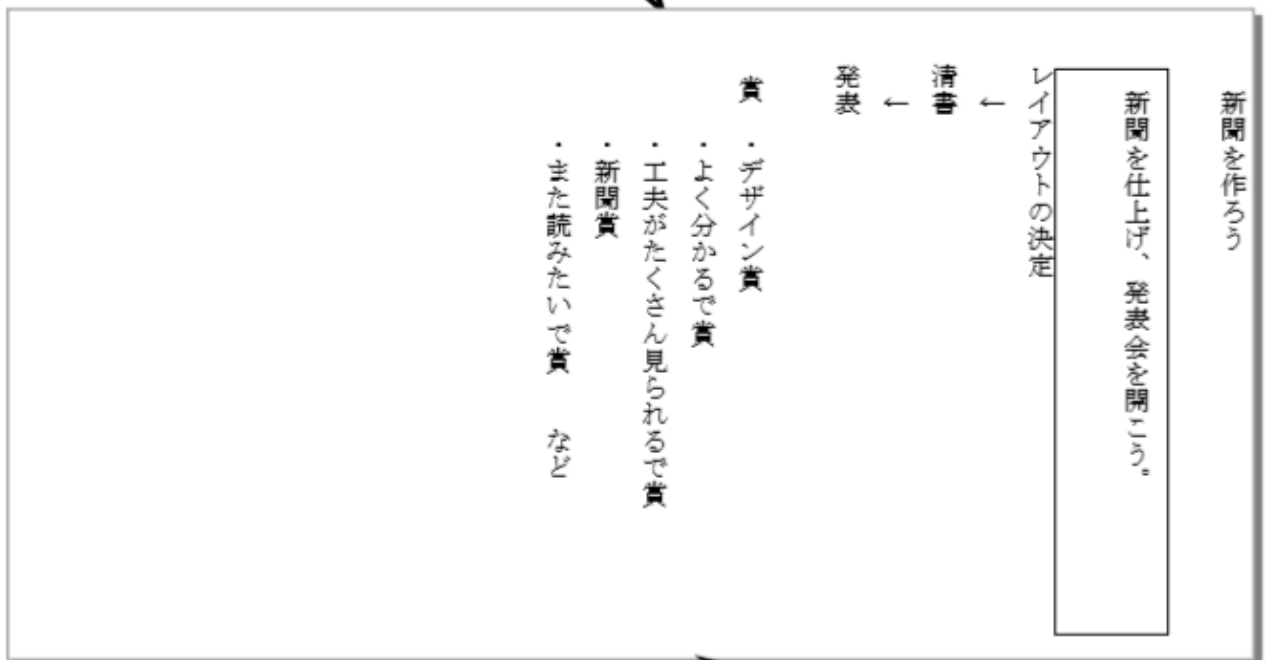
# 板書例

- ①題材名「新聞を作ろう」を黒板に書く。
- ②本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、書き込ませる。

③集めた記事のレイアウトを決め、記事の清書をする。

④新聞を発表し、友達と見せ合いながらいいところを伝え合う。

## 板書例



⑤新聞作りの賞を決める。

⑥ 次回の学習の予告をする。  
「カンジーはかせの都道府県の旅2」

# 新聞を作るら 2

4年 組 氏名 ( )

目標

--

友達の発表を聞いて、いいところを見つけよう。

発表者	いいところ

# 新聞を作る②

4年 組 氏名 ( )

## 目標

新聞を仕上げ、発表会を開こう。

友達の発表を聞いて、いいところを見つけよう。

発表者	いいところ
鈴木さん	・ 4年1組新聞というタイトルそのまま、クラスのことの記事がよく集められていた。
高木さん	・ 記事が読みやすい。写真や表が大きく見やすい。
根本さん	・ 記事がたくさん載っていて、読んでいて楽しい。4コマまんがも楽しい。

# 27

**題材名** 「カンジーはかせの都道府県の旅2」（第1時／1時間）

**目標** 第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技）

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	① 題材名「カンジーはかせの都道府県の旅2」を黒板に書く。	
2分	② p98 最初の2行を読み、ここで学習することを線で引く。	② 例「都道府県名を使った文を書きましょう」
3分	③ 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">県名を使った文を書こう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	③ ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で読む。
12分	④ 6つずつ文を読んで、内容を覚えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生が①～⑥まで読む→先生の後に続いて声に出して読む→一人で読む→「内容を覚えましたか。次に行きます」</li> <li>・同様の活動を⑦～、⑬～、⑲～に分けて繰り返す。</li> </ul>	④ 大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で読む。
12分	⑤ 2人組になって問題を出し合わせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・読むほうもできるだけ教科書を見ないようにさせる。</li> <li>・「うめぼしが特産品の県は」などのように文を再構成させる。（「何県」と聞いても「都」「道」「府」であることもあるルールであることを知らせる）</li> <li>・答えを漢字で書かせる。わからない場合、ひらがな（ローマ字）で書き、後で漢字に直させる。</li> </ul>	⑤ 例 ×「たこ焼きで有名なのは島根県である。○か×か」 ○「たこ焼きで有名なのは何県ですか」「おおさかふ→大阪府」
13分	⑥ p98 下段の地図だけ見えるように他を隠し、先生が番号を言ってその県の内容を文章に書かせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生「㉓の県を紹介してください」→子ども「㉓は滋賀県で、琵琶湖で有名です。琵琶湖は、日本一大きな湖です」</li> <li>・友達と問題を出し合うことも良い活動である。</li> </ul>	
6分	⑦ 今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。 軍・兵・隊・輪・特（70字目／202字中）	⑦ 筆順、「とめ・はね・はらい」を意識して練習する
2分	⑧ 次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・ p60「カンジーはかせの都道府県の旅1」を振り返りながら指導する。
- ・ 「北」「海」「道」のように、県名以外でも頻繁に使う漢字で都道府県名が成り立っているところがあれば、「岐」「阜」の「阜」の字のように、ほとんど使われない字もある。子どもは、「使わないから覚えない」といいがちである。「○○さんの友達が住んでいる」など関係性で身近なものにしたい。覚えさせるにあたっては、「関係性」「そのもので覚える」「追うのつくりと十の組み合わせなどの成り立ち」で覚えることができる。子どもに合わせた指導をしたい。
- ・ 4年生の社会科で県名を覚える。これと関連して、県名を漢字で書く単元である。社会科で、白地図に県名を書き込ませたり、色塗りをして位置を覚えさせたりと苦勞して指導している。教えて終わりではなく、通年で指導し覚えさせたい。

# 27

**題材名** 「カンジーはかせの都道府県の旅2」（第1時／1時間）  
**目標** 第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技）  
**領域等** 知識・理解

① 題材名「カンジーはかせの都道府県の旅2」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
「県名を使った文を書こう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

④ 覚えることも大切だが、言葉のリズムが体感させる。また、知らない都道府県を身近なものにする。

⑤ 問題を出し合う。ヒントも重要な学習。「滋賀」と答えず、「滋賀県」と答えさせる。

⑥ 位置と名前と漢字が一致するようにワークシートに書かせる。

⑦ 今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

## 板書例

カンジーはかせの都道府県の旅2

県名を使った文を書こう。

◎問題を出し合う  
方法  
A 「日本一大きな湖がある県」  
B 「京都府」 A 「ざんねん」  
A 「ヒントです。滋賀県か、大阪府か、兵庫県はどこかです」・

◎先生問題  
方法  
・地図だけ見る  
・「何県」↓「京都府」「大阪府」もあり

☆今週の漢字  
字をきれいに見せるポイント  
☆ ひつじゅん  
☆ とめ・はね・はらい

### < 県名に興味のない子への手だて >

○見たことがない、行ったことがないところへの興味は薄い。続けていくうちに覚える楽しさを感じられるよう、九九のように「何個覚えた」とか「〇〇県には友達が住んでいる」のように関係性などで意識化させる。

⑧ 次時の予告をする。

「次の時間は、『夏の楽しみ』を学習します。」

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましよう)

--

友達が出した問題の答え

--

先生が出した問題の答え

--





今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

県名を使った文を書こう。

友達が出した問題の答え

答えをメモするために使う。漢字で書けない場合は  
ひらがなで書き、後で調べて、漢字にする。  
○ 沖縄県  
○ 京都府  
○ しが県 ↓ 滋賀県

先生が出した問題の答え

答えをメモするために使う。漢字で書けない場合は  
ひらがなで書き、後で調べて、漢字にする。  
○ 沖縄県  
○ 京都府  
○ しが県 ↓ 滋賀県

## 28

**題材名** 「夏の楽しみ」（第1時／1時間）【書く】

**目標** 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。（知・技）

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「夏の楽しみ」を黒板に書く。 【留意】「本単元は、積極的に語彙を豊かにし、行事を説明する文章を書こうとする」という【書く】単元であることを意識して指導する。	
2分	②p100 題名と最初の4行を読み、ここで学習することを線で引く。	②線で引く部分「行事の様子を俳句で表す」
3分	③本時の目標を黒板に書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">夏の行事やイメージを俳句で表そう。</div> 【留意】日本の夏をイメージを出し合って、「眼に浮かべられる」ようにする。 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	③ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
5分	④6月の別名が水無月7月文月8月葉月を読んで、覚えさせる。 【留意】漢字で書く必要はない。文月は「ふづき」とも読むが教科書の表記に合わせる。すでに習った、4・5・6月の別名（p38）も思い出させて言わせる。	④6～8月の別名を覚える。3～5月の別名を思い出す。
6分	⑤6・7・8月から、または夏から想像する言葉を挙げさせる。 ☆行事につながる言葉でもよい。語彙を増やし「書く」につなげる	⑤例「梅雨、スイカ割り、合宿、キャンプ、プール」
10分	⑥p100・101の4例を読んで、五七五のリズムを感じさせる。 そのリズムで6・7・8月から、または夏の俳句を作らせる。	
15分	⑦表した俳句を発表させる。	
2分	⑧次時の予告をする。	

### 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・日本のイメージにこだわらず、「海外子女文芸作品コンクール」を意識して現地の「夏の楽しみ」を読み込むのもよい。

# 28

題材名 「夏の楽しみ」 (第1時 / 1時間)

目標 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。(知・技)

領域等 B 書くこと

① 題材名「夏の楽しみ」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
「夏の行事やイメージを俳句で表そう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

③ 別な読み方を覚えさせる  
リズムカルに読ませて、覚えさせることを通して、日本語に興味をもたせる

⑥ 俳句で表す  
夏のイメージの言葉と背景(色、音、熱、光、場所など)が分かる言葉を組み合わせて俳句にする。

## 板書例

夏の楽しみ

夏の行事やイメージを俳句で表そう

◎ 別名  
・六月 ↓ 水無月  
・七月 ↓ 文月  
・八月 ↓ 葉月

◎ 『夏』のイメージ  
・暑い  
・あせ  
・気持ちいい風  
↓ とくちよう  
↓ 俳句

◎ 「俳句」  
五音・七音 ↓ リズム

◎ 「夏の楽しみ」の俳句で表そう

<日本の夏を知らない子への手だて>  
○教科書の挿絵から読み取ったり、友達の話から想像させたりすることでイメージを膨らませる。

⑥ 次時の予告をする。  
「次の時間は、『事実にもとづいて書かれた本を読もう』を学習します。」

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

--

「夏」から思いうかぶ言葉を書きましょう

--

言葉をつなげて五・七・五の俳句にまとめよう

--

一番おすすめの俳句をていねいな字で書きましょう

--

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

夏の行事やイメージを俳句で表そう。

「夏」から思いうかぶ言葉を書きましょう

梅雨、スイカ割り、合宿、キャンプ、  
プール

言葉をつなげて五・七・五の俳句にまとめよう

海に来て かもめの白と 空の青  
スイカ割る 日本のもより 割りやすい

一番おすすめの俳句をていねいな字で書きましょう

作った俳句の中から一番お勧めのものを清書する。  
直してよりよいものにするのもよい。



## 29

**題 材 名** 「事実にもとづいて書かれた本を読もう」（第1時／2時間）【読む】

**目 標** 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技）

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「事実にもとづいて書かれた本を読もう」を黒板に書く。 【留意】本単元は、【読む】単元である。ノンフィクションの内容を読むことに利点を見出せるよう意識して指導する。	
2分	②p102 題名と最初の4行を読み、ここで学習することを線で引く。	②線で引く部分「ノンフィクションを読み、そのよさを友だちと伝え合いましょう」
3分	③本時の目標を黒板に書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">ノンフィクションのよさを感じよう。</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	③ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
15分	④p107 からの「ランドセルは海をこえて」を黙読させる。 【留意】音読の必要はない。読み方を指導するよりノンフィクションの良さを感じさせたい。	④ノンフィクションの良さが感じられる部分に線を引こう。
15分	⑤ノンフィクションの良さをメモに残させる。	
6分	⑥今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。 夫・衣・氏・祝・徒（75字目／202字中）	⑥筆順、「とめ・はね・はらい」を意識して練習する
2分	⑦次時の予告をする。	

### 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・本時と次時を同日に指導することが望ましい。



# 29

題材名 「事実にもとづいて書かれた本を読もう」(第1時/2時間)  
目 標 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技①)  
領域等 C 読むこと

① 題材名「事実にもとづいて書かれた本を読もう」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
「ノンフィクションのよさを感じよう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

③ 「物語と比べる」「フィクションと比べる」などを通して、「ノンフィクションの良さ」をメモに残させる。箇条書きで板書する。

⑥ 今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

## 板書例

事実にもとづいて書かれた本を読もう

ノンフィクションのよさを感じよう。

ノンフィクション  
↓ 事実にもとづいて書かれた本

ランドセルは海をこえて  
もくどく 声を出さずに読む

び音読 自分だけが聞こえる小さな声で

音読 声に出して読む

☆今週の漢字  
字をきれいにさせるポイント  
☆ ひつじゅん  
☆ とめ・はね・はらい

<ノンフィクションに良さを見いだせない子への手だて>  
○オンタイムの映像があふれている現在、ノンフィクションの文章に価値を見出さない子どもも多い。事実の中に想像を働かせたり、行間を読んだり、登場した人物や事象に思いを重ねたりと「事実で遊ぶ」ことで読みが深まる。まずは、事実を事実としてとらえられるようにすることが前提となる。

⑦ 次時の予告をする。  
「次の時間は、『事実にもとづいて書かれた本を読もう』の続きを学習しま





事実にもとづいて書かれた本を読もう

四年 組

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

ノンフィクションのよさを感じよう。

ノンフィクションの良さをメモしよう(かじょう書きで書いてみるのもいいね)

- ・ 知らなかった事実を知ることができる。
- ・ 挑戦者の気持ちや苦労がよくわかる。
- ・ いったことのないところに行った気持ちになれる。

# 30

**題材名** 「事実にもとづいて書かれた本を読もう」(第2時/2時間)【読む】

**目標** 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技)

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
3分	①本時の目標を声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">ノンフィクションのよさを感じよう。</div>	①大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
20分	②前の時間に残した「ノンフィクションの良さ」を発表し合う。	②ノンフィクションの良さが感じられる部分に線を引こう。
20分	③もう一度 p107 からの「ランドセルは海をこえて」を黙読させ、発表しあった良さがわかるかを確認させる。	③例「Aさんが言っていたノンフィクションの良さ」がよく分かったのは…
2分	④次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・読む時間を十分とることで、読書の面白さをノンフィクションに広げる機会とする。本が手に入る環境があれば、有効に使いたい。
- ・p104にまとめてあるあらすじが「要約」されたものであることを伝える。こういう活動を繰り返し行うことで、「要約」とは何かを経験の中で実感させる。

# 30

題材名 「事実にもとづいて書かれた本を読もう」（第2時／2時間）  
目標 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技①）  
領域等 C 読むこと

① 題材名「事実にもとづいて書かれた本を読もう」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
「ノンフィクションのよさを感じよう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

③ 友達が感じたノンフィクションの良さを感じられるように、ゆっくりじっくり読ませるようになる。

## 板書例

事実にもとづいて書かれた本を読もう

ノンフィクションのよさを感じよう。

・・・

ランドセルは海をこえて

もくどく

声を出さずに読む

良さを見出す

<ノンフィクションに良さを見いだせない子への手だて>  
○オンタイムの映像があふれている現在、ノンフィクションの文章に価値を見出さない子どもも多い。事実の中に想像を働かせたり、行間を読んだり、登場した人物や事象に思いを重ねたりと「事実で遊ぶ」ことで読みが深まる。まずは、事実を事実としてとらえられるようにすることが前提となる。

④次時の予告をする。  
「次の時間は、『忘れもの』の続きを学習します。」

事実にもとづいて書かれた本を読もう

四年 組

今日の学習(中心線を意識<sup>しき</sup>して、ていねいに書きましよう)

--

友達の意見を聞いて考えたノンフィクションの良さをメモしよう

--

事実にもとづいて書かれた本を読もう

四年 組

今日の学習(中心線を意識<sup>しき</sup>して、ていねいに書きましょう)

ノンフィクションのよさを感じよう。

友達の意見を聞いて考えたノンフィクションの良さをメモしよう

- ・ 知らなかった事実を知ることができる。
- ・ 挑戦者の気持ちや苦労がよくわかる。
- ・ いったことのないところに行った気持ちになれる。



# 31

**題材名** 「忘れ物」「ぼくは川」(第1時/全1時間)

**目標** 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気づく。

**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「忘れ物」「ぼくは川」を黒板に書く。  ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">二つの詩の作品を味わい、好きな表現を伝え合おう</div> ・学習シートを配布し、目標を書き込ませる。	・教科書を用意する。  ・学習シートに目標を書き込む。
展開 25分	③ 二つの詩をワークシートに書き写してから黙読させる。  ④ 二つの詩を音読し、好きな表現に赤線を引かせる。	・詩を書き写す。その後に黙読する。 ・詩の中の好きな表現を見つけ、赤線を引く。
終末 15分	⑤ 好きな詩を選ばせ音読発表会をする。 ・好きな表現の理由を書き、お互いに伝え合う中で、感じ方や味わいは人それぞれであることを確認し合う。  ⑥ 次回の学習の予告をする。 「あなたなら、どう言う」	・なぜその部分が好きなのか、理由をワークシートに書き込む ・それぞれが発表し合う中で、共感したり認め合ったりしながら、感じ方は人によって違うことを知る。 ・作品の魅力に迫る。

## 指導のポイント

- 詩を読み感想を述べ合う言語活動を通して、読むこと的能力を育てるとともに、表現の魅力を発見したり、それぞれの感性を認め合ったりできるように支援していく。

# 板書例

①題材名「わすれもの」「ぼくは川」を黒板に書く。

②本時の目標を児童に知らせる。

・ワークシートを配布し、書き込ませる。

③「忘れもの」と「ぼくは川」の詩を書き写し、夏からイメージする言葉を挙げていく。

④詩を音読し、好きな表現に赤線を入れ、そこから感じたことをワークシートに書き込む。

## 板書例

	好きな表現に赤線を引きましょう。そこからどんなことを感じますか。	忘れもの	忘れもの ぼくは川	二つの詩の作品を味わい、好きな表現を伝え合おう。
		ぼくは川		

⑤好きな詩を選び音読発表会を行う。

⑥次回の学習の予告をする。  
「あなたなら、どう言う」

# 学習ワークシート (忘れもの ・ ぼくは川)

4年 組 氏名 ( )

--

11の語を書き写しましょう。

--	--

気に入った表現を文中に探し、どんなことを感じたのかを書いてみましょう。

--

# 学習ワークシート (忘れもの ・ ぼくは川)

4年 組 氏名 ( )

二つの詩の作品を味わい、好きな表現を伝え合おう。

二つの詩を書き写しましょう。

<p>忘れもの <span style="float: right;">高田 敏子</span></p> <p>入道雲にのつて 夏休みはいつてしまった 「サヨナラ」のかわりに 素晴らしい夕立をふりまいて</p> <p>けさ 空はまつさお 木々の葉の一枚一枚が あたらしい光とあいさつをかわしている</p> <p>だがキミ！ もう一度 もどつてこないかな 忘れものをとりにさ</p> <p>迷子のセミ さびしそうな麦わら帽子 それから ぼくの耳に くつついて 離れない波の音</p>	<p>ぼくは川 <span style="float: right;">阪田 寛夫</span></p> <p>じわじわひろがり 背をのぼし 土と砂とをうるおして くねつて うねつて ほとぼしり とまれと言つても もうとまらない</p> <p>ぼくは川 真つ赤な月にのたうつたり 砂漠のなかに濁いたり それでも雲の影うかぶ さかなのうろこを光らせて あたらしい日へほとぼしる あたらしい日へほとぼしる</p>
--	--

気に入った表現を文中に探し、どんなことを感じたのかを書いてみましょう。

忘れものの詩がいいと思いました。あくあと言いながら終わってしまった夏休みとそこで過ごした日々を思い出しながら、空を見上げている光景が浮かんできました。いちばん最後の4連が好きです。夏の思い出が次々に浮かんでいる場面だからです。

## 3 2

**題 材 名** 「あなたなら、どう言う」（第1時／1時間）【話す・聞く】

**目 標** 目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。（思・判・表）

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「あなたなら、どう言う」を黒板に書く。 【留意】「対話」を通した【話す・聞く】単元である。「対話」は、ただ話し合うのではなく、話題を変えないことが基本となることを意識しながら指導したい。つまり、理論を駆使し、多様な例を出して（話題を広げて）説得するものではないと考えたい。	①
2分	②p118 題名と最初の下段3行を読み、ここで学習することを線で引く。	②線で引く部分「お姉さんの立場だったら、弟に対してどう言いますか」
3分	③本時の目標を黒板に書かせる。声に出して読ませる。 対話の練習 あなたなら、どう言う ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	③ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
5分	④状況をはっきりさせるため、p118 下段「お姉さん」「弟」の立場を確認させる。 ・どちらもやっていること、思っていることは間違っていないことを確認する。そうでないと、感情で良い悪いの言い合いになる。	④例「お姉さんは友達と遊ぶために部屋をきれいにしたいんだね。別な所でも遊べるけど、部屋で遊びたいんだね」「弟はお姉さんと同じ部屋を使っているんだね。棚の掃除をするなんてえらいな」
6分	⑤p119 ①を讀ませる。役になって考えを述べ合わせる。 ・やり取りをしながら状況をつかませる。 ・役を交代してやらせたい。みんなの前でやる必要はないので、3人組で「お姉さん」「弟」「聞く人」で交代してやらせる。	⑤例「ぼくは、きれいにしているんだ。お姉さんも気持ちがいいだろう」「今やらなくてもよいでしょう。友達がくるんだから」…
15分	⑥p119 ②を讀ませる。グループを変えて、④「言い合いにならないように」「どういえばよいかを考えながら」対話をさせる。	⑥例「きれいにしてくれてありがとう。私も手伝うから夕方やらない」「なぜ、今じゃダメなの」…
10分	⑦自分とは違う立場になって考えることのよさについて考えさせ、よりよい言い方はどんなことかを話させる。	
2分	⑧次時の予告をする。	

### 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・4年生に理性をもって、相手の立場を考えながら話させることは難しい。「劇」に位置付けると自然に言葉が生まれてくる。

## 3 2

題材名 「あなたなら、どう言う」（第1時／1時間）

目 標 目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。（思・判・表）

領域等 A 話すこと・聞くこと

① 題材名「あなたなら、どう言う」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

「対話の練習 あなたなら、どう言う。」

・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

④ 「お姉さん」「弟」の立場をはっきりさせ、その上で、「どう  
いうか」を考えさせる。

⑤⑥ 役になって考えを述べてみる。気をつけたところや気にした  
ところを考えながら話せるようにする。注意点を言わせて、  
黒板に書く。

⑦ よりよい言い方を話させ、黒板に書く。

### 板書例

あなたなら、どう言う

対話の練習 あなたなら、どう言う

◎対話

- ・話が続くように〓話題を変えない
- ・言いくるめるわけでない〓勝ち負けでない

◎お姉さんの言いたいこと

◎弟の言いたいこと

◎よりよい言い方

◎おたがいなつとくして言いたいことができる

< 言い負かそうとする子への手だて >

○4年生ぐらいだと、自分の主張を通そうと躍起になりがちである。それはそれとして認めたい。対話は勝ち負けではないので、聞き手がどんな気持ちを抱いたかを聞かせたりすることで、自分の話し方をふりかえらせたい。言いたいことを話すのに、強い言い方や大きな声は不要である。

⑧ 次時の予告をする。「次の時間は、『パンフレットを読もう』を学習します。」

あなたなら、どう言う

四年 組

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

--

お姉さんの言いたいこと

--

弟の言いたいこと

--

より良い言い方を話すためのメモ

あなたなら、どう言う

四年 組

32

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

## 対話練習 あなたならどう言う

お姉さんの言いたいこと

お姉さんは友達と遊ぶために部屋をきれいにしたいんだね。別な所でも遊べるけど、部屋で遊びたいんだね

弟の言いたいこと

弟はお姉さんと同じ部屋を使っているんだね。棚の掃除をするなんてえらいな

より良い言い方を話すためのメモ

- 自分の考えをメモし、まとめてから話せるようにする。
- ・相手の気持ちを考える
- ・自分が相手だったらと考えながら話す



### 3 3

題材名 「パンフレットを読もう」（第1時／1時間）【読む】

目標 パンフレットを読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表）

#### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「パンフレットを読もう」を黒板に書く。	
2分	②p120 題名と①を読み、パンフレットとは何のためのものかが書かれている部分に線で引く。	②線で引く部分「場所や物などについて、説明したり、よさを知らせたりするためのもの」
3分	③本時の目標を黒板に書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">パンフレットを読もう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	③ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
15分	④p121②①②を読み、それを手がかりに、p122-123 のパンフレットを読んで、気づいたことを話し合わせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み取ったことを整理して、ワークシートに書き込む。</li> </ul>	④例「大切なことは大きな字で書いてあるよ」…
15分	⑤p121②③を読み、それを手がかりに、④パンフレットの工夫について話し合わせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレットは、作られた目的や伝えたい相手に応じて工夫されていることを知るように導く。</li> </ul>	⑤例「絵をうまく使っているね」
6分	⑥今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。 滋・阪・徳・香・佐（85字目／202字中）	⑥筆順、「とめ・はね・はらい」を意識して練習する
2分	⑦次時の予告をする。	

#### 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・新たにパンフレットを用意する必要はない。p122の「中央清掃工場…」を題材にし、同じものでパンフレットの読み方を学ぶ。

### 3 3

題材名 「パンフレットを読もう」（第1時／1時間）

目 標 パンフレットを読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表）

領域等 C 読むこと

① 題材名「パンフレットを読もう」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

「パンフレットを読もう。」

・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

② パンフレットは一般的に使われるが、いざその意味を問われると説明しにくい。

④⑤ 「気づいたこと」「くふう」を続けて板書することで、パンフレットの特徴をはっきりさせたり、よさを際立たせたりす

⑥ 今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

#### 板書例

パンフレットを読もう

パンフレットを読もう。

◎パンフレット

・説明する

・よさを知らせる

◎パンフレットのくふう

・ ・ ・

☆今週の漢字

字をきれいにさせるポイント

☆ ひつじゅん

☆ とめ・はね・はらい

☆ とめ・はね・はらい

<パンフレットが手に入らない状況への手だて>

○いろいろなパンフレットがあると見方が広がる。現地言語で書かれたものを扱うことも可能だが、日本語の表現を感じさせることがより求められる。例示されている「清掃工場」を扱うことが最適である。「清掃工場」は、4年生の社会科「ごみのゆくえ」で扱う通称「ごみ処理場」のことである。匂いへの対策や廃熱利用など環境対策がなされた「清掃工場」が増

⑦ 次時の予告をする。

「次の時間は、『いろいろな意味をもつ言葉』を学習します。」

パンフレットを読もう

四年 組

33

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましよう)

--

パンフレットを読んで気づいたこと、特に工夫されていることを書こう

--



パンフレットを読もう

四年 組

33

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましょう)

パンフレットを読もう

パンフレットを読んで気づいたこと、特に工夫されていることを書こう

- ・大切なことは大きな字で書いてある。
- ・絵をうまく使っている

### 3 4

**題 材 名** 「いろいろな意味をもつ言葉」（第1時／1時間）

**目 標** 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増すとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。（知・技）

#### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「いろいろな意味をもつ言葉」を黒板に書く。	①
3分	②本時の目標を黒板に書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">                     いろいろな意味をもつ言葉の勉強をしよう                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	②ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
6分	③「とる」（川崎洋）を音読し、言葉のリズムを楽しませる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2分で覚えさせる。</li> <li>・p124 下段1の前に言葉を足し、9行の詩に、暗唱することでリズムを楽しむ。</li> </ul> ☆同じ音でもいろいろな意味をもつ言葉（多義語）があることを理解させる。	③例「先生が出席をとる 理科のテストで満点をとる …」
12分	④p125①～④をさせる。空欄を埋めたら別な言葉に変えさせ、意味をはっきりさせる。	
20分	⑤p125 3を読み、詩を作らせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ひく」「かける」にこだわらなくてもよい。</li> </ul>	⑤例「ぼくは『なく』でつくろう。「無く 泣く 鳴く」
2分	⑥次時の予告をする。	

#### 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・多義語は、漢字に直すときに、迷いやすい。そのため、意味から漢字表記を確定する。そのやり方を詩を通してつかませしていく。

### 3 4

題材名 「いろいろな意味をもつ言葉」（第1時／1時間）  
目 標 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増すとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。（知・技）  
領域等 知識・理解

① 題材名「いろいろな意味をもつ言葉」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
「いろいろな意味をもつ言葉の勉強をしよう」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

③ リズムを大切に詩を読ませる。短時間で暗唱させることで、言葉への感覚を磨く。

④⑤ 言葉遊びを通し、多義語の意味を知り、言葉への関心を高める。

#### 板書例

いろいろな意味をもつ言葉

いろいろな意味をもつ言葉の勉強をしよう。

◎「とる」川崎洋  
・リズム  
・くり返し  
・ちがう意味本がたくさんある

◎□に入る言葉を考える  
↓意味を変えずに別な言葉で

1  
①出る 卒業式に出席する・参加する  
単行本が出版される

◎川崎洋さんのように  
○○さんがつくった詩

#### <語彙が少ない子への手だて>

○この学習を通して、語彙を豊かにすることは難しい。言葉のおもしろさを感じ、日本語の豊かさに興味をもてると自然に語彙が豊かになる。ここでは、言葉遊びを楽しむことを大切にしたい。

⑥ 次時の予告をする。

「次の時間は、『漢字の広場』を学習します。」

いろいろな意味をもつ言葉

四年 組

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましよう)

--

①の①④□に入る言葉を考えましよう

--

をつかって詩を書こう

--



今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

いろいろな意味をもつ言葉の勉強をしよう。

①の①く④□に入る言葉を考えましょう

①でる

②はかる 計る 測る 量る 図る

③なる

④つく 点く 搗く 着く 付く

ひく

をつかって詩を書こう

はつくしよん 風邪をひく

ぼろぼろぼろぼろ ギター弾く

よいしよよいしよと 縄を曳く

：

# 35

**題材名** 「漢字の広場③」（第1時／1時間）【書く】

**目標** 第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技）

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「漢字の広場」を黒板に書く。 【留意】「本単元は、第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使う」という【書く】単元であることを意識して指導する。	
2分	②p126最初の2行を読み、ここで学習することを線で引く。	②線で引く部分「昔話を完成させましょう」
3分	③本時の目標を書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">昔話を完成させよう。</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	③ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
4分	④□で囲んである漢字を読ませる。 ☆「3年の漢字であるから読める」と決めつけず、読めたものをほめるようにして意欲を高める。	
5分	⑤出てくる漢字の読みを見なくても言えるように覚えることを伝え、先生の後について読ませる。読みながら覚えさせる。 【留意】アクセントに気を付けて読むようにする。覚えることで、漢字のリズムと日本語彙を増やすことにつなげる。一般的に3分ですべて覚えられる。	⑤先生の後について漢字を読む。アクセントやリズムに気を付ける。
5分	⑥覚えた読みをひらがなでノートに書かせる。それを漢字になおすことを通して、漢字学習への意欲を駆り立たせる。 【留意】漢字は書けたところまでにする。全部書かせて漢字嫌いをつくらないようにする。	⑥覚えたものをひらがなでワークシートに書く。それを漢字に直す。
6分	⑦絵を2～3枚ずつ分け、□の漢字を使って昔話を書かせる。	⑦記入例「天気の良い日でした。おじいさんは山におばあさんが作ってくれた…」
5分	⑧「つなぎ言葉」を使って話を深めさせ、詳しく書けるようにさせる。 【留意】p82の「つなぎ言葉」の表を見て、復習をする。	⑧p82の表をみて、つなぎ言葉を思い出す。
5分	⑨みんなの話をつなげて昔話を楽しむ。	
6分	⑩今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。	⑩筆順、「とめ・はね・はらい」を意識して練習する
2分	賀・崎・熊・沖・縄（5字目／202字中）	
2分	⑪次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・みんなで書いた文を「つなぎ言葉」でつなげて昔話を作ることで、文章を「書く」と「つなぎ言葉」の復習を楽しみながらできる。
- ・「漢字の広場」であるが、最初から漢字を多用することを求めず、後で調べたり、友達の記事を読んで、漢字に直してあげたりする活動などを通し学習を広げていく。

# 35

題材名 「漢字の広場③」（第1時／1時間）

目標 第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技）

領域等 B 書くこと

① 題材名「漢字の広場③」を黒板に書く。

③ 本時の目標を児童に知らせる。

「昔話を完成させよう」

・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

⑤ 書かれている漢字を覚える。（3分）

新しい外国語の単語を3分で覚えるのと3語程度。みんなで全部覚えることは十分に可能。30人のクラスで3人ぐらいは全部覚

⑧ たくさんの漢字を使って昔話を書く。ここに出てくる漢字にこだわる必要はない。あとで文を読み合い、楽しめると言葉への興味が高まる。

⑨ 今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

## 板書例

漢字の広場③

昔話を完成させよう。

◎□でかこんである漢字を読む

・発音

・口をしっかりと開けて

◎出てくる言葉をおぼえる

↓ みんなで全部言えるように

◎おぼえた言葉を書く

・漢字なら◎

・ひらがななら○

・一部でも△

↓ 漢字に直す

◎昔話を書く ↓ 話をつなげて昔話を完成させる

☆今週の漢字

字をきれいに見せるポイント

☆ ひつじゅん

☆ とめ・はね・はらい

<漢字への苦手意識がある子への手だて>

○漢字は書けなくてもICTが補ってくれる世の中になった。書けなくても読めなくても大丈夫程度の意識をもって無理やり指導することは控える。しかし、漢字は文化であり、書けたり読めたりすることは世界を広げる。あきらめたり逃げたりしないようにゆっくり導き、子ども自身で自分の世界を広げられるようにする。

⑪ 次時の予告をする。「次の時間は、『ごんぎつね』を学習します。」

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましよう)

--

覚えた言葉をできるだけ漢字で書こう

--

何個ぐらい漢字を使えそうかな。

--

個は使ってみたい

昔話をできるだけ漢字を使って書こう

--

--

個の漢字を使えたよ



今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

昔話を完成させよう。

覚えた言葉をできるだけ漢字で書こう

- ① 覚えた漢字を漢字で書く。
- ② 漢字で書けない場合、ひらがなで書く。その後、調べて漢字に直す。

例 美化

短い

さむい ↓ 寒い

何個ぐらい漢字を使えそうかな。

6

個は使ってみたい

昔話をできるだけ漢字を使って書こう

天気の良い日でした。おじいさんは山におばあさんが作ってくれた……

4

個の漢字を使えたよ

# 36

- 題材名** 「ごんぎつね」（第4時／全4時間）
- 目標**
- ・ 情景や叙述をもとに登場人物の気持ちや行動を読み取り、自分の考えを深める。
  - ・ 登場人物の気持ちの移り変わりや場面の様子が分かるように音読する。
- 領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「ごんぎつね」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">             難しい語句の意味を理解しながら、物語のあらすじをつかもう           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本単元のめあてを知る。</li> </ul>
展開 25分	③ 物語のあらすじをつかませる。 ・ 板書例を参考に、あらすじをまとめさせる。 （順番に考えさせながら板書する。） ④ 初発の感想を書かせ、発表させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物語のあらすじをつかむ。</li> <li>・ 初発の感想を発表する。</li> </ul>
終末 15分	⑤ 新出漢字や難しい語句の学習をする。 ⑥ 登場人物の把握とそれぞれの気持ちを考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新出漢字の学習をする。</li> <li>・ 場面や出来事などを整理する。</li> </ul>

## 指導のポイント

- 時代背景を理解したうえで、色々な表現に着目し場面毎に読み解いていけるよう、理解のための工夫を十分に行いたい。
- 情景描写も大事であるが、ごんと兵十の境遇と心情の変化に着目し、理解を深めたい。

# 板書例

① どんぎつね を板書する。  
心情を思い起こさせるよう範読を工夫して聞かせるようにしたい。  
(音声教材 (CD) を使ってもよい。)

② あらすじが、導けるように簡単に順番に書いていく。  
③ 初発の感想を書かせ、発表させる。

④ 難しい言葉を、理解させる。

## 板書例

どんぎつね

物語のあらすじをつかもう

- ・ いっころ
- ・ 最初、何をした
- ・ 十日後に何が起こった
- ・ その後、ごんは何をした
- ・ 兵十は、どう考えた
- ・ ごんは
- ・ 兵十は、ごんを・・・

感想は、・・・

難しい言葉は、見つけよう

読んだ後の感想を話してみよう

⑤ 登場人物、擬人者に大まかな心情理解をしていく。  
次時への発展を考えさせていく。





「しんせつね」  
四年

1

組 氏名 ( )

ことば	意味や使い方
(例) つくなら	自分がおかした罪や失敗とお金や労働で埋め合わせること
お城	
菜種がら	
干す	
もす	
堤	
ススキ	
ただのとき	
萩	
ぼろぼろ	
盗人	
はんの木	



「じんぎつね」  
四年

組氏名 ( 記入見本 )

W 41

ことば	意味や使い方
(例) つくなら	自分がおかした罪や失敗をお金や労働で埋め合わせること。
お城	敵を防ぐために濠(ほり)を巡らした住居を兼ねた建造物。城主が「おとの様」。
菜種から	菜種(アブラナの種)から油を搾ったあとのかす。肥料などに用いる。
干す	風や太陽にあてて水分をとる。
もす	(百舌) 背は灰褐色、腹の中央は白色、尾は長い。昆虫や蛙などを捕食する。季語は秋。
堤	(つつみ) : 川の水があふれないように土を高く築いた土手。
ススキ	土手などに大群落を作る草で、二メートルに達する。花穂は秋に黄褐色になる。
ただのとき	普段。
萩	秋の小低木。秋の七草の一つ。
ぼろぼろ	衣類や紙などが破れ傷んでいる様子。兵士の暮らしぶりが分かる。
盗人	(ぬすつと) : どろぼう。
はんの木	野山に多い木で器具に使う。茶色の実は染め物に使う。

# 37

- 題材名** 「ごんぎつね」（第4時／全4時間）
- 目標**
- ・ 情景や叙述をもとに登場人物の気持ちや行動を読み取り、自分の考えを深める。
  - ・ 登場人物の気持ちの移り変わりや場面の様子が分かるように音読する。
- 領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「ごんぎつね」を黒板に書く。 ② 第一場面を読み、出来事を整理させる。 状況を思い出させるよう板書する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">             ごんと兵十の行動と心情を考えよう           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 心情を読み取る。</li> <li>・ 本単元のめあてを知る。</li> </ul>
展開 25分	③ ごんの性格や行動などを整理させる。 ④ 兵十の暮らしぶりなどを想像させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ごんの性格や行動などを整理する。</li> <li>・ 兵十の暮らしぶりなどを想像する。</li> </ul>
終末 15分	⑤ 第二場面を読み、ごんの気持ちの変化を考えさせる。 ⑥ 表現に着目し、場面の風景を想像させ情景描写をまとめさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ごんの気持ちの変化(後悔と反省)を考える。</li> <li>・ 情景描写をまとめる。</li> </ul>

## 指導のポイント

- 時代背景を理解したうえで、色々な表現に着目し場面毎に読み解いていけるよう、理解のための工夫を十分に行いたい。
- 情景描写も大事であるが、ごんと兵十の境遇と心情の変化に着目し、理解を深めたい。

板書例

③ どんや兵十が置かれた状況や心情を考えさせるように。  
④ 兵十の暮らしぶりを考えさせる。

① 前時のあらすじを思い出させる。  
② 第一場面を、思い出し考えさせる。

板書例

「いんぎつね」

第一場面

- ・ どんな場面ですか。
- ・ 季節は、
- ・ 場所は、
- ・ 誰が出ていました。
- ・ 誰が何をしていた。

・ どんは、どんな性格  
どんなことをした。

・ 兵十の暮らしぶりは、(考える)

第二場面

- ・ どんの、気持ちは変化したの・・・

⑤ 状況から心情を考えられるように持っていく。  
次時につなげ、次場面を家庭で読むようにさせる。







# 38

- 題材名** 「ごんぎつね」（第3時／全4時間）
- 目標**
- ・ 情景や叙述をもとに登場人物の気持ちや行動を読み取り、自分の考えを深める。
  - ・ 登場人物の気持ちの移り変わりや場面の様子が分かるように音読する。
- 領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 第一・二場面をしっかりと思い出させるように、話に抑入 揚を大きくして印象づける工夫をする。  ② 第三の場面を音読し、本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             ごんと兵十の行動と心情を考えよう           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時を思い出す。</li> <li>・ 本単元のめあてを知る。</li> </ul>
展 開 25 分	③ （順序を追って考えさせる） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 麦とぎ・・・</li> <li>・ ひとりぼっち</li> <li>・ いわしのこと</li> <li>・ 兵十の顔にきず</li> </ul> ごんの気持ちからの行動は・・・	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ごんの心情の変化から、行動を考える。</li> <li>・ 生活状況をかんがえる。</li> <li>・ ごんの行動が兵十に危害が及んだことを考える。</li> <li>・ 兵十の心情の変化も読み取る。</li> </ul>
終 末 15 分	④ 第四・五の場面を音読する。 兵十と加助の会話を一人に役で表現する。  ⑤ 次時のために、全面的に読んでくるように指示する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ごんのやっていることを神様だと言われた際のごんの気持ちを考える。</li> </ul>

## 指導のポイント

- 麦をとぐ兵十（米が食せない貧しさ）。母と二人暮らしだった兵十。その兵十が、自分と同じ独りぼっちになってしまった。当然、同情の気持ち（＝辛さや苦しみをその身になって共に感じること）が起こるだろう。また、ごんのいたずらも、独りぼっちの寂しさを紛らわすためのものであったのかもしれない。言葉では言い表せない孤独の辛さを知っているごんの同情心は、人ごと ではないという本物の同情心なのだろう考えさせる。
- 「こいつはつまらない」「引き合わない」と言っている。ごんは、自分の行為を兵十に認めてもらいたいと思っているのか。心が狭いのか。児童には、ごんの発言に対する考えを聞いてみて もよい。  
 償いだけではなく、兵十に対して、親しみをもっていると考えてもよい。この場合は、自分だ と気付いてくれないもどかしさを感じるようになることを児童から聞いてもよい。

板書例

①前からの続きを思い出させるよう導入時に話をすすめる。

②ごんや兵十が置かれた状況や心情を想像しやすいように、時代背景を把握しやすいように工夫する。

③音読し、二人の心情を考えさせるようにする。

板書例

「いんぎょね」

第一場面  
第二場面 を思い出す。

第三場面  
・葬式が終わってからの  
ごんの兵十への気持ちは・・・

・いわしを投げ込む  
ごんの気持ちは・・・

・ひどい目にあつた  
兵十の気持ちは・・・

第四・五場面  
・兵十と加助の会話を聞こうとする  
ごんの気持ちは・・・

・会話を聞いた  
ごんの気持ちは・・・

④第五場面の最後のごんに気持ちを考えさせる。  
⑤次時のために、全文を読んでおくよう指示する。

「じんぎつね」  
四年

3

組 氏名 (

W 43  
)

(第三段落)
(第四段落)
(第五段落)

「りんぎつね」 3  
四年

組 氏名 ( 記入見本

W 43 )

(第三段落)
「りん」は、つぐないとして兵十の家に栗や松茸を運ぶ。 . . . . .
(第四段落)
兵十がそれを神様のしわざだと理解したので、「りん」は
がっかりする。 . . . . .
(第四段落)
いつものように、「りん」は栗を届けに兵十の家に行くが、兵十に
見つかって火縄銃で撃たれて死んでしまう。
兵十は、そのとき初めて「りん」の気持ちを知ることになった。

# 39

**題材名** 「ごんぎつね」（第4時／全4時間）

- 目標**
- ・情景や叙述をもとに登場人物の気持ちや行動を読み取り、自分の考えを深める。
  - ・登場人物の気持ちの移り変わりや場面の様子が分かるように音読する。

**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 第一場面～第五場面を連想させる。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     心情が行動につながることを理解する                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いままでの出来事や情景、心情を思い起こす。</li> <li>・本単元のめあてを知る。</li> </ul>
展開 35分	② 第六場面を個人個人で、音読させる。 「ようし」 「おや」 「ごん、おまいだったのか……」 ③ 「うなずいた」ときの、ごんの言葉を連想させる。 ④ 「もし、ごんが生きていたら、兵十はごんを許したのだろうか」考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話体の言葉に気をつけて、考えながら読む。</li> <li>・「ごん、兵十」の気持ちを考える。</li> <li>・自分の立場で考え、自分の言葉で発表する。</li> </ul>
終末 5分	④ 児童が、この場面で「自分だったら……」と考えさせるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が同じ立場だったら、どうするか、考えて読んでいく。</li> </ul>

## 指導のポイント

- この場面は、兵十の立場から書かれているので、兵十の気持ちを追求する「ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずいた」。これを見て、兵十はようやくごんの償いの気持ちを知る。強く心を動かされた兵十は、銃をばたりと落とす。ここで、兵十の悲痛な後悔の気持ちが読み取らせる。
- お互いの気持ちをわかり合えるには、何が必要になってくるか、考えさせる。

板書例

①第一～五場面までを連想するように導入での話を工夫する。

②音読しながら、自分がその場にいる人になって考えさせる。

③登場人物の、お互いの気持ちの連動の難しさを分からせる。

板書例

「じんぎつね」

・第一～第五場面を連想する。

・第六場面

・音読しよう。

・「ようし」。

このときの兵十の気持ちは、・・・

・「おや」。

このときの兵十の気持ちは、・・・

・「ごん、おまいだったのか、

いつも、くりをくれたのは。」

・「うなずいた」とあるが

このときの兵十の気持ちは、・・・

※「うなずいた」ときの、

ごんの気持ちは・・・

・話せたら、何と言うでしょうか。

※もし、ごんが生きていたら、

兵十はごんを許しただろうか

④ごんのうなずいた気持ちを考えさせ、行動への理解を深めさせる。

⑤自分がこの立場だったら、どうするか、考えさせる。  
今までの出来事や情景、心情を思い起こさせる。







# 40

**題材名** 「秋の楽しみ」（第1時／1時間）【書く】

**目標** 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。（知・技）

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	① 題材名「秋の楽しみ」を黒板に書く。 【留意】「本単元は、積極的に語彙を豊かにし、行事を説明する文章を書こうとする」という【書く】単元であることを意識して指導する。	
2分	② p34 題名と最初の4行を読み、ここで学習することを線で引く。	② 線で引く部分「好きな行事の楽しさを知らせる手紙を書いてみましょう」
3分	③ 本時の目標を書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">秋の行事の楽しさを伝える手紙を書こう。</div> 【留意】日本の秋をイメージを出し合って、「眼に浮かべられる」ようにする。 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	③ ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
5分	④ 9月の <u>別名</u> が長月 10月神無月 11月霜月を読んで、覚えさせる。 【留意】漢字で書く必要はない。4月から8月までの別名を思い出していってみる。	④ 9～11月の別名を覚える。3～8月の別名を思い出す。
10分	⑤ 9～11月にかけて、または、秋にある好きな行事を挙げてみさせる。 月ごとに分けて書かなくてもよい。書くことの指導なので好きな行事がこの時期にない場合、月や季節にこだわらず、これから体験することでも構わない。書く題材は短時間で探す。 例「クリスマス」「日本への帰国」「家族旅行」	⑤ 例「運動会、文化祭、ハロウィン、稲かり、遠足、ぶどうがり」
15分	⑥ 好きな行事を知らせる手紙を書かせる。 書くことの指導なので、だれに書くかなどに悩む必要はない。相手探しで先に進まない児童には、「日本の友達」「祖父母」など指定する。形式はP34右下の例を参考にさせる。	⑥ 例「お元気ですか。ぼくは、とても元気です。この前、とても楽しいことがありました。ハロウィンパーティーです。…」
6分	⑦ 書いた手紙をみんなで読みあい、良いところを伝えさせる。	
2分	⑧ 次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・手紙を自筆で、かつ、縦書きで書くことがとても少なくなってきた。だからこそ、しっかり書けるようにしたい。例文は4行であるが、なりきって長く書けるようにしたい。それに当たり、毛筆（書写）で学習する中心線を意識して書かせるようにする。

# 40

題材名 「秋の楽しみ」 (第1時/1時間)

目標 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。(知・技)

領域等 B 書くこと

① 題材名「秋の楽しみ」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
「秋の行事の楽しさを伝える手紙を書こう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

③ 別な読み方を覚えさせる  
リズムカルに読ませて、覚えさせることを通して、日本語に興味をもたせる

⑥ 手紙を書く  
「誰に」「何」について書くかをはっきりさせることで手紙となる。もらった人の笑顔を想像しながら書

### 板書例

◎ 『秋』の楽しみ の手紙を書こう

◎ 「手紙」  
・だれに  
・何を伝える

◎ 『秋』の行事  
・紅葉  
・月見だんご  
↓ 行事  
↓ 手紙

◎ 別名  
・九月 ↓ 長月  
・十月 ↓ 神無月  
・十一月 ↓ しも月

秋の行事の楽しさを伝える手紙を書こう

秋の楽しみ

<日本の秋を知らない子への手だて>  
「食欲の秋」「読書の秋」「スポーツの秋」など日本では「〇〇の秋」と呼ばれるものがある。そこから自分の経験と合わせてイメージさせる。

⑧ 次時の予告をする。  
「次の時間は、『クラスみんなで決めるには』を学習します。」

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましよう)

--

「秋」にある好きな行事を書きましよう

--

行事を伝える短い手紙を書こう

--

友達が伝えてくれた良いところを書いておこう

--

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましよう)

秋の行事の楽しさを伝える手紙を書こう。

「秋」にある好きな行事を書きましよう

運動会、文化祭、ハロウィン、稲かり、  
遠足、ぶどうがり

行事を伝える短い手紙を書こう

お元気ですか。ぼくは、とても元気です。この前、とても楽しいことがありました。ハロウィンパーティーです。  
：

友達が伝えてくれた良いところを書いておこう

Aさんが「この手紙を本当におばあちゃんに出したらきつと喜ぶよ」といってくれました。おばあちゃんに会いたくなりました。

# 4 1

**題 材 名** 「クラスみんなで決めるには」 (第1時 / 3時間) 【話す・聞く】

**目 標** 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。(知・技)

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「クラスみんなで決めるには」を黒板に書く。	
2分	②p36 題名と最初の4行を読み、ここで学習することを線で引く。	②線で引く部分「役わりにおうじた、よりよい話し合いの進め方について考えましょう。なっとくできるけつろんを目ざして話し合いましょう」
3分	③本時の目標を黒板に書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">役わりを決めて話し合いをしよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	③ワークシートに丁寧(1画を意識して中心線にまっすぐ)に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
8分	④p37 ①を読んで役わりを確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「納得できる結論を目指す」ためのそれぞれの役割があることを意識させながら進める。</li> </ul>	
15分	⑤全文を読んで、司会の役割を確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・黙読させ、司会の役割が分かるところに線を引かせる。</li> <li>・線を引いたところをもとに、司会の役割を話させる。</li> <li>・教科書(線を引いたところ)を読ませるのではなく、まとめて(要約させて)話させる。</li> </ul>	⑤例「p41 下段の四角囲みの中に〈司会グループの役わり〉が書かれています。その中に…」
7分	⑥司会の役割をまとめさせる。	⑥例「多くの意見が出るように進行する…」
6分	⑦今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">令</div> ・位・置・欠・ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">満</div> (105字目 / 202字中)	⑦筆順、「とめ・はね・はらい」を意識して練習する
2分	⑧次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・在籍者が多い学校は、児童に共通する話題で話し合いをすることが望ましが、ここでは、少人数であることを想定して、教科書で学習を進める様展開する。

# 4 1

題材名 「クラスみんなで決めるには」 (第1時/3時間)

目標 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。(知・技)

領域等 A 話すこと・聞くこと

① 題材名「クラスみんなで決めるには」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
「役わりを決めて話し合いをしよう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

④⑤それぞれの役割を文中から読み取らせる。「〇〇に気がつけた方がいい」「〇〇した方がいい」のように話させる。

⑥司会が話し合いのキーマンになるので、どういった司会が良い司会かをみんなで確認する。

⑦今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

## 板書例

クラスみんなで決めるには

役わりを決めて話し合いをしよう。

・司会 ↓

・提案者 ↓

・参加者 ↓

☆今週の漢字

字をきれいにさせるポイント

☆ ひつじゅん

☆ とめ・はね・はらい

### <司会のイメージができない子への手だて>

○日本流の話し合いを考えると「予定調和型」だったり「波風立てず型」だったりする。ディベートや論争とは程遠い。ここでは、「多くの人々が納得できる結論」となる司会の役わりをイメージさせながら取り組ませる。

⑧次時の予告をする。

「次の時間は、『クラスみんなで決めるには』の続きを学習します。」

クラスみんなで決めるには

四年 組

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましよう)

--

司会グループの役わり

--

提案者の役わり

--

参加者の役わり

--

なっとくできるけつろんをめざす「司会」の役わり

--





今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましょう)

役わりを決めて話し合いをしよう。

司会グループの役わり

多くの参加者が発言できるように進行する

提案者の役わり

議題について理由をつけて提案する

参加者の役わり

進行にそって、自分の考えを伝える

なっとくできるけつろんをめざす「司会」の役わり

38 ページからの赤字部分を参考に

- 何について意見を求めるかをはっきりさせる
- 出た意見をまとめる

：

## 4 2

**題 材 名** 「クラスみんなで決めるには」 (第2時/3時間) 【話す・聞く】

**目 標** 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。(思・判・表)

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「クラスみんなで決めるには」を黒板に書く。	
3分	②本時の目標を黒板に書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">                     役わりをいしきしながら、読んでみよう                 </div>	②ワークシートに丁寧(1画を意識して中心線にまっすぐ)に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
8分	③p38からの話し合い例を声に出して先生が読む。 ・2回目は、役割分担(司会・参加者)をしながら読むことを予告して、先生が読む。感情を込めず、話し合いの雰囲気でも読ませる。 ・少し練習時間を与える。 ・2回目は、子どもにそれぞれの役割をもたせて読む。少人数の場合、一人2役もありうる。	③役になりきって読んでみよう。そのために少し練習してみよう。
10分	④前時の「それぞれの係で気を付けること」がp38の文章から読み取れるかどうかを意識しながら役割を変えて読ませる。(3回目)	
10分	⑤p38下段の注意を声に出して読ませる。それぞれができていたかを自己確認させる。	
10分	⑥すべてに気を付けて役割を変えて読む(4回目・最終)	
2分	⑦次時の予告をする。	

### 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・4回も同じことをすると嫌になるだろうが、役割をうまく変えることで意欲的に取り組めるように導く。

## 4 2

題材名 「クラスみんなで決めるには」(第2時/3時間)

目 標 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。(思・判・表)

領域等 B 話すこと・聞くこと

① 題材名「クラスみんなで決めるには」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

「役わりをいしきしながら、読んでみよう。」

・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

④⑤⑥ 役割を決め、例文を読む。それを通し、司会の役わりを考えさせる。

### 板書例

クラスみんなで決めるには

役わりをいしきしながら、読んでみよう。

◎なっとくできるけつろんを目ざす

◎それぞれの係で気をつけること

・ 参加者

・ 司会 ↓ ○○さん ↓ ○○さん

・ 参加者

・ 司会 ↓ ○○さん ↓ ○○さん

役わり 一回目 二回目

三回目 四回目

#### <話し合いが成り立たないクラスへの手だて>

○話し手が限られたり意見が出なかったりと話し合いが成り立たないクラスもみられる。例文を通して、話し合いの楽しさや必要感をとらえさせたい。一般的に話しにくい子どもに対しては、メモを取らせて話させたり、先生が聞き取ってみんなに伝えたりすることで自信をもてるようになる。

⑦ 次時の予告をする。

「次の時間は、『クラスみんなで決めるには』の続きを学習します。」



今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

役わりをいしきしながら読んでみよう。

それぞれの係で気をつけること(かじょう書きでメモしよう)

○司会・参加者で気をつけることをメモさせる。

司…手を挙げてください。↓みんながわかりやすいように進行する

参…わかりやすく自分の考えを話す。

全(全員)…ていねいな言葉遣いをする など

### 4 3

**題 材 名** 「クラスみんなで決めるには」 (第3時 / 3時間) 【話す・聞く】

**目 標** 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。(思・判・表)

#### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「クラスみんなで決めるには」を黒板に書く。	
3分	②本時の目標を黒板に書かせる。声に出して読ませる。 記録係の役わりを考えよう	②ワークシートに丁寧(1画を意識して中心線にまっすぐ)に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
7分	③記録係として気を付けるところを読み取らせる。 ・p39、40の記録を基に考えさせる ・記録係は黒板記録係なのかノート記録係なのかをはっきりさせると迷いが無い	③役になりきって読んでみよう。そのために少し練習してみよう。
10分	④先生がp38までからの例文を読んで、記録係になったつもりで記録させる。	
15分	⑤それぞれの役割を考えながら、話し合いのしかたについて気づいたことを伝え合わせる。	⑤例「話し合いで大切なことは…」
6分	⑥今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。 栄・ <span style="border: 1px solid black;">養</span> ・卒・ <span style="border: 1px solid black;">単</span> ・結 (110字目 / 202字中)	⑥筆順、「とめ・はね・はらい」を意識して練習する
2分	⑦次時の予告をする。	

#### 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・「記録」は疲れる、面倒くさいなど後ろ向きな意識をもつ子どもも多い。記録したものを見比べて、「記録」とはどんなものかをみんなで確認できると、意識が変わってくる。4年生で求められる「ゆっくり」「ていねい」な文字は、「記録」に関してのみ当てはめない。

### 4 3

題材名 「クラスみんなで決めるには」(第3時/3時間)

目 標 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。(思・判・表)

領域等 B 話すこと・聞くこと

① 題材名「クラスみんなで決めるには」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
「役わりを決めて話し合いをしよう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

③ それぞれの役割を文中から読み取らせる。「〇〇に気がつけた方がいい」「〇〇した方がいい」のように話させる。

⑤ テーマに戻り、「クラスみんなで決めるには」どうあるべきかを出し合う。

⑥ 今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

#### 板書例

クラスみんなで決めるには

記録係の役わりを考えよう。

◎ なっとくできるけつろんをめざす役わり  
・記録  
↓

◎ 記録してみよう

◎ クラスみんなで決めるには

☆ 今週の漢字  
字をきれいに見せるポイント  
☆ ひつじゅん  
☆ とめ・はね・はらい

#### <記録の役割が理解できない子への手だて>

○記録は要点をメモすることで、全文を書くことではない。この技を習得することで応用が可能。「重要な言葉を簡条書きにする」「言いたいことをしっかり聞いてまとめて書く」などの方法を教えたい。

⑦ 次時の予告をする。

「次の時間は、『漢字の広場』の続きを学習します。」

クラスみんなで決めるには

四年 組

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましよう)

--

記録係の役わり

--

記録してみよう

クラスみんなで決めるにはどうすればいいかメモしよう

--



今週の漢字(筆順や中心線を意識して、練習しよう)  
漢字(筆順、とめ、はね、はらいを意識して書く) 練習(文字・じゆく語・文章)

れい れい ぶんれい

れいだい

例例文例算数の例題を解く


◎学校では、「漢字」の部分2文字だけ書きます。筆順が難しかったり、形がとりにくかったりする漢字を選んで学習します。練習とあとの3文字は、じぶんががんばりましょう。教科書の最後にある「この本で習う漢字」を見れば、自分で練習できます。  
◎一画、一画、ゆつくり書きましょう。四年生では、これを「ていねいに書くこと」と考えてください。ていねいに書くことで、字もきれいになるし、漢字も覚えられます。

今週で  
文字 / 202文字中  
終了!!!  
がんばれ自分!

今週、ていねいに書けた漢字  
文字 / 5文字中  
よくやった自分!  
自分をほめよう。  
家の人にも見せよう。

今週の評価(よくできたら A。めざせ A)  
自己評価 A B C  
家の人からの評価 A B C  
家の人からの一言

クラスみんなで決めるには

四年 組

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましよう)

記録係の役わりを考えよう。

記録係の役わり

- わかりやすく、意見を表にまとめる
- かじよう書きに意見を書く

記録してみよう

記録係になったつもりで記録させる。  
広い裏面に書かせてもよい。

クラスみんなで決めるにはどうすればいいかメモしよう

全体を通して考えたことをメモさせ、それを基に話させる。

例・わかりやすく

- ・短く話す・書く
- ・テーマからそれない

## 4 4

**題 材 名** 「漢字の広場④」（第1時／1時間）【書く】

**目 標** 第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技）

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「漢字の広場」を黒板に書く。 【留意】「本単元は、第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使う」という【書く】単元であることを意識して指導する。	
2分	②p42最初の2行を読み、ここで学習することを線で引く。 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	②線で引く部分「どこで、どんなことが行われていますか。想像したことも加えて、文章に書きましょう」
3分	③本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">学校の様子を文章に書こう。</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	③ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
5分	④□で囲んである漢字を読む。	
5分	⑤出てくる漢字の読みを見なくても言えるように覚えることを伝え、先生の後について読ませる。読みながら覚えさせる。 【留意】アクセントに気を付けて読むようにする。覚えることで、漢字のリズムと日本語語彙を増やすことにつなげる。一般的に3分ですべて覚えられる。	⑤先生の後について漢字を読む。アクセントやリズムに気を付ける。
10分	⑥覚えた読みをひらがなでノートに書かせる。それを漢字に直すことを通して、漢字学習への意欲を駆り立たせる。 【留意】漢字は書けたところまでにする。全部書かせて漢字嫌いをつくらないようにする。	⑥覚えたものをひらがなでワークシートに書く。それを漢字に直す。
10分	⑦漢字をたくさん使って、学校の様子を書かせる。	⑦例「ぼくの好きな体育が校庭で行われています。先生の笛の合図で…」
6分	⑧書いたものを読みあって、自分の文章に書き足して、できるだけ長く、詳しく書かせる。 【留意】文章が挿入という形で完成させ、最初から書かせたり清書させたりさせない。	
2分	⑨次時の予告をする。	

### 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・ p42の「想像を加えて」が条件であることに注目させると長い文章を書けるようになる。
- ・ 「漢字の広場」であるが、最初から漢字を多用することを求めず、後で調べてみたり、友達の文章を読んで、漢字に直してあげるなど学習を広げていく。

# 4 4

題材名 「漢字の広場④」（第1時／1時間）

目標 第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技）

領域等 B 書くこと

① 題材名「漢字の広場④」を黒板に書く。

③ 本時の目標を児童に知らせる。

「学校の様子を書こう」

・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

⑤ 書かれている漢字を覚える。（3分）

新しい外国語の単語を3分で覚えるのと3語程度。みんなで全部覚えることは十分に可能。30人のクラスで3人ぐらいは全部覚

⑦ たくさんの漢字を使って学校の様子を書く。ここに出てくる漢字にこだわる必要はない。あとで文を読み合い、楽しめると言葉への興味が高まる。

## 板書例

漢字の広場④

学校の様子を文章に書こう。

3分

出てくる言葉をおぼえる  
↓ みんなで全部言えるように

◎ □でかこんである漢字を読む

- ・ 発音
- ・ 口をしつかり開けて

◎ おぼえた言葉を書く

- ・ 漢字なら◎
- ・ ひらがななら○
- ・ 一部でも△

↓ 漢字に直す

◎ 学校の様子を文章に書く

- ・ くわしく
- ・ わかりやすく

↓ 読み合う ↓ 直す

### <漢字への苦手意識がある子への手だて>

○漢字は書けなくてもICTが補ってくれる世の中になった。書けなくても読めなくても大丈夫程度の意識をもって無理やり指導することは控える。しかし、漢字は文化であり、書けたり読めたりすることは世界を広げる。あきらめたり逃げたりしないようにゆっくり導き、子ども自身で自分の世界を広げられるようにする。

⑩ 次時の予告をする。

「次の時間は、『世界にほこる和紙』を学習します。」

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

--

覚えた言葉をできるだけか漢字で書こう

--

何個ぐらい漢字を使えそうかな。

個は使ってみた

--

学校の様子をできるだけ漢字を使って書こう

--

い

個の漢字を使えたよ

--

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

学校の様子を文章に書こう。

覚えた言葉をできるだけか漢字で書こう

- ① 覚えた漢字を漢字で書く。
  - ② 漢字で書けない場合、ひらがなで書く。その後、調べて漢字に直す。
- 例 美化 短い  
さむい ↓ 寒い

何個ぐらい漢字を使えそうかな。

3

個は使ってみた

学校の様子をできるだけ漢字を使って書こう

学校では、いろいろなものを使って学習します。世界地図や…

い

5

個の漢字を使えたよ

# 45

**題材名** 「世界にほこる和紙」（第1時／5時間）  
**目標** 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（知・技）  
**領域等** C 読むこと  
目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。（思・判・表）

① 題材名「世界にほこる和紙」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
「中心となる語や文をメモしよう」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

④ 学習の進め方を読み取り、その手順で進めることを通して、「要約」をまとめる。

⑤ 「要約」とはどのようなことを自分の言葉でまとめることを通して理解させる。

⑥ 今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

## 板書例

世界にほこる和紙

中心となる語や文をメモしよう。

◎学習手順

- ・筆者の考えが書かれている段落を見つける。
- ・「初め」「中」「終わり」に分ける。
- ・考えの理由を2つ探す。
- ・「中」を2つに分ける。
- ・中心となる語や文を確かめる。
- ・中心となる語や文を使って要約する。

◎要約

↓ 中心の語を使って短くまとめる

☆今週の漢字

字をきれいに見せるポイント

- ☆ ひつじゅん
- ☆ とめ・はね・はらい

### < 難解な文を読めない子への手だて >

○長くわかりにくい文を読むことに抵抗のある子どもも多い。1回目は、教師がゆっくり読み、子どもは手でなぞりながら聞く。2回目は、大切なところに線を引きながら聞く。親しみをもてるように時間をかけて慣れさせることを繰り返す。

⑥ 次時の予告をする。「次の時間は、『世界にほこる和紙』の続きの学習をします。」

今日の学習(中心線を意識<sup>しぼ</sup>して、ていねいに書きましょう)

--

中心となる語や文をメモしよう

初め

--

中①

--

中②

--

終わり

--

要約

--





今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

中心となる語や文に線を引きながら読んでみよう。

中心となる語や文をメモしよう(3時間かけてメモしよう)

初め

無形文化遺産 世界にみとめられた 和紙のよさを知ってもらい、使ってほしい

中①

やぶれにくく長もち 千三百年前

中②

やぶれにくく 風合いが美しい ぬくもりがある

終わり

生活の中で使ってほしい

要約

自分の言葉を使って短くまとめる

## 4 6

**題 材 名** 「世界にほこる和紙」 (第2時/5時間) 【読む】

**目 標** 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(知・技)

目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。(思・判・表)

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「世界にほこる和紙」を黒板に書く。	①
3分	②全文を2回読むことを知らせる。 ・1回目は先生が読みます。ぼつと聞いて、話の全体をとらえるようにします。 ・2回目は自分で読みます。微音読(◎)でも黙読(○)でも音読(▲)でもいいです。中心となる語や文に線を引きましょう。	
3分	③p43 題名と最初の4行を読み、ここで学習することを線で引かせる。	
3分	④本時の目標を黒板に書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">                     中心となる語や文に線を引きながら読んでみよう                 </div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	④ワークシートに丁寧(1画を意識して中心線にまっすぐ)に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
12分	⑤先生が本文を読む。 ・「初め」の部分である p45 6行目まで読む。「話は続くが、もう一度最初から読むか続けるか」を問う ・「中」の一つ目 p47 3行目まで読む。「話は続くが、もう一度今の部分を読むか続けるか」を問う ・「中」の一つ目 p49 1行目まで読む。「話は続くが、もう一度今の部分を読むか続けるか」を問う ・「終わり」である最後まで読む ☆このとき、「初め」「中」「終わり」で切って読んだことは伝えなくてよい。児童が自分でとらえられるよう導く。	⑤最初から気負って線を引く必要はない。内容が頭に入ればいいんだ。
20分	⑥本文を読ませる。 ・微音読(◎)でも黙読(○)でも音読(▲)でもよい。読みながら、中心となる語や文に線を引かせる。	
2分	⑦次時の予告をする。	

### 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・読めない、わからないのは、海外で暮らしているからではなく、4年生だからであることを説明する。難しい、読みにくい文に当たった時、どうやったら最後まで読めるか、理解できるかを自分なりに見つけることが大切なことであることを十分に理解させたい。

# 4 6

**題 材 名** 「世界にほこる和紙」（第2時／5時間）  
**目 標** 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にし、書き表し方を工夫することができる。（知・技）  
**領 域 等** 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。（思・判・表）  
C 読むこと

① 題材名「世界にほこる和紙」を黒板に書く。

⑥ 「初め」「中①」「中②」「終わり」が意識できるように声をかける。

## 板書例

世界にほこる和紙

◎初め      ◎中      ◎終わり

中心となる語や文に線を引きながら読んでみよう。

< 難解な文を読めない子への手だて2 >  
○ 微音読は、内容を理解するのに有効な方法である。独り言のように自分だけに聞こえる小さな声で読む。」手で文字をなぞったり、大切なところに印をつけさせたりと活動を広げる。

⑦ 次時の予告をする。「次の時間は、『世界にほこる和紙』の続きの学習をします。」

# 47

**題材名** 「世界にほこる和紙」 (第3時/5時間) 【読む】

**目標** 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(知・技)

目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。(思・判・表)

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「世界にほこる和紙」を黒板に書く。	
3分	②本時の目標を黒板に書かせる。声に出して読ませる。	
7分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     中心となる語や文に線を引きながら読んでみよう                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	②ワークシートに丁寧(1画を意識して中心線にまっすぐ)に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
10分	③もう一度自分で読ませる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・微音読(◎)でも黙読(○)でも音読(▲)でもよい。</li> <li>・読みながら、中心となる語や文に線を引かせる。</li> <li>・「中心となる語や文」は「筆者の考えに通じる」「タイトル(筆者が一番言いたいこと)に通じる」ことをこのタイミングで意識させると学びが深まる。</li> <li>・音読の仕方を変えさせると、自分の学び方のスタイルが広がる。微音読⇔黙読。音読を進めないのは、読むことに意識がいき、中心となる語や文に意識がいなくなるからである。</li> </ul>	③「初め」で線を引く場所例 「伝統的な技術がユネスコの無形文化遺産に登録された」「世界に認められた」「和紙の良さを知ってもらい使ってほしい」「和紙には洋紙にない良さがある」「破れにくく長持ちする」など
15分	④自分が線を引いた部分と友達が引いた部分を比べさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「初め」の部分である p45 6行目まででどこに線を引いたかを比べる。発表させても2人組(パートナーを変えて2度ぐらいさせる)で比べさせてもよい。</li> <li>・友達の考えは、別な色で線を引くなど区別させる。</li> </ul>	
6分	⑤④の活動を最後まで行わせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達が選んだところで自分が選ばなかったのはなぜか。選ぶ必要があったかなどを考えさせることで、考えが広がっていく。</li> <li>・長い活動なので、「中①」「中②」「終わり」などの部分に分けて活動させる</li> <li>・次時につながるので時間で終わるようにする。</li> </ul>	
2分	⑥今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。 梅・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">灯</span> ・貨・変・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">種</span> (120字目/202字中)	⑥筆順、「とめ・はね・はらい」を意識して練習する
2分	⑦次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・筆者の考えを選び出す作業に陥らないよう、自分が選んだのに友達が選ばないやその逆など、考える学習を意識することが子どもに力を着けることに通じる。

# 47

**題材名** 「世界にほこる和紙」（第3時／5時間）  
**目標** 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（知・技）  
**領域等** 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。（思・判・表）  
C 読むこと

① 題材名「世界にほこる和紙」を黒板に書く。

③④ 「初め」「中①」「中②」「終わり」で線を引かせて、大切な語を挙げさせる。その後、友達同士で比べさせる。

⑥ 今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

## 板書例

世界にほこる和紙

中心となる語や文に線を引きながら読んでみよう。

◎初め

◎中

◎終わり

☆今週の漢字  
字をきれいにさせるポイント

☆ ひつじゅん  
☆ とめ・はね・はらい

< 難解な文を読めない子への手だて③ >  
○線を引きながら読むことをよく行う。将来的にも覚えておきたい技である。線を引いてある文は、あとからもう一度読まなくてはならない。読むことが苦手な子は、大切なところに丸を付けさせるとよい。一度でどこが大切かが良くわかる。

⑦ 次時の予告をする。「次の時間は、『世界にほこる和紙』の続きの学習をします。」







# 48

**題材名** 「世界にほこる和紙」 (第4時/5時間) 【書く】

**目標** 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(知・技)

目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。(思・判・表)

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「世界にほこる和紙」を黒板に書く。	
3分	②本時の目標を黒板に書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自分と友達が線を引いた部分を比べ、それを参考に「世界にほこる和紙」を要約しよう</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	②ワークシートに丁寧(1画を意識して中心線にまっすぐ)に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
10分	③自分が線を引いた部分と友達が引いた部分を比べさせる。 ・発表させても2人組(パートナーを変えて2度ぐらいさせる)で比べさせてもよい。 ・友達の考えは、別な色で線を引くなど区別させる。 ・友達が選んだところで自分が選ばなかったのはなぜか。選ぶ必要があったかなどを考えさせることで、考えが広がっていく。	
18分	④中心となる語や文を基に「世界にほこる和紙」を要約させる。 ・要約の意味が理解できているかどうかが重要になる(上 p86 「要約するとき」や p51 参照) ・つなぎ言葉を使い、意味の通る文章にする	
10分	⑤友達の書いた文を読ませる。 ・ノートを交換して読ませる。(自分の文章と友達の文章のどちらの方が意味が通じるか。どの言葉が文章を良いものになっているかなどに着眼させる。	
2分	⑥次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・ p51には「200字以内で要約する」とあるが、字数にこだわらず、適切な語や文を選び出せているかに焦点を置く。
- ・ 要約したものに自分の考えが入らないようにすることが必要である。教師は、児童の文章を読みその点を確認する。

## 4 8

- 題材名 「世界にほこる和紙」（第4時／5時間）
- 目標 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（知・技）
- 領域等 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。（思・判・表）  
B 書くこと

① 題材名「世界にほこる和紙」を黒板に書く。

- ③ 「初め」「中①」「中②」「終わり」で線を引かせて、大切な語を挙げさせる。その後、友達同士で比べさせる。
- ④ それを基に要約させる。
- ⑤ 要約した文章を友達と比べる

### 板書例

世界にほこる和紙

◎初め

◎中

◎終わり

自分と友達が出した部分を比べ、それを参考に「世界にほこる和紙」を要約しよう

### < 難解な文を読めない子への手だて 2 >

- 微音読は、内容を理解するのに有効な方法である。独り言のように自分だけに聞こえる小さな声で読む。」手で文字をなぞったり、大切なところに印をつけさせたりと活動を広げる。

⑦ 次時の予告をする。「次の時間は、『世界にほこる和紙』の続きの学習をします。」



今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

自分と友達が線を引いた部分を比べ、それを参考に「世界にほこる和紙」を要約しよう。

要約しよう

○要約文は、人によって書きっぷりが変わる。大切な言葉が落とさず挙げられているか、それをわかりやすくつないでいるか、短くまとまっているかななどで判断する。

例

和紙は魅力的で、日本の伝統的な技術である。その技は、世界に認められている。その和紙のよさを、多くの人に知ってもらいたいと思っている。…

# 49

**題材名** 「世界にほこる和紙」（第5時／5時間）【書く】

**目標** 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（知・技）

目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。（思・判・表）

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「世界にほこる和紙」を黒板に書く。	
2分	②p51「ひろげよう」を読んで学習の方向を確認させる。 ・要約の仕方 ・伝統工芸の良さ（p53「伝統工芸のよさを伝えよう」を参考にさせる。	
3分	③本時の目標を黒板に書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">要約した文章を読み合い、要約のしかたや伝統工芸のよさについて感じたことを伝え合おう</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	③ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
5分	④友達の書いた要約文を読ませる。 ・ノートを交換して読ませる。 ・自分と友達の文章のどちらの方が意味が通じるか。どの言葉が文章を良いものになっているかなどに着眼させる。	④例 「僕にはこの言葉がなかった。僕は重要だとは思うけどおもしろくないと思うな」 「友達の〇〇という言葉があるから、筆者の言いたいことが良く伝わっている。要約するのがじょうずだな」
15分	⑤「要約の仕方」のこつを自分の言葉で話し、意見交換をさせる	⑤例 「大切な言葉を全部入れるとかえってわかりにくくなる」 「つながぎ言葉をうまく使うと伝わりやすい」 「つい、自分の考えを入れたくなるが、それでは要約にならない」
10分	⑥「伝統工芸のよさ」を自分の言葉で話し、意見交換をさせる。 p57「リーフレットを読み合おう」を参考にさせる。	⑥例「ぼくが住んでいたところにも伝統工芸は…」
6分	⑦今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。 続・折・積・飯・松（125字目／202字中）	⑦筆順、「とめ・はね・はらい」を意識して練習する
2分	⑧次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・自分の考えを述べさせ、「筆者の考え」「自分の考え」を混同しないことを学ばせる。

# 49

**題材名** 「世界にほこる和紙」（第5時／5時間）  
**目 標** 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（知・技）  
**領域等** 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。（思・判・表）  
B 書くこと

① 題材名「世界にほこる和紙」を黒板に書く。

⑤「要約のしかた」は自分の体験を基に、⑥「伝統工芸のよさ」は筆者の考えを基に、自分の考えをわかりやすく伝えさせる。

⑦今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

## 板書例

世界にほこる和紙

要約した文章を読み合い、要約のしかたや伝統工芸のよさについて感じたことを伝え合おう

◎要約のしかた

◎伝統工芸のよさ

☆今週の漢字  
字をきれいに見せるポイント

☆ ひつじゅん  
☆ とめ・はね・はらい

<要約ができなと感じる子への手だて>

○「要約」は繰り返すことでできるようになっていく。「できない」「難しい」と感じたり口に出したりすることがあっても、「中学まで繰り返し勉強するから心配しなくてよい」ことを伝えていく。

⑦次時の予告をする。「次の時間は、『慣用句』の学習をします。」

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましよう)

--	--

要約のしかたをメモしよう

--	--	--	--

伝統工芸のよさをメモしよう

--	--	--	--





今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましよう)

要約した文章を読み合い、要約のしかたや伝統工芸のよさに  
ついて感じたことを話し合おう。

要約のしかたをメモしよう

- 中心となる語や文を探し出す。
- わかりやすくつなげる。
- 筆者の考えなど大切なことを書き落とさないようにする。

伝統工芸のよさをメモしよう

- 昔から続いていて、無くならないの  
には理由がある。
- …

# 50

**題材名** 「慣用句」（第1時／全1時間）  
**目標** 慣用句の意味を考えながら、慣用句が使える。  
**領域名** 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 本時の学習内容は、慣用句であることを知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">慣用句の意味をつかもう。</div> ・新出漢字を学習する。	・本単元の目標を知る。 ・新出漢字を学習する。
展開 25分	③ 学習内容（慣用句）をつかませる。 ④ いろいろある慣用句のなかで、体や心、動物や植物、カタカナの言葉があることについて理解を深める。 ⑤ 例文以外の慣用句について考えさせる。 ⑥ 教科書の問題に取り組ませる。 ⑦ 例題の文に適切な言葉を入れてみよう。 ⑧ 国語辞典の使い方を思い出そう。	・慣用句の基本的な使い方を理解する。 ・例題に取り組む。 ・問題に取り組む。 ・国語辞典を使って調べられることを知る。 ・国語辞典を使って調べる。
終末 15分	⑨ 教科書の文について慣用句の働きを考えよう。 ⑩ 教科書の中の慣用句を使って短い文を作ろう。 話し手の気持ちが接続語に表れる場合があることを知ろう。	・教科書の文について慣用句の働きを考える。 ・教科書に出てきた慣用句を使って、短文を作る。

## 指導のポイント

- 長い間使われてきた慣用句の意味を知り、生活の中で使うことができることを理解させる。
- 国語辞典を使って慣用句の意味や使い方を調べ、文の中で使えるようにする。

。

板書例

①慣用句（決まり文句）は、様子や話すときに気持ちを伝えるために大切なことを知らせる。

②新出漢字は、必要な使い方を理解させた上で、宅習で調べたり練習したりして理解を深めてもよい。

③いろいろある慣用句のなかで、体や心、動物や植物、カタカナの言葉があることについて理解を深める。を知らせる。

板書例

慣用句

慣用句の意味を知ろう。

火花を散らす

慣用句の基本的な使い方

体や心  
動物  
植物  
カタカナ

例題の文（適当な言葉を入れる）

国語辞典の使い

慣用句の働き

短い文を作ろう。（慣用句を使って）

⑤慣用句には、時代に合わないものや相手をいやな気持ちにさせることがあることを知らせる。

④文の中で、慣用句について国語辞典が使えることを知らせ、様子や気持ちを考える事が大切な事を知らせる。

「慣用句」

四年

組 氏名 (

)

慣用句	意味	使い方
火花を散らす		
頭をひねる		
心をよめる		
ねじのひたし		
つるのひし声		
ららり		
裏を切る		
ヒシシがかる		
又々入れる		
竹をわったまう		
雲をつかむまう		
水を打ったまう		
くもの子に散らす まう		
話をほめる		
息を殺す		
えさをす		
油をきる		
型にはまる		
世話を焼く		
なみたをのむ		

「慣用句」

四年

組

記入見本

氏名 (

)

慣用句	意味	使い方
火花を散らす	戦っている	赤組と白組が、綱引きで火花を散らした。
頭をひねる	考える	女達は、アエスを出すために頭をひねっていた。
心をめる	思いやりの気持ちで	お世話になった人に、心をめてお礼の手紙を書いた。
ねこのひたい	すごく狭い	小さい子ども達が、ねこのひたいみたいな場所で遊んでいた。
つるのひと言	一言言ふこと	騒いでいた人たちが、先生のつるのひと言で静かになった。
らりー	まるで同じ	あの兄弟は、らりーの双子みたいだ。
素を練ら	成功する	長い間の努力が素を練り、今回成功した。
エンジンがかかる	始める	長く始められなかったが、やつとエンジンがかかり始めることができた。
メスを入れる	手術する	お医者さんは、慎重にメスを入れていた。
竹をわたたよう	はつきりしていて気持ちが良い	彼は、竹をわたたような性格で、好感が持てる。
雲をつかむよう	どうやってもわからない	この池に落ちたコインを見つけるのは、雲をつかむような話だ。
水を打つたよう	すごく静かな	感動する話に、みんな水を打つたように静かになった。
くもの子を散らすよう	ペッと広がる	急に雨が降ってきたので、みんなくもの子を散らすように走った。
話がはずむ	楽しい話が続く	久しぶりに会ったので、昔の話がはずんで、楽しかった。
息を殺す	息を止める音も聞こえないくらい静かにする	みんな、息を殺して成功の瞬間を見守った。
えりをます	しつかりとやらんとする	大臣は急いで、えりを止して急ごうとした。
油を売る	おしゃべりで時間を過ぎ	途中で女達に会って油を売っていたら、約束の時刻に遅れた。
型にはまる	常識的で獨創性や新鮮味がない	せつがくのチャンスだったのに、型にはまった話しかできなかった。
世話を焼く	すすんでお世話をする	いつも、祖母は色々世話を焼いてくれる。
なみだをのむ	悔し思いをする	サッカーの試合は悔しくも敗れ、悔しなみだをのんだ。

# 51

**題材名** 「短歌・俳句に親しもう（二）」（第1時／全1時間）

**目標** 短歌を声を出して読むことで、言葉の調子や響きに親しむことができる。

◎ 積極的に言葉の調子やリズムに親しみ、覚えて言うことができる。

**領域名** 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 10 分	① 題材名「短歌を楽しもう」を黒板に書く。  ② 本時の目標を児童に知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px 0;">お気に入りの短歌や俳句を選んで声に出して楽しもう</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。	・本時のめあてを知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展 開 35 分	③ 読み方を工夫しながら、各自で俳句や短歌を繰り返し音読させる。 「読み方を工夫しながら、声に出して読んでみましょう」  ④ 風景や作者の気持ちを想像させて、発表させる。 「どんな風景や作者の気持ちが想像できますか」 ・日本の風景などの写真を用意すると想像しやすい。  ⑤ 気に入った短歌と俳句をワークシートに写させて、その理由も書かせる。その短歌と俳句を音読したり暗唱したりする。  ⑥ グループで、自分が選んだ理由を話して、お互いに音読しあう。 「選んだ理由を言って、お互いに声に出して読んでみましょう」	・俳句や短歌を繰り返し声に出して読む。  ・風景や作者の気持ちを想像して発表する  ・好きな短歌と俳句を選んでワークシートに写し、その理由を書く。 ・お互いに好きな短歌と俳句を選んだ理由を言って、声に出して読みあう。
終 末 5 分	⑦ 本時の学習を確認させる。 「短歌・俳句を楽しく読んで、作者の気持ちをつたえることができましたか」	・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

○日本の伝統文化に親しむ

- ・ここで取り上げた近代以降の作品から、伝統として引き継がれてきた日本語の美しさを味わわせる。
- ・作者が描こうとした風景や思いを児童なりに伝えようとすることで古人とのつながりを感じさせる。
- ・日本の風景を思い起こさせる写真などを準備するとよい。

## 板書例

- ① 題材名「短歌・俳句に親しもう」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。

- ③ 読み方を工夫しながら、各自で俳句や短歌を繰り返し音読させる。  
「読み方に工夫しながら声に出して読んでみましょう」
- ④ 風景や作者の気持ちを想像させて、発表させる。  
「どんな風景や作者の気持ちが想像できますか」  
・日本の風景などの写真を用意すると想像しやすい。
- ⑤ 気に入った短歌と俳句をワークシートに写させて、その理由も書かせる。その短歌と俳句を音読したり暗唱したりする。
- ⑥ グループで、自分が選んだ理由を話して、お互いに音読しあう。  
「選んだ理由を言って、お互いに声に出して読んでみましょう」

### 板書例

短歌を楽しもう

お気に入りの短歌や俳句を選んで声に出して楽しもう

一 短歌 五七五七七  
俳句 五七五  
読み方を工夫しましょう

二 風景や作者の気持ち

三 自分の好きな短歌と俳句  
その理由

- ⑨ 本時の学習を確認させる。  
「短歌・俳句を楽しく読んで、作者の気持ちをつたえることができましたか」

# 短歌・俳句に親しもう (二)

今日の学習のめあて 四年 組 氏名 ( )

- 一 短歌・俳句を読み方を工夫して、声に出して読んでみよう。
- 二 風景や作者の気持ちを想像してみよう。

三 気に入った短歌と俳句を写しましょう。理由も書きましょう。  
○短歌

理由

○俳句

理由



## 5 2

**題材名** 「漢字の広場⑤」（第1時／1時間）【書く】

**目標** 第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技）

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「漢字の広場」を黒板に書く。 【留意】「本単元は、第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使う」という【書く】単元であることを意識して指導する。	
2分	②p62 最初の2行を読み、ここで学習することを線で引かせる。	②線で引く部分「どこで、どんな人が何をしているか」を書きましょう
3分	③本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">「どこで」「どんな人が」「何をしているか」が分かるように書こう。</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	③ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
5分	④□で囲んである漢字を読む。	
5分	⑤出てくる漢字の読みを見なくても言えるように覚えることを伝え、先生の後について読ませる。読みながら覚えさせる。 【留意】アクセントに気を付けて読むようにする。覚えることで、漢字のリズムと日本語語彙を増やすことにつなげる。一般的に3分ですべて覚えられる。	⑤先生の後について漢字を読む。アクセントやリズムに気を付ける。
10分	⑥覚えた読みをひらがなでノートに書かせる。それを漢字になおすことを通して、漢字学習への意欲を駆り立てる。 【留意】漢字は書けたところまでにする。全部書かせて漢字嫌いをつくらないようにする。	⑥覚えたものをひらがなでワークシートに書く。それを漢字に直す。
15分	⑦漢字をたくさん使って、休日の様子を書かせる。 【留意】様子がわかりやすくなるように「どこで」「どんな人が」「何を」が書かれているかを指導する。	⑦例「公園で男の人がゴミ拾いをしています。美化に対する意しきが高い…」
2分	⑩次時の予告をする。	

### 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・「休日の様子」であることを前提に文章を書かせる。シチュエーションを意識することで、伝えたいことを伝える学習をブレのないものにする。
- ・「漢字の広場」であるが、最初から漢字を多用することを求めず、後で調べたり、時間があつたら友達の記事を読んで、漢字に直してあげたりする活動などを通し学習を広げていく。

# 5 2

題材名 「漢字の広場⑤」（第1時／1時間）

目標 第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技）

領域等 B 書くこと

① 題材名「漢字の広場⑤」を黒板に書く。

③ 本時の目標を児童に知らせる。

「「どこで」「どんな人が」「何をしているか」が分かるように書こう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

⑤ 書かれている漢字を覚える。（3分）

新しい外国語の単語を3分で覚えるのと3語程度。みんなで全部覚えることは十分に可能。30人のクラスで3人ぐらいは全部覚

⑦ たくさんの漢字を使って一年の出来事を書く。ここに出てくる漢字にこだわる必要はない。あとで文を読み合い、楽しめると言葉への興味が高まる。

## 板書例

漢字の広場⑤

「どこで」「どんな人が」「何をしているか」が分かるように書こう。

◎ □でかこんである漢字を読む

- ・発音
- ・口をしっかりと開けて

◎ 出てくる言葉をおぼえる

↓ みんなで全部言えるように

3分

◎ おぼえた言葉を書く

- ・漢字なら◎
- ・ひらがななら○
- ・一部でも△

↓ 漢字に直す

◎ 休日の様子を文章に書く

- ・ 「どこで」
- ・ 「どんな人が」
- ・ 「何をしているか」

↓ 読み合う ↓ 直す

### <漢字への苦手意識がある子への手だて>

○漢字は書けなくてもICTが補ってくれる世の中になった。書けなくても読めなくても大丈夫程度の意識をもって無理やり指導することは控える。しかし、漢字は文化であり、書けたり読めたりすることは世界を広げる。あきらめたり逃げたりしないようにゆっくり導き、子ども自身で自分の世界を広げられるようにする。

⑩ 次時の予告をする。

「次の時間は、『プラタナスの木』を学習します。」

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>して、ていねいに書きましよう)

--

覚えた言葉をできるだけか漢字で書こう

--

何個ぐらい漢字を使えそうかな。

--

個は使ってみたい

休日の様子をできるだけ漢字を使って書こう

--

--

個の漢字を使えたよ

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

「どこで」「どんな人が」「何をしているか」がわかるように書こう。

覚えた言葉をできるだけか漢字で書こう

- ① 覚えた漢字を漢字で書く。
- ② 漢字で書けない場合、ひらがなで書く。その後、調べて漢字に直す。

例 美化

短い

さむい↓寒い

何個ぐらい漢字を使えそうかな。

5

個は使ってみたい

休日の様子をできるだけ漢字を使って書こう

公園で男の人がゴミ拾いをしています。美化に対する意しきが高い：

8

個の漢字を使えたよ

# 5 3

**題 材 名** 「プラタナスの木」(第1時/3時間)【読む】

**目 標** 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表)

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「プラタナスの木」を黒板に書く。	
2分	②p63 題名と最初の4行を読み、ここで学習することを線で引く。	②線で引く部分「だれと出会い、どう変わっていくのでしょうか」
3分	③本時の目標を黒板に書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">登場人物の変化を読み取ろう。</div>	③ワークシートに丁寧(1画を意識して中心線にまっすぐ)に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
10分	④p74「ふかめよう」を読んで、「登場人物の変化」とはどのようなことかを確認しよう。 <b>【留意】</b> 文芸作品の読みは多様である。この学習を通し、何のために読むのかを理解してから作品と出会わせたい。これにより、学習のブレがなくなる。	④「登場人物の変化は、別の人に代わるわけではなく、思いや考え方が変わることなんだね」
15分	⑤「登場人物の変化」を意識して、「プラタナスの木」の全文を黙読しよう。 <b>【留意】</b> 最初と最後を比べるため、区切って読んでいくことも考えられるが、物語のよさを大切にするためにも、全文を続けて読ませるようにしたい。	
5分	⑥「登場人物」を確認し、紹介しよう。	
6分	⑦今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。 景・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">末</span> ・司・録・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">参</span> (135字目/202字中)	⑦筆順、「とめ・はね・はらい」を意識して練習する
2分	⑧次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・「物語文」は音読させる学習も多くみられる。ここでは、黙読としたい。ただたどしく読んだり聞かされたりするより、自分一人の世界で「椎名誠ワールド」を感じさせたい。これにより、登場人物に自分を重ねて考えられるようになると考える。

# 5 3

題材名 「プラタナスの木」(第1時/3時間)

目 標 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表)

領域等 C 読むこと

① 題材名「プラタナスの木」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

「登場人物の変化を読み取ろう。」

・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

③ 登場人物は、表記にもとづくようにする。「どんな子ども」かについては、「表記されていること」と「表記からわかること・想像したこと」を分けて考えたり記録させたりする。「サッカーが好きな子どもは良い子」のような根拠のない類推はさけない。

⑦ 今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

## 板書例

<p>☆今週の漢字</p> <p>字をきれいに見せるポイント</p> <p>☆ ひつじゅん</p> <p>☆ とめ・はね・はらい</p>	<p>○ 仲良し、サッカーが好き?</p> <p>○ 家が近い</p> <p>○ クラスは別々</p> <p>○ 四年生</p> <p>・ おじいさん</p>	<p>◎ 登場人物</p> <p>・ マーちゃん</p> <p>・ 花島君</p> <p>・ クニスケ  リーダー</p> <p>・ アラマちゃん  荒井さん</p>	<p>◎ 登場人物の変化</p> <p>・ 気持ちが変わる</p> <p>・ 考えや思いをもつ</p> <p>・ 成長する</p>	<p>登場人物の変化を読み取ろう。</p> <p>プラタナスの木</p>
--	---	---	---	--------------------------------------

### <長文を読めない子への3つの手だて>

○文章が長いだけで「読めない」「読みたいくない」子どももいる。①その子たちには、あらすじを伝えることで興味をもって読めるようになることがある。②長いという理由でどうしても読まない子には、物語の良さを十分感じられないこと承知の上で、ストーリーがつながるように抜粋して本時は読ませ、最後には全文読めるようにすることも可能。抜粋は「最初～p65L13→p66L12～p68L1→p71L3～p71L6→p72L9～最後」。③時間内に読めない子は、登場人物の学習をしている間に「自分のペースでいいよ。物語を楽しんで」と声をかけ、最後まで読ませるようにしたい。

⑧ 次時の予告をする。

「次の時間は、『プラタナスの木』の学習の続きをします。」







今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

### 登場人物の変化を読み取ろう。

○「登場人物の変化」とはどういうことか、話せるようにメモしてみよう。

○自分の考えをメモし、まとめてから話せるようにする。

「登場人物の変化は、別な人に代わるわけではなく、思いや考え方が変わることなんだね」

「登場人物」を確認し、しようかいしよう

- ・ マーちゃん
  - ・ 花島君
  - ・ クニスケ||リーダー
  - ・ アラマちゃん||荒井さん
- 四年生
- クラスは別々
- 家が近い
- 仲良し、サッカーが好き?
- ・ おじいさん

## 5 4

**題 材 名** 「プラタナスの木」(第2時/3時間)【読む】

**目 標** 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表)

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「プラタナスの木」を黒板に書く。	
3分	②本時の目標を黒板に書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">                     マーちゃんのプラタナスの木への思いを読み取ろう。                 </div>	②ワークシートに丁寧(1画を意識して中心線にまっすぐ)に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
13分	③マーちゃんのプラタナスの木への最初の思いを話し合おう。	③例「公園の目じるし」「とても良い日かげになる」→あることは知っているけど、特にほかの木と大きな違いはない。 「公園全体を守っている」「公園ができる前からプラタナスの木がある」→何かすごい木かもしれない
15分	④マーちゃんのプラタナスの木への最後の思いを話し合おう。	④例「森全体を守り、祖母の家だって守ってきた」「プラタナスの木がなくなっている」「切り株に乗って…」
10分	⑤マーチンのプラタナスの木への思いが変わったきっかけになった出来事について考えよう。	⑤「だまってすわりこんだ」…
2分	⑥次時の予告をする。	

### 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・この時間、文章を黙読させる時間を設定していない。しかし、子どもがマーチンの気持ちの変化の根拠を本文から挙げてくる。その時、その部分を音読させたり、微音読させたりしたい。

# 54

題材名 「プラタナスの木」 (第2時/3時間)

目 標 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表)

領域等 C 読むこと

① 題材名「プラタナスの木」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
「マーチンのプラタナスの木への思いを読み取ろう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

③④表にまとめて「くらべる」ことが簡単にできるようにする。

⑤今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

## 板書例

◎思いが変わったきっかけとなった出来事	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 50%;">最後</th> <th style="width: 50%;">最初</th> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森全体を守り、祖母の家だって守ってきた。木はすごい。プラタナスの木も同じ。</li> <li>・プラタナスの木がなくなっている</li> <li>・切り株に乗って：</li> </ul> <p>知らないうちに僕たちを守ってくれていた。大きな存在。 ←</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園の目じるし</li> <li>・とても良い日かげになる</li> </ul> <p>あることは知っているけど、特にほかの木と大きな違いはない。 ←</p> </td> </tr> </table>	最後	最初	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森全体を守り、祖母の家だって守ってきた。木はすごい。プラタナスの木も同じ。</li> <li>・プラタナスの木がなくなっている</li> <li>・切り株に乗って：</li> </ul> <p>知らないうちに僕たちを守ってくれていた。大きな存在。 ←</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園の目じるし</li> <li>・とても良い日かげになる</li> </ul> <p>あることは知っているけど、特にほかの木と大きな違いはない。 ←</p>	<p>◎マーチンのプラタナスの木への思い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">ろう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">マーチンのプラタナスの木への思いを読み取る。</div> <p style="text-align: right;">プラタナスの木</p>
最後	最初					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・森全体を守り、祖母の家だって守ってきた。木はすごい。プラタナスの木も同じ。</li> <li>・プラタナスの木がなくなっている</li> <li>・切り株に乗って：</li> </ul> <p>知らないうちに僕たちを守ってくれていた。大きな存在。 ←</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園の目じるし</li> <li>・とても良い日かげになる</li> </ul> <p>あることは知っているけど、特にほかの木と大きな違いはない。 ←</p>					

### <物語を読み深めるための手だて>

○「物語をこう読まねばならない」ということはない。とは言え、飛躍のし過ぎは読み深めの妨げになる。◎表記にもとづく(○ページ○行目の○○という言葉から)◎登場人物に思いを重ねる(「自分だったら」ではなく「この登場人物なら」と考えたい)など文章から物語の世界を楽しませたい。

⑥次時の予告をする。

「次の時間は、『プラタナスの木』の学習の続きをします。」

今日の学習(中心線を意識しぼして、ていねいに書きましよう)

--

マーチンのプラタナスの木への思い

最初	最後

思いが変わったきっかけとなった出来事をメモして話し合いに使おう

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましよう)

マーちゃんのプラタナスへの木への思いを読み取ろう。

マーちゃんのプラタナスの木への思い

最初

- ・公園の目じるし
- ・とても良い日かげになる

あることは知っているけど、特にほかの木と大きな違いはない。

最後

- ・森全体を守り、祖母の家だって守ってきた。木はすごい。プラタナスの木も同じ。
- ・プラタナスの木がなくなっている
- ・切り株に乗って：

知らないうちに僕たちを守ってくれていた。大きな存在。

思いが変わったきっかけとなった出来事をメモして話し合いに使おう

「だまってすわりこんだ」と書いてある。その間に、いろいろなことを考えたんだ。それは、：

# 5 5

**題 材 名** 「プラタナスの木」 (第3時 / 3時間) 【読む】

**目 標** 登場人物の気持ちの変化や性格, 情景について, 場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表)

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「プラタナスの木」を黒板に書く。	
3分	②本時の目標を黒板に書かせる。声に出して読ませる。 「プラタナスの木」という物語のみりよくを話そう。	②ワークシートに丁寧(1画を意識して中心線にまっすぐ)に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
15分	③作品の魅力を意識して、「プラタナスの木」の全文を黙読しよう。	
7分	④「プラタナスの木」という物語の魅力をメモしよう。	④例「プラタナスの木は何も語っていないけれど、多くのことを語りかけてくれている。そのことをマーチンたちが受け止めているところがすごい」
10分	⑤メモを基に「プラタナスの木」という物語の魅力を話し合おう。	
6分	⑥今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。 加・拳・協・験・極 (140字目 / 202字中)	⑥筆順、「とめ・はね・はらい」を意識して練習する
2分	⑦次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・椎名誠の文章の面白さや豊かさを押し付けることは好ましくない。「何かすごいなあ」とっかかりに、読書や物語、作者に興味をもってもらいたい。その観点で、p76「この本、読もう」は、児童の実態に合わせて扱わないと、かえって椎名誠の世界や物語の面白さから遠ざかる。

# 5 5

題材名 「プラタナスの木」(第3時/3時間)

目標 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表)

領域等 C 読むこと

① 題材名「プラタナスの木」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

「「プラタナスの木」という物語のみりよくを話そう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

⑤ 子どもたちの話を活発にするために、発言のエキスを簡条書きで書き記す。

⑥ 今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

## 板書例

プラタナスの木

◎ 「プラタナスの木」という物語のみりよく

- ・ プラタナスの木は何も語らない
- ・ 心に多くのことを語りかけてくる

「プラタナスの木」という物語のみりよくを話そう。

☆今週の漢字

字をきれいに見せるポイント

- ☆ ひつじゅん
- ☆ とめ・はね・はらい


### <話しを活発にする手だて>

○ 「付け足し」や「似ている」などを大切にしたい。同じ考え方が聞かれるとホッとする。一方、読みを広げたり多様さを認めたりするため、反論も大切なことであることを理解させたい。いずれにしても、「表記」を基に考えを出し合うようにしていく。

⑦ 次時の予告をする。

「次の時間は、『感動を言葉に』を学習します。」

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましよう)



○「プラタナスの木」という物語のみりよくを話せるようにメモしてみよう。





今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

「プラタナスの木」という物語のみりよくを話そう。

○「プラタナスの木」という物語のみりよくを話せるようにメモしてみよう。

○自分の考えをメモし、まとめてから話せるようにする。

「プラタナスの木は何も語っていないけれど、多くのことを語りかけてくれている。そのことをマーチンたちが受け止めているところがすごい」

# 5 6

**題 材 名** 「感動を言葉に」(第1時/3時間)【書く】

**目 標** 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表)

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「感動を言葉に」を黒板に書く。	
2分	②p77 題名と最初の4行を読み、ここで学習することを線で引く。	②線で引く部分「出会いや発見、感動を、詩にしてみましょう」
3分	③本時の目標を黒板に書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">生活の中の出来事を詩に書こう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	③ワークシートに丁寧(1画を意識して中心線にまっすぐ)に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
10分	④p78 <sup>1</sup> を読ませる。その上で、題材の例にあるような内容で「心を動かされたこと」を箇条書きにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「感動」を前面に出すと良いこともくすんでくる。何気ない中に「感動」がある。P77にあるように「伝えたいこと」を詩に表すようにする。</li> </ul>	
16分	⑤p78 <sup>2</sup> と下段を読んで、表現の工夫について考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現、改行、連、心の動きなどを視点に工夫を考える。</li> </ul>	⑤例「一行でも詩になるね」「『ぼくの中にも』の後で改行しているよ。続いているのに」
10分	⑥⑤の学習を参考に④で書いた題材の詩を書かせる。	
2分	⑦次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・「自分だけの詩集を作ろう」や「海外子女文芸作品コンクール」を意識して指導する。

# 56

題材名 「感動を言葉に」(第1時/3時間)

目標 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表)

領域等 B 書くこと

① 題材名「感動を言葉に」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

「生活の中の出来事を詩に書こう。」

・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

④ 「心を動かされたこと」について、題材例をもとに具体的にイメージさせる。その後、⑤の表現の工夫を考えさせながら「何について」「どう書いていくか」をはっきりさせていく。

⑥ 次回も詩を書くため、「もっと書きたい」と思える、短い時間(10分)で切り上げる。

## 板書例

感動を言葉に

生活の中の出来事を詩に書こう。

◎心を動かされたこと

- ・見たこと ↓
- ・くやしかったこと ↓
- ・思ったこと ↓
- ・うれしかったこと ↓

◎どことなくふう || 詩の組み立て

- ・連
- ・くり返し
- ・一行詩
- ・改行

◎詩を書いてみよう

- ・
- ・

### <詩を書きたがらない子への手だて>

○先生が「どうして」と問いかけると「何を書いていいかわからない 面白いことがない 感動しない」など話してくる。それを書き取り、最後に「ぼく・わたし」をつけ、『詩が書けないぼく』という題をつけて渡す。こうして身近な言葉が詩になることを知らせることで、垣根を低くしていく。

⑦ 次時の予告をする。

「次の時間は、『感動を言葉に』の続きの学習をします。」

今日の学習(中心線を意識<sup>しき</sup>して、ていねいに書きましょう)

--

心を動かされたことをかじょう書きで書き出してみよう。

--

詩を書く時のくふうをかじょう書きで書いてみよう

--

詩を書いてみよう

--

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>して、ていねいに書きましよう)

生活の中の出来事を詩に書こう。

心を動かされたことをかじょう書きで書き出してみよう。

- おいしいお弁当をお母さんが作ってくれる。
- お父さんが、私の絵をほめてくれた。
- 家から見るピチンチャに朝日があたってとてもきれい

書く時のくふうをかじょう書きで書いてみよう

一行でも詩になるね』『ぼくの中にも』の後で改行しているよ。  
続いているのに

詩を書いてみよう

海拔二八五〇Mに私は住む  
そこから見上げるピチンチャは  
さらに高い  
山を照らす光はもつともつと高い

# 57

**題材名** 「感動を言葉に」(第2時/3時間)【書く】

**目標** 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表)

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「感動を言葉に」を黒板に書く。	
3分	②本時の目標を黒板に書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">生活の中の出来事を詩に書こう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	②ワークシートに丁寧(1画を意識して中心線にまっすぐ)に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
10分	③詩を書かせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の続きで詩を書き深めてみる。</li> <li>・新たな題材を足しても構わない。</li> </ul>	③いろいろな言葉を挙げてつなげて詩にしよう。
12分	④p78 <sup>3</sup> を読ませる。文から工夫の観点を挙げさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちが伝わる言葉を選ぶ</li> <li>・言葉と言葉を組み合わせる</li> <li>・言葉の順序を入れかえる</li> <li>・詩を整える</li> </ul>	
10分	⑤④の観点で自分の詩を見直させる。	⑤読み返してみよう。声に出して読むと言葉のリズムの面白さも伝わるね。
6分	⑥今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。 芸・無・械・以・博(145字目/202字中)	⑥筆順、「とめ・はね・はらい」を意識して練習する
2分	⑦次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・「自分だけの詩集を作ろう」や「海外子女文芸作品コンクール」を意識して指導する。

# 57

**題材名** 「感動を言葉に」(第2時/3時間)  
**目標** 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表)  
**領域等** B 書くこと

① 題材名「感動を言葉に」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
 「生活の中の出来事を詩に書こう。」  
 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて

④ ③の観点で自分の詩を伝えたいことが伝わるように直していく。  
 新しいものを書いてよい。

③あとでもう一度詩を書くため、「もっと書きたい」と思える、短い時間(10分)で切り上げる。

⑥今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

## 板書例

感動を言葉に

◎詩を書いてみよう

生活の中の出来事を詩に書こう。

◎言葉をえらぶ

- ・気持ち伝わる言葉 ↓
- ・言葉と言葉を組み合わせる ↓
- ・言葉の順序を入れかえる ↓
- ・たとえる ↓

◎詩を見直す

- ・連
- ・くり返し
- ・一行詩
- ・改行

☆今週の漢字

字をきれいにさせるポイント

- ☆ ひつじゅん
- ☆ とめ・はね・はらい

### <詩の直し方がわからない子への手だて>

○「詩の直し方が分からない」という子どもには、あえて直させることをしない。有名な詩人でも、詩集によって言葉や表現が異なることがある。思いの変化が読み取れる。直せない子どもは、感動が完結しているのだからそれでよい。別な詩を書かせる。

⑦次時の予告をする。

「次の時間は、『感動を言葉に』の続きの学習をします。」





今週の漢字(筆順や中心線を意識して、練習しよう)  
 漢字(筆順、とめ、はね、はらいを意識して書く) 練習(文字・じゆく語・文章)

れい れい ぶんれい

れい だい

例 例 文 例 算 数 の 例 題 を 解 く

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

◎学校では、「漢字」の部分2文字だけ書きます。筆順が難しかったり、形がとりにくかったりする漢字を選んで学習します。練習とあとの3文字は、じぶんががんばりましょう。教科書の最後にある「この本で習う漢字」を見れば、自分で練習できます。

◎一画、一画、ゆつくり書きましょう。四年生では、これを「ていねいに書くこと」と考えてください。ていねいに書くことで、字もきれいになるし、漢字も覚えられます。

今週で

文字 / 202文字中

終了!!!

がんばれ自分!

今週、ていねいに書けた漢字

文字 / 5文字中

よくやった自分!

自分をほめよう。

家の人にも見せよう。

今週の評価(よくできたらA。めざせA)

自己評価    A    B    C

家の人への評価

                  A    B    C

家の人からの一言

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

生活の中の出来事を詩に書こう。

詩を書いてみよう

海拔二八五〇Mに私は住む  
そこから見上げるピチンチャは  
さらに高い  
山を照らす光はもつともつと高い  
山に夕日が光る  
……

# 58

**題材名** 「感動を言葉に」(第3時/3時間)【書く】

**目標** 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表)

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「感動を言葉に」を黒板に書く。	
3分	②本時の目標を黒板に書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">生活の中の出来事を詩に書こう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	②ワークシートに丁寧(1画を意識して中心線にまっすぐ)に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
10分	③詩を書いてみる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の続きで詩を書き深めてみる。</li> <li>・新たな題材を足しても構わない。(ワークシートの予備)</li> </ul>	③いろいろな言葉を挙げてつなげてみよう。
10分	④p79④を読ませる。友達の詩の工夫を伝えあわせる。	④例「この表現はぼくにはできないな。すごいね」
10分	⑤たくさん書いた詩の中で一番気に入ったものを友達の工夫を参考により良く直す。	
8分	⑥直したものを清書する。	
2分	⑦次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・「自分だけの詩集を作ろう」や「海外子女文芸作品コンクール」を意識して指導する。

# 58

題材名 「感動を言葉に」(第3時/3時間)

目標 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表)

領域等 B 書くこと

① 題材名「感動を言葉に」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

「生活の中の出来事を詩に書こう。」

・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

④ 友達の詩の良さを感じ取り、⑤の活動に活かしていく。繰り返しや「きれい」を「美しい」に変えるなどの言葉を変えるなど、ちょっとしたことで詩の雰囲気が変わる。

## 板書例

感動を言葉に

生活の中の出来事を詩に書こう。

◎前の時間に書いた詩をよりよく書いてみよう

◎友達の詩のくふう

◎清書しよう

### <先生が詩に手を入れるべきか>

○先生が詩を直したり、言葉を返させたりすることの是非は、子どもの実態に合わせたい。しかし、子どもの詩は子どものものであるため、そのままでもよい。「良い表現だね。もっとよくなる」「思いが伝わる言葉に変えてみる？」など主体的な活動に導くと学習が深まる。

⑦次時の予告をする。

「次の時間は、『冬の楽しみ』を学習します。」



今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましよう)

生活の中の出来事を詩に書こう。

詩を書いてみよう(清書)

輝く 明るく 赤く(題名を決める)

海拔二八五〇Mに私は住む

そこから見上げるピチンチャは

さらに高い

山を照らす光はもつともつと高い

山に夕日が光る

…

# 59

**題材名** 「冬の楽しみ」（第1時／1時間）【書く】

**目標** 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。（知・技）

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「冬の楽しみ」を黒板に書く。	
3分	【留意】「本単元は、積極的に語彙を豊かにし、行事を説明する文章を書こうとする」という【書く】単元であることを意識して指導する。	
3分	②p80 題名と最初の4行を読み、ここで学習することを線で引かせる。	②線で引く部分「冬の行事に関する言葉を入れたかるたをつくる」
3分	③本時の目標を書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">冬の行事の楽しさを伝えるかるたの読み札をつくろう。</div> 【留意】日本の冬をイメージを出し合って、「眼に浮かべられる」ようにする。 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	③ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
5分	④12月の別名が師走1月睦月2月如月を読んで、覚えさせる。 【留意】漢字で書く必要はない。すべての月の別名を学んだことになるので、1月から12月まで別名を思い出して言う。	④12～2月の別名を覚える。3～11月の別名を思い出す。
5分	⑤12～2月にかけて、または、冬にある好きな行事を挙げさせる。 月ごとに分けて書かなくてもよい。書くことの指導なので好きな行事がこの時期にない場合、月や季節にこだわらず、これから体験することでも構わない。また、「秋の楽しみ」挙げた行事でもよい。書く題材は短時間で探す。 例「クリスマス」「日本への帰国」「家族旅行」	⑤例「クリスマス、バレンタイン、着物を着る」
8分	⑥好きな行事を知らせるかるたの読み札を書かせる。 読み札は、短く、わかりやすく、リズム良くあることが求められることを伝える。3・5・7音はリズムカル。	⑥例「（5音）（7音）クリスマス」
8分	⑦読み札を読んで、どんな行事か、どんな絵札かを想像して、出し合うようにさせる。 ・実際に絵札を書く活動は行わない。	⑦例「クリスマスでみんなが楽しんでいる絵札だと思うよ」
6分	⑧今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。 管・便・孫・ <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">鼠</span> ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">借</span> （150字目／202字中）	⑧筆順、「とめ・はね・はらい」を意識して練習する
2分	⑨次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・絵札を書いて楽しむ活動も考えられるが、指導時間や子どもの実態をもとに時間配分をする。
- ・5・7音や韻を踏む、想像ができる情景を入れ込む、色や音、においや風が感じられる言葉を入れ込むことで言葉が広がる。



# 59

題材名 「冬の楽しみ」(第1時/1時間)

目標 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。(知・技)

領域等 B 書くこと

① 題材名「冬の楽しみ」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
「冬の行事の楽しさを伝えるかるたの読み札をつくろう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

③ 別な読み方を覚えさせる  
リズムカルに読ませて、覚えさせることを通して、日本語に興味をもたせる

⑥ 読み札を書く  
「春の七草」も5・7音でまとめられる。楽しくリズムカルな音遊びと思って作らせる。

⑧ 今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

## 板書例

冬の楽しみ

☆今週の漢字  
字をきれいに見せるポイント  
☆ ひつじゅん  
☆ とめ・はね・はらい

◎ 「冬の楽しみ」の読み札を書こう

◎ 「読み札」  
・三音、五音、七音 ↓ リズムが良い

◎ 『冬』の行事  
・もちつき  
・正月 ↓ 行事 ↓ かるたの読み札  
・節分

◎ 別名  
・十二月 ↓ しわす  
・一月 ↓ むつき  
・二月 ↓ きさらぎ

冬の行事の楽しさを伝えるかるたの読み札をつくろう

<日本の冬を知らない子への手だて>  
雪などの「自然」、年末、年始の「行事」、初もうでなどの「ならわし」などが素材となることをイメージさせる。

⑨ 次時の予告をする。  
「次の時間は、『自分だけの詩集を作ろう』を学習します。」

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましよう)

--

「冬」にある好きな行事を書きましよう

--

行事を伝えるかるたの読み札を書こう(三音・五音・七音を使おう)

--

読み札から想像できる絵の説明を書いてみよう

--



今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

冬の行事の楽しさを伝えるかるたの読み札をつくろう。

「冬」にある好きな行事を書きましょう

クリスマス、バレンタイン、着物を着る

行事を伝えるかるたの読み札を書こう(三音・五音・七音を使おう)

ひかる星  
かがやきまさる  
クリスマス

読み札から想像できる絵の説明を書いてみよう

クリスマスでみんなが楽しんでいる絵  
札だと思おうよ

# 60

**題材名** 「自分だけの詩集を作ろう」（第1時／1時間）【読む】

**目標** 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。（思・判・表）

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分 3分	①題材名「自分だけの詩集を作ろう」を黒板に書く。 ②本時の目標を黒板に書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自分だけの詩集をつくろう。</div>	②ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
15分	③p82の3編の詩を読んで、詩集をつくるなら何をテーマにどの順で並べるかを考えさせる。 ・一般的な詩集を参考に、伝えたいイメージをもたせる	③例「『月』を最初にするよ。1行詩はインパクトあるよ」
12分	④「感動を言葉に」で書いた詩のテーマの詩集を作るために詩を探させる。 ・詩集にまで至らなくても、同じテーマのいろいろな表現を感じ取る。 ・詩集がない場合、海外子女文芸作品コンクール入賞作品集を参考にさせる。	④例「日本の学校をテーマに詩を書いたから、入賞作品から同じテーマの詩を探そう。俳句や短歌も入れてみよう」
12分	⑤自分の詩と同じテーマの詩を探し、併せて一冊の詩集にする。	⑤選んだ詩をまとめて書き写そう。
2分	⑥次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・「感動を言葉に」や「海外子女文芸作品コンクール」を意識して指導する。

# 60

**題材名** 「自分だけの詩集を作ろう」（第1時／1時間）  
**目標** 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。（思・判・表）  
**領域等** C 読むこと

① 題材名「自分だけの詩集を作ろう」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

「自分だけの詩集をつくろう。」

・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

③ 何を伝えたいかやどんな読み手を想定するかによって並び方が変わってくる。どんな詩集にしたかがしっかり考えられていることが大切になる。

④⑤ 自分の詩とテーマが同じならば、別な題、別な内容でも良い。また、自分の詩が生きるなら、ほかのテーマでも構わない。「リズム」「形式」などに目を向けても良いだろう。

## 板書例

自分だけの詩集を作ろう

◎並べ方を考える

- ・伝えたいこと
- ・読み手のきょうみ
- ・リズム

◎詩をさがす

- ・詩のテーマを決めよう

◎詩集にまとめる

### <詩のおもしろみを知らない子への手だて>

○谷川俊太郎さんの詩や同年代のほかの子どもが書いた詩に興味をもてることがある。内容を突き詰めるとその面白味が半減することもある。子どもが楽しめるようなものを提示したい。

⑥次時の予告をする。

「次の時間は、『熟語の意味』を学習します。」

自分だけの詩集を作ろう

四年 組

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましょう)

--

何をテーマに、どの順でならべると思いが伝わるかな

--

どの詩をどの順でならべるか考えよう

--

自分だけの詩集を作ろう

四年 組

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましよう)

自分だけの詩集を作ろう。

何をテーマに、どの順でならべると思いが伝わるかな

学校をテーマにしたい。  
詩を2編さがしてきて、自分の作品を最後におく。  
そうすれば、学校の楽しさが伝わると思う。

どの詩をどの順でならべるか考えよう

- 学校をテーマにしたい。
- ① 「探してきた詩のタイトル①」
  - ② 「探してきた詩のタイトル②」
  - ③ 「自分の詩のタイトル」

詩集のタイトルは、「一日の楽しさがつまった時間」にしよう。



# 61

- 題材名** 「熟語の意味」（第1時／全2時間）
- 目標**
- ・訓などを手がかりにして、熟語の意味を考える。
  - ・熟語の構成をとらえる。
- 領域名** 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 熟語の構成や、熟語そのものの意味を調べることを知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;">熟語の意味を考える</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元の目標を知る。</li> <li>・学習の見通しをもつ。</li> </ul>
展開 25分	② 漢字辞典と国語辞典を適宜用いることを知らせる。 ③ 熟語：二つ以上の漢字が結びついて一語となった語。 ④ 訓：漢字を「和語」で読むこと。和語は本来の日本語であるから訓で読むと意味が分かる。 ⑤ 音：中国の発音にもとづいて読むこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓を手がかりにして熟語の 開 意味を考える。</li> </ul>
終末 15分	⑥ 「重箱読み」や「湯桶読み」の熟語を扱う場合は、それを十分に理解した上で、説明を加えながら取り上げるようにする。 ⑦ 一字ずつ、『訓』（やまとことば）で読ませると良い。	

## 指導のポイント

- 音読みでは理解しにくい熟語は、訓読みを手がかりにして熟語の意味を考える。
- 色々な熟語を構成する漢字の組み合わせ方を理解し、漢字の面白さが感じられるように工夫する。
-

# 板書例

## 板書例

熟語の意味

熟語の意味を考えよう。

漢字辞典と国語辞典（準備）

熟語の意味

（二つ以上の漢字が結びついて一語となった語）

訓読み（和語）  
大和言葉（やまとことば）  
（やまといふことば）

音読み（中国の発音にもとづいて読む）

①必要に応じて漢字辞典と国語辞典の使い方を復習すると良い。

②訓読み、音読みについては、必要に応じて復習すると良い。

④漢字が苦手な児童のためにクイズ形式にしたり、謎々にしたりするなど面白くする工夫が大切である。

③熟語は、訓読みで読むと意味が分かりやすくなることを強調したい。

「熟語の意味」 1

四年

組氏名 (

)

熟語	意味	練習
岩石		
運送		
転落		
森林		
悪人		
屋外		
洋服		
和服		
病人		
薬草		
登山		
開会		
習字		
消火		

「熟語の意味」

教材見本

w 61

四年

組 氏名 ( )

熟語	意味	練習	熟語	意味	練習
岩石	岩や石		飲酒		
運送	物などを別の場所に運ぶ		満員		
転落	転げ落ちる		遠近		
森林	樹木が生い茂っている所		姉妹		
悪人	悪い人		生死		
屋外	建物の外		苦楽		
洋服	洋風の服		消息		
和服	和風の服		不明		
病人	病気の人		不通		
薬草	薬になる草		無風		
登山	山に登る		無力		
開会	会を開く		未着		
習字	字を習う		未知		
消火	火を消す		不和		

## 62

- 題材名** 「熟語の意味」（第2時／全2時間）
- 目標**
- ・訓などを手がかりにして、熟語の意味を考える。
  - ・熟語の構成をとらえる。
- 領域名** 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 例題で、熟語の構成を考えることを知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">熟語の構成を考える</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元の目標を知る。</li> <li>・熟語を構成する漢字の組みあわせ方を理解する</li> </ul>
展開 25分	② 同じような意味の組み合わせについて理解させる。 ③ 上の字が下の字を説明する組み合わせについて理解させる。 ④ 何をどうするという組み合わせについて理解させる。 ⑤ 反対の意味をもつ漢字の組み合わせについて理解させる。 ⑥ 打ち消しを表す漢字との組み合わせについて理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色々な漢字の組み合わせ方を理解する。</li> <li>・教科書で漢字の組み合わせ方を確認する。</li> </ul>
終末 15分	⑦ 項目ごとに確認し、下段左の課題に取り組ませる。 ⑧ 次に学習することを予告する。	

### 指導のポイント

- 音読みでは理解しにくい熟語は、訓読みを手がかりにして熟語の意味を考える。
- 色々な熟語を構成する漢字の組み合わせ方を理解し、漢字の面白さが感じられるように工夫する。

①必要に応じて漢字辞典と国語辞典の使い方を復習すると良い。

②訓読み、音読みについては、必要に応じて復習すると良い。

### 板書例

#### 熟語の意味

熟語の構成を考えよう。

同じような意味の組み合わせの熟語。

上の字が下の字を説明する組み合わせの熟語。

何をどうするという組み合わせの熟語。

反対の意味をもつ漢字の組み合わせの熟語。

打ち消しを表す漢字との組み合わせの熟語。

(項目ごとに確かめ、下段の課題に取り組もう。)

③熟語は、訓読みで読むと意味が分かりやすくなることを強調したい。

④漢字が苦手な児童のためにクイズ形式にしたり、謎々にしたりするなど面白くする工夫が大切である。

「熟語の意味」 2

四年

組 氏名 (

)

熟語	意味	練習
飲酒		
満員		
遠近		
姉妹		
生死		
苦楽		
消息		
不明		
不通		
無風		
無力		
未着		
未知		
不和		

「熟語の意味」

教材見本

W 62 (W 61 と共通)

四年

組 氏名 (

)

熟語	意味	練習	熟語		
岩石	岩や石		飲酒		
運送	物などを別の場所に運ぶ		満員		
転落	転げ落ちる		遠近		
森林	樹木が生い茂っている所		姉妹		
悪人	悪い人		生死		
屋外	建物の外		苦楽		
洋服	洋風の服		消息		
和服	和風の服		不明		
病人	病気の人		不通		
薬草	薬になる草		無風		
登山	山に登る		無力		
開会	会を開く		未着		
習字	字を習う		未知		
消火	火を消す		不和		



# 63

**題材名** 「漢字の広場⑥」（第1時／1時間）【書く】

**目標** 第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技）

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「漢字の広場」を黒板に書く。 【留意】「本単元は、第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使う」という【書く】単元であることを意識して指導する。	
3分	②p86最初の2行を読み、ここで学習することを線で引かせる。	②線で引く部分「一年間の出来事を、学級新聞の記事にしましょう」
3分	③本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">一年間の出来事を文章に書く</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	③ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
5分	④□で囲んである漢字を読ませる。	
8分	⑤教科書の絵を見て、1年間の出来事を振り返ったり想像したりして思い出に残った出来事を選ばせ、文章に書かせる。 【留意】書く指導であるので、書きたい思いを大切にするために題材選びをしっかりとさせる。	⑤例「運動会、学芸会、餅つき大会、水泳、現地校交流」 例「今まで泳げなかったのに、今年の水泳大会で代表になりました。必死に泳いで…」
8分	⑥書いた文章を読み返し、間違いを直すなどして推敲させる。 ・漢字や送り仮名、句読点等が正しく使えているかを確認、間違いを直す。	
8分	⑦書いた文章を友達と読み合い、正しく漢字が使われているか評価させる。	
6分	⑧今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。 笑・省・残・周・課（160字目／202字中）	⑨筆順、「とめ・はね・はらい」を意識して練習する
2分	⑨次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・「一年の出来事」を意識するとp86の漢字を使わなくなることがある。「3年生までに習った漢字」を使うことが学習の中心になるので、こだわらずに書く力を伸ばすのも良い方法である。
- ・「漢字の広場」であるが、最初から漢字を多用することを求めず、後で調べたり、友達の記事を読んで、漢字に直してあげたりする活動などを通し学習を広げていく。
- ・推敲することはとても大切な力をつける。人に伝わるように文章を変えていく。「表現、漢字、つながり言葉、気持ちを表す言葉」など今までの学習で学んだことを使えるように導く。

# 63

題材名 「漢字の広場⑥」（第1時／1時間）

目標 第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技）

領域等 B 書くこと

① 題材名「漢字の広場⑥」を黒板に書く。

③ 本時の目標を児童に知らせる。

「一年の出来事を文章に書こう。」

・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

⑤ たくさんの漢字を使って一年の出来事を書く。ここに出てくる漢字にこだわる必要はない。あとで文を読み合い、楽しめると言葉への興味が高まる。

⑧ 今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

## 板書例

漢字の広場⑥

一年の出来事を文書に書こう。

◎ □でかこんである漢字を読む

・ 発音

・ 口をしつかり開けて

◎ 一年の出来事をふりかえる

・ 楽しかったこと

・ 人に伝えたいこと

・ 残しておきたいこと

・ 感動、涙、わらい

◎ 文章に書く ↓ 読み合う ↓ 直す

☆ 今週の漢字

字をきれいに見せるポイント

☆ ひつじゅん

☆ とめ・はね・はらい

### < 漢字への苦手意識がある子への手だて >

○ 漢字は書けなくてもICTが補ってくれる世の中になった。書けなくても読めなくても大丈夫程度の意識をもって無理やり指導することは控える。しかし、漢字は文化であり、書けたり読めたりすることは世界を広げる。あきらめたり逃げたりしないようにゆっくり導き、子ども自身で自分の世界を広げられるようにする。

⑨ 次時の予告をする。

「次の時間は、『うなぎのなぞを追って』を学習します。」

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましよう)

--

思い出に残った出来事を書こう↓そこから題材(何について書くか)を選ぼう

--

思い出に残った出来事をできるだけ漢字を使って書いてみよう。

--



今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましょう)

一年間の出来事を文章に書こう。

思い出に残った出来事を書こう↓そこから題材(何について書くか)を選ぼう

○運動会、学芸会、餅つき大会、水泳、  
現地校交流

思い出に残った出来事ができるだけ漢字を使って書いてみよう。

例 「今まで泳げなかったのに、今年の水泳大会で代表になりました。必死に泳いで…」

## 64

- 題材名** 「ウナギの謎を追って」（第1時／全4時間）
- 目標** ・科学読み物の中から、感動したことや興味を持ったことを中心にして紹介する。  
・要約を意識して文章を書く。
- 領域名** C 読むこと B 書くこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 学習のめあてを知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">文中で気付いたことや感動したことを紹介し合おう</div>	・本時の目標を知る。
展開 25分	② 通読後、学習の流れをつかませる。 ③ 新出漢字の学習をさせる。 ④ 気付いたことや感動したところに印をつけさせる。 ⑤ 例を参考にして、紹介することを決めさせる。 ⑥ 引用方式や要約方式、または併用などの書き方を決めさせる。	・学習の流れをつかむ。 ・新出漢字を学習する。 ・紹介することを決める。 ・紹介する方法を決める。
終末 15分	⑦ お互いに発表しあい、短冊（ポストイット）などを使って、改善点を考えさせる。 ⑧ まとめをさせる。>	・紹介することをお互いに発表しあう。 ・お互いに改善点を考える。

### 指導のポイント

- 紹介したいことを伝えるためには、段取りと工夫が大事なことを知らせる。
- 意見交換したことを自分の文章に生かせるかが、大切であることをわからせたい。
- 句読点が適切に打たれているか、段落の始めが改行されているか等を確認する。

## 板書例

②限られた時間内で引用したり要約したりすることになるので、本文に記しを付けられるようにする。

- ①・中心になることを選ぼう。  
順・通読しよう。  
・気づいたことや感動したことを整理しよう。  
・まとめたことを知らせる文章を書こう。  
・感想や意見の交流をしよう。

## 板書例

ウナギのなぞを追って

「文中で気付いたことや感動したことを紹介し合おう。」

新しく出てきた漢字（学習）

通読

（気付いたことや感動したところに印をつける。）

紹介したいこと（短冊に下書き）

整理しよう。（短冊をまとめる）

- ③初め：知らせること、調べること。  
私は、～に関心をもちました。（感動）  
それで、～について書きました。  
中：分かったことは、～です。  
結果は、～でした。  
その結果から、～が分かりました。  
終わり：考えたこと、分かったこと

「ウナギのなぞを追って」 1  
四年組 氏名 ( )

構成カード	内容
初め	
中	
終わり	



「ウナギのなぞを追って」 1 教材見本  
 四年 組 氏名 ( )

構成カード	内容
初め	<p>私は、うなぎの何がなぞなのだろうと思っていました。内容を讀むうちに、うなぎの赤ちゃんの育つ場所のことであることがわかりました。</p>
中	<p>うなぎの赤ちゃんは、レプトセファルスと呼ばれている。……</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>太平洋の深海ではなく、どうやら海山で育つらしい。</li> </ul>
終わり	<p>これらのことを解明するのに、三十年から四十年の調査と研究が行われていることがわかった。</p>

# 65

- 題材名** 「ウナギの謎を追って」（第2時／全4時間）
- 目標** ・科学読み物の中から、感動したことや興味を持ったことを中心にして紹介する。  
 ・要約を意識して文章を書く。
- 領域名** C 読むこと B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 学習のめあてを知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">通読し、紹介したいことを整理しよう</div>	・本時の目標を知る。
展開 25分	② 時間を決めて通読する。内容によっては、学級内で児童どうしや先生と一緒に考え合うことになる。 ③ 感動したことや興味を持ったことに着目させる。 ④ 用紙にまとめたり、思ったことを分類させたりする。 ④ 地図や表、グラフなどを活用することを考えさせる。	・構成の項目だてをする。 ・構成用紙を使う。  ・引用や要約を行うところに着目する。 ・見やすいように資料を作る。
終末 15分	⑥ 思ったこと考えたことなどを発表させ、それを文章のまとめの部分に生かすようにさせる。	・文章のまとめの部分のわかりやすいように文章を作る。 (宿題にしてもよい。)

## 指導のポイント

- 紹介したいことを伝えるためには、段取りと工夫が大事なことを知らせる。
- 意見交換したことを自分の文章に生かせるかが、大切であることをわからせたい。
- 句読点が適切に打たれているか、段落の始めが改行されているか等を確認する。

## 板書例

- ①・中心になることを選ぼう。  
順・通読しよう。  
・気づいたこと感動したことを整理しよう。  
・まとめたことを知らせる文章を書こう。  
・感想や意見の交流をしよう。

②限られた時間内で引用したり要約したりすることになるので、本文に記しを付けられるようにする。

### 板書例

ウナギのなぞを追って

通読し、紹介したいことを整理しよう。

紹介したいこと(内容)

わかりやすく(整理)

感動したこと

資料を作ろう。

どんな感想(わかったこと)

③初め：知らせること、調べること。  
私は、～に関心を持ちました。(感動)  
それで、～について書きました。  
中：分かったことは、～です。  
結果は、～でした。  
その結果から、～が分かりました。  
終わり：考えたこと、分かったこと  
これらのことから、私は～と思います。

「ウナギのなぞを追って」2

四年

組 氏名 (

)

No.

紹介したいこと	図や、手書きの絵などを入れる
紹介する内容	
	このことを知ってから自分の考え

「ウナギのなぞを追って」 2

教材見本

No.

四年

組 氏名 (

)

<p>紹介したいこと</p>	<p>図や、手書きの絵などを入れる</p>
<p>(例) レプトセファルス</p>	<p>(写真や手書きの想像図を考え、面白い内容にしていく。) .....</p>
<p>紹介する内容</p>	
<p>みなさんは、うなぎの赤ちゃんが、レプトセファルスと呼ばれていることを知っていますか。.....</p>	<p>このことを知ってからの自分の考え</p> <p>長い研究の結果から、わかる科学の素晴らしさの感想を書かせる。.....</p>

# 66

- 題材名** 「ウナギの謎を追って」（第3時／全4時間）
- 目標** ・科学読み物の中から、感動したことや興味を持ったことを中心にして紹介する。  
 ・要約を意識して文章を書く。
- 領域名** C 読むこと B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 学習のめあてを知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">構成を考えながら文章を書こう</div>	・本時の目標を知る。
展開 35分	② 構成カードを並べた順に、文章の下書きを書かせる。 ③ 机間指導をして、句読点が適切に打たれているか、段落の始めが改行されているか等を確認する。 ④ 四百字詰め原稿用紙に書かせても良い。 ⑤ グラフなどは、適当なところに貼り付けられるように指導する。	・構成カードにまとめる。 ・文章を書く。 （新聞の形式でもよい。） ・まとめたことを文章に書く。 ・下書きを校正する。 ・清書する。
終末 5分	⑥ 次時の予告をする。 次時は発表会を開く。	

## 指導のポイント

- 紹介したいことを伝えるためには、段取りと工夫が大事なことを知らせる。
- 意見交換したことを自分の文章に生かせるかが、大切であることをわからせたい。
- 句読点が適切に打たれているか、段落の始めが改行されているか等を確認する。

## 板書例

②限られた時間内で引用したり要約したりすることになるので、本文に記しを付けられるようにする。

- ①・中心になることを選ぶ。  
順・通読しよう。  
・気づいたこと感動したことを整理しよう。  
・まとめたことを知らせる文章を書こう。

## 板書例

ウナギのなぞを追って

構成を考えながら文章を書こう。

調べてみて分かったこと(書く順番)

下書きを書こう。(構成カード)

間違いがないか見直そう。

漢字

言葉遣い

段落など

④同じようなことを取り上げた複数の児童を話し合わせ、それについて意見を述べる。その後、児童席や壇上の児童が答える。いわゆるシンポジウムの形式にしても良い。

- ③初め：知らせること、調べること。  
私は、～に関心を持ちました。(感動)  
それで、～について書きました。  
中：分かったことは、～です。  
結果は、～でした。  
その結果から、～が分かりました。  
終わり：考えたこと、分かったこと

「ウナギのなぞを追って」3

四年

組 氏名 (

)

No.

紹介したいこと	図や、手書きの絵などを入れる
紹介する内容	
	このことを知ってから自分の考え



# 「ウナギのなぞを追って」3

四年

組 氏名 (

教材見本

W 65 )

No.

紹介したいこと	図や、手書きの絵などを入れる
(例) レプトセファルス	(写真や手書きの想像図を考え、面白い内容にしていく。) .....
紹介する内容	
みなさんは、うなぎの赤ちゃんが、レプトセファルスと呼ばれていることを知っていますか。..... 太平洋の深海ではなく、どうやら海山で育つらしい。 これらのことを解明するのに、三十年から四十年の調査と研究が行われていることがわかった。.....	このことを知ってからの自分の考え 長い研究の結果から、わかる科学の素晴らしさの感想を書かせる。.....

# 67

- 題材名** 「ウナギの謎を追って」（第4時／全4時間）
- 目標** ・科学読み物の中から、感動したことや興味を持ったことを中心にして紹介する。  
 ・要約を意識して文章を書く。
- 領域名** C 読むこと B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 学習のめあてを知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">文章を読み合い、紹介し合おう。</div>	・本時の目標を知る。
展開 30分	② できた文章を、交換してお互いに読みあわせる。 ・できた文章を、児童数分を印刷して渡せるとよい。 ・意見交換ができるように配慮する。	・文章をお互いに読みあう。 ・感想を交流し合う。
終末 10分	③ この学習で、工夫したり苦労したりしたところを書かせる。 ④ 次に学習することを予告する。	・最後の感想を書く。

## 指導のポイント

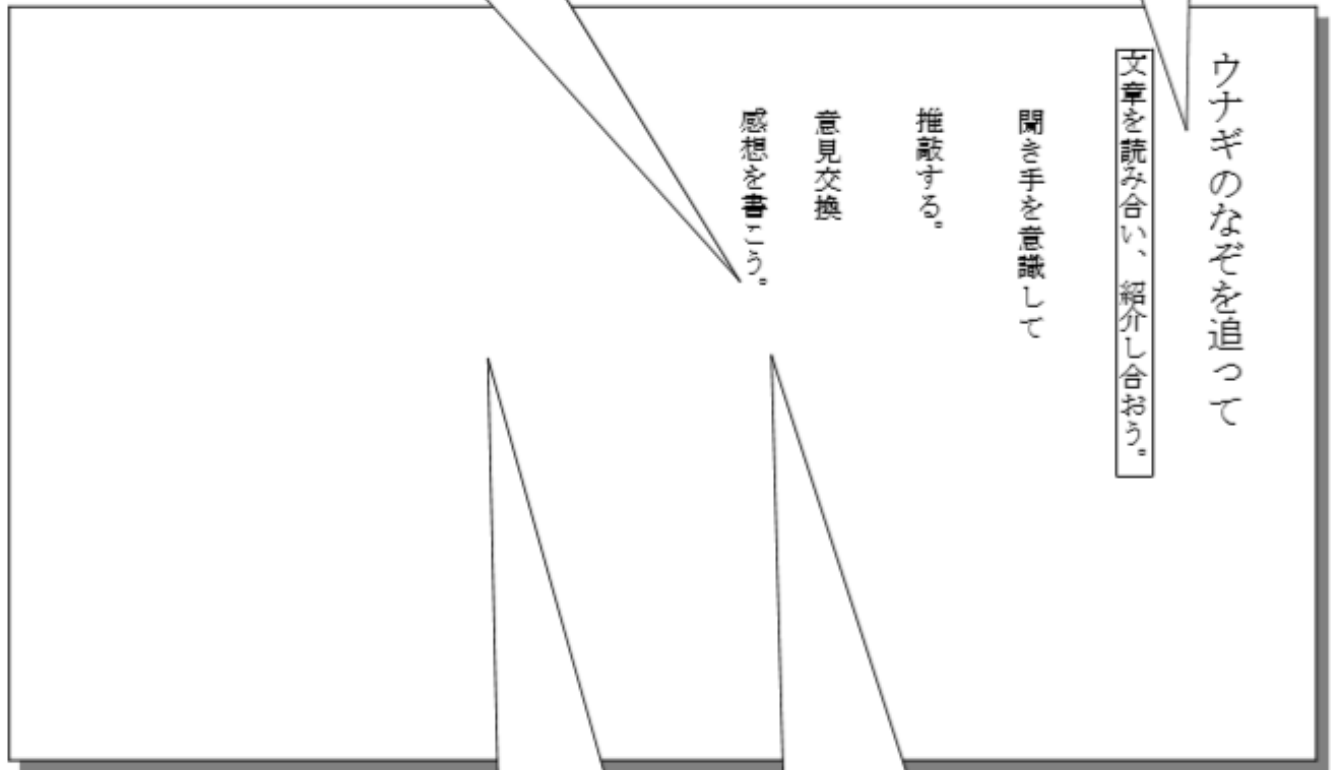
- 紹介したいことを伝えるためには、段取りと工夫が大事なことを知らせる。
- 意見交換したことを自分の文章に生かせるかが、大切であることをわからせたい。
- 句読点が適切に打たれているか、段落の始めが改行されているか等を確認する。

## 板書例

- ①・中心になることを選ぶ。
- 順・通読しよう。
- ・気づいたこと感動したことを整理しよう。
- ・まとめたことを知らせる文章を書こう。
- ・感想や意見の交流をしよう。

②限られた時間内で引用したり要約したりすることになるので、本文に記しを付けられるようにする。

板書例



文章を読み合い、紹介し合おう。

ウナギのなぞを追って

聞き手を意識して

推敲する。

意見交換

感想を書こう。

④同じようなことを取り上げた複数の児童を話し合わせ、それについて意見を述べる。その後、児童席や壇上の児童が答える。いわゆるシンポジウムの形式にしても良い。

③初め：知らせること、調べること。  
 私は、～に関心を持ちました。(感動)  
 それで、～について書きました。  
 中：分かったことは、～です。  
 結果は、～でした。  
 その結果から、～が分かりました。  
 終わり：考えたこと、分かったこと  
 これらのことから、私は～と思います。

「ウナギのなぞを追って」4

四年

組

氏名 (

)

No.	紹介されたこと	紹介された内容	自分で感心したこと
1			
2			
3			
4			

「ウナギのなぞを追って」 4 教材見本  
 四年 組 氏名 ( )

No.	紹介されたこと	紹介された内容	自分で感心したこと
1	(例) 調査の開始はいつ頃 調査方法	一九三〇年頃 調査方法について	そんなに昔から・・・ 大変な作業だ
2			
3			
4			

# 68

**題材名** 「つながりに気をつけよう」（第1時／1時間）【書く】  
**目標** 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解することができる。（知・技）  
 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表）

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「つながりに気をつけよう」を黒板に書く。 【留意】「本単元は、積極的に語彙を豊かにし、行事を説明する文章を書こうとする」という【書く】単元であることを意識して指導する。	
3分	②p101 題名と最初の3行を読み、ここで学習することを線で引かせる。	②線で引く部分「わかりやすい文章についてかんがえてみましょう」
3分	③本時の目標を黒板に書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">わかりやすい文章を書こう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	③ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
8分	④教科書の指示に従って、わかりやすい文章に直す練習をさせる。また、その理由を考えさせる。 ④－1 p101 4行目から読ませ、主述の対応を正しく直させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・主語をそのままにさせる（教科書通り）</li> <li>・述語を活かす（活用）</li> <li>・2文にする（活用）</li> </ul>	④－1 例「主語をそのままにするなら、文末を『めぐることです』にします」
8分	④－2 p102 最初から読ませ、読点（、）をうったり順番を入れかえたりさせる。	④－2 例「女の子の後に読点をうちます。また、必死での後に読点を打つと別な意味になります」
9分	④－3 p102 10行目から①と②を比べてどちらが読みやすいかを考えさせる。	④－3 例「ぼくは～です…」
10分	⑤p104 の黄色の部分をわかりやすくなるように教科書に書き直させる。 ・友達と見比べさせて、より良い直し方を考えさせる。	
2分	⑩次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・文章は、独自の表現方法があるので、書き方を押し付けるものではない。しかし、伝わらないのではどうにもならない。最低限で効果的に伝わる方法を考えさせ、意識させる。

# 68

**題材名** 「つながりに気をつけよう」（第1時／1時間）  
**目標** 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解することができる。（知・技）  
間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表）  
**領域等** B 書くこと

① 題材名「つながりに気をつけよう」を黒板に書

② 本時の目標を児童に知らせる。

「わかりやすい文章を書こう。」

・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

④ 教科書に従ってわかりやすい文章になおさせる。

教科書に直接書かせて構わない。教科書に書く文化がないなら、ワークシートに書いてもよい。

## 板書例

つながりに気をつけよう

わかりやすい文章を書こう。

◎ ぼくの目標は、外交官になって

めぐることです

世界各国をめぐるめまわります。

◎ 女の子は必死で走る弟を追いかけた。

例 必死なのはだれ？

女の子は、必死で走る弟を追いかけた

女の子は必死で、走る弟を追いかけた

### <主述の照応>

○主語と述語があっていないと文章は全く伝わらない。そのため、日本語ができないという評価がおこってしまう。「だれが」「なにをした」を【書く】学習の中で継続的に指導する。

⑩次時の予告をする。

「次の時間は、『もしものときにそなえよう』を学習します。」

つながりに気をつけよう

四年 組

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましよう)

--

分かりやすい文に書き直そう

ぼくの目標は、外交官になって世界各国をめぐるります。

--

女の子は必死で走る弟を追いかけた。

--

女の子は必死で走る弟を追いかけた。

--



つながりに気をつけよう

四年 組

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

わかりやすい文章を書こう。

分かりやすい文に書き直そう

めぐることです。

ぼくの目標は、外交官になって世界各国をめぐるります。

女の子は必死で走る弟を追いかけた。

女の子は必死で走る弟を追いかけた。

必死なのは姉。必死にの方が良い？

# 69

**題材名** 「もしものときにそなえよう」（第1時／4時間）【書く】

**目標** 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表）  
 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表）

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「もしものときにそなえよう」を黒板に書く。	
3分	②p105 題名と最初の4行を読み、ここで学習することを線で引かせる。	②線で引く部分「自然災害 どうそなえるとよいでしょう。調べて、自分の考えを書き、クラスみんなにしらせましょう」
3分	③本時の目標を黒板に書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">                     テーマを決めて調べよう。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	③ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
8分	④どんな自然災害を心配しているか出し合わせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・p106 下段のテーマ例を参照にさせる</li> <li>・理由も言わせるようにする</li> </ul>	④例「スコールが今まで以上に激しく、排水が間に合わず20cmを超える水が町にたまります。だから…」
8分	⑤自然災害への備えについて知っていることを出し合わせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・④で出された自然災害への備えについて出し合う。</li> <li>・友達が出したもののへの備えも出し合う。</li> <li>・簡単なメモを取らせる</li> </ul>	⑤例「冠水対策として、家では車高の高い自動車に乗っている」
13分	⑥テーマを決めさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べられるテーマを設定させる。</li> <li>・p106 上段8行目「ちがう方法」には、どんな方法がよいかp106 下段四角が込みを例に出し合うと良い。</li> <li>・調べたいテーマごとにグループを作り活動する。</li> </ul>	⑥例「ぼくは、家の人に聞くよ。災害への備えは万全だって言ってたよ」
6分	⑦今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">                     老・東・票・陸・各                 </div> （175字目／202字中）	⑦筆順、「とめ・はね・はらい」を意識して練習する
2分	⑧次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・自然災害に対して恐怖感をもつ児童もいる。国・住居環境や状況に応じて、「自然災害」をテーマとせず、調べて、整理して、書きまとめられるテーマを、実態に合わせたものを設定する。（例 紹介したい観光遺産 その国独自の食べ物 補習校の歴史）

# 69

**題材名** 「もしものときにそなえよう」（第1時／4時間）  
**目標** 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表）  
書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表）  
**領域等** B 書くこと

① 題材名「もしものときにそなえよう」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
「テーマを決めて調べよう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

④⑤ 最近の自然災害は、人命を奪うほど大きなものである。このテーマを扱うことで子どもが不安を感じないようにしたい。

⑤ 今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

## 板書例

もしものときにそなえよう

テーマを決めて調べよう。

◎自然災害

- ・ 地震
- ・ 台風
- ・ 異常な暑さ

◎備える

- ・ 食料の買い置き
- ・ かいちゆうでんとう
- ・ バッテリー

◎調べるテーマ || 調べられるテーマ

- ・

☆今週の漢字

字をきれいに見せるポイント

- ☆ ひつじゅん
- ☆ とめ・はね・はらい

<自然災害の備えが人任せな子への手だて>  
○そもそも海外で暮らしている子どもたちが、自然災害に目が向き、備えているかについては、はなはだ疑問がある。そう考えると、テーマとして適しているかを考える必要がある。自然災害を別なテーマで置き換えることは十分可能である。ただ、日本では、子どもも自分事として考えていかざるを得ないほど深刻になりつつあることは知ってお

⑧ 次時の予告をする。  
「次の時間は、『もしものときにそなえよう』の続きの学習をします。」





もしものときにそなえよう

四年 組

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

テーマを決めて調べよう。

メモに使う

### 自然災害とそなえについて

- 地しん…ものが落ちてこないところ  
にすぐ逃げる。
- たつまき…すぐに地下に逃げる。
- 非常用食料をよういしているよ。  
など、⑥でテーマを決めるために話し  
合っいていく内容をメモさせる。

調べるテーマは決まったかな？

# 70

**題材名** 「もしものときにそなえよう」（第2時／4時間）【書く】

**目標** 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表）  
 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表）

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「もしものときにそなえよう」を黒板に書く。	
3分	②本時の目標を黒板に書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">           テーマを決めて調べよう2。         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	②ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
18分	③テーマを確認し、調べる項目を挙げさせる <ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅で調べてくる想定であることを伝える</li> <li>・一般論・総論と国・都市に関する各論を調べるように導くと広がりがある。</li> <li>・p9「分ける くらべる」を参考にさせ、ほかの地域や例と分けたり比べたりさせると明確化する。</li> </ul>	
16分	④友達と調べ方（せまり方）のアドバイスをしあうようにさせる。	⑤例「…のことを調べるとおもしろいよ」
2分	⑤次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・自宅で調べられるテーマであることを確認する。調べる時間を確保するために、先に、別の単元を行い、2～3週後に3／4時間目を指導するのも良い。

# 70

- 題材名** 「もしものときにそなえよう」（第2時／4時間）
- 目標** 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表）  
書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表）
- 領域等** B 書くこと

① 題材名「もしものときにそなえよう」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
「テーマを決めて調べよう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

③ テーマに従って、何を調べていくかの見通しをもつことは大切なことである。④の活動も合わせて、調べられそうなことを挙げさせるようにする。

## 板書例

もしものときにそなえよう

テーマを決めて調べよう。

◎ テーマ

◎ 調べること

◎ アドバイスをもらおう

### <調べることを豊かにするための手だて>

- 【書く】ことは、やみくもに何でも書けばよいのではない。テーマから外れないこと、伝えたいことがはっきりすること、具体性があることなどが求められる。そのためにも、何を調べるかの見通しをしっかりとたせたい。「調べられるかどうかの検証」はひとまず置いておいて、まず、どんな切り口が考えられるかをさがさせる。友達のアドバ

⑤ 次時の予告をする。  
「次の時間は、『もしものときにそなえよう』の続きの学習をします。」





今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

テーマを決めて調べよう。

メモに使う

をテーマに調べる

知っていること・調べること

- 地震は日本で最近多い。
  - たくさんの人が被害にあっている。
  - つなみが起こる場合がある。
  - の一般的な一般論・総論と
  - 親戚が地震にあつて家がかたむいてしまった。みんな無事だったが、その家には住めなくなった。
  - お父さんの友達が地震の話をしてくれた。
  - この国ではあまり地震がおこらない。
  - などの各論をメモさせる。
- 「これなら地震について調べられそうだ」だから、「地震について調べていく」
- と、方向性を決めるメモづくりをさせる。

調べるテーマは決まったかな？

# 7 1

**題 材 名** 「もしものときにそなえよう」（第3時／4時間）【書く】

**目 標** 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表）  
 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表）

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「もしものときにそなえよう」を黒板に書く。	
3分	②本時の目標を黒板に書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">考えを伝える文章を書こう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	②ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
10分	④p108 <sup>4</sup> を読ませる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな文章を書くのかイメージをもたせる。</li> <li>・「はじめ・中・終わり」を意識させる。</li> <li>・内容把握がねらいなので音読の必要はない。</li> <li>・大切なところに線を引かせる。</li> </ul>	
10分	⑤p107にもどり <sup>2</sup> <sup>3</sup> を参考に調べてきたことを組み立てさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「初め」と「終わり」に書く自分の考えを明確にし、「中」に何を取り上げるかを決める。</li> </ul>	
12分	⑥自分の考えをまとめた文章を書かせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の伝えたいことや、作例から見つけた書き方の工夫を意識して文章を書かせる。</li> </ul>	
6分	⑦今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。 <sup>産</sup> ・求・付・ <sup>固</sup> ・塩（180字目／202字中）	⑦筆順、「とめ・はね・はらい」を意識して練習する
2分	⑧次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・教科書例は400字程度でまとめている。文字数にこだわらず、「中」で何を伝えるかを指導する。
- ・資料を添付して説明することも考えられる。

# 7 1

- 題材名** 「もしものときにそなえよう」（第3時／4時間）
- 目標** 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表）  
書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表）
- 領域等** B 書くこと

① 題材名「もしものときにそなえよう」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
「考えを伝える文章を書こう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

⑥ 調べてきたことをどのように組み立てるかが大切になる。どの順で書いていくか、どこに例を入れるか、結論の示し方など、イメージをもって文章を書かせたい。

⑦ 今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

## 板書例

もしものときにそなえよう

考えを伝える文章を書こう。

◎ 北山さんの文章の良いところ

◎ 木村さんの文章の良いところ

◎ どの順番で書いていくかを考える

☆ 今週の漢字  
字をきれいに見せるポイント

☆ ひつじゅん  
☆ とめ・はね・はらい

### <調べてこない子への手だて>

- そもそも調べてこない子どもたちは、文章を書くことができない。そこで、
- ・北山さんの文章をもとに大雨への備えについて書く
  - ・木村さんの文章をもとに地震への備えについて書く
  - ・2人の文章を合わせ、自然災害への備えについて書く

⑧ 次時の予告をする。  
「次の時間は、『もしものときにそなえよう』の続きの学習をします。」

もしものときにそなえよう

四年 組

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましよう)

--

北山さんの文章の良いところ

--

木村さんの文章の良いところ

--

文章の組立をくふうしよう

自分の考えをまとめて書いてみよう

--





## 7 2

**題 材 名** 「もしものときにそなえよう」（第4時／4時間）【書く】

**目 標** 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表）  
書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表）

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「もしものときにそなえよう」を黒板に書く。	
3分	②本時の目標を黒板に書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">考えを伝える文章を書こう 読み返そう</div>	②ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
27分	④p110⑤を読ませる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・書き直しの観点を確認させる。</li> <li>・書き直しは、本文を直接訂正させる。</li> <li>・時間があるようなら清書させる。</li> </ul>	
10分	⑤p110⑤を読ませ、友達の記事を読み合って感想を伝えあう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・よいところ、参考になったところ、初めて知ったことなどを伝えあう。</li> </ul>	
6分	⑦今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。	⑦筆順、「とめ・はね・はらい」を意識して練習する
2分	⑧次時の予告をする。	
分		

### 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・前時で書きあがっていない場合、本時でも時間を取る。
- ・書く時間を確保するために「読み合い、感想を伝える」は家庭に任せることもできる



## 7 2

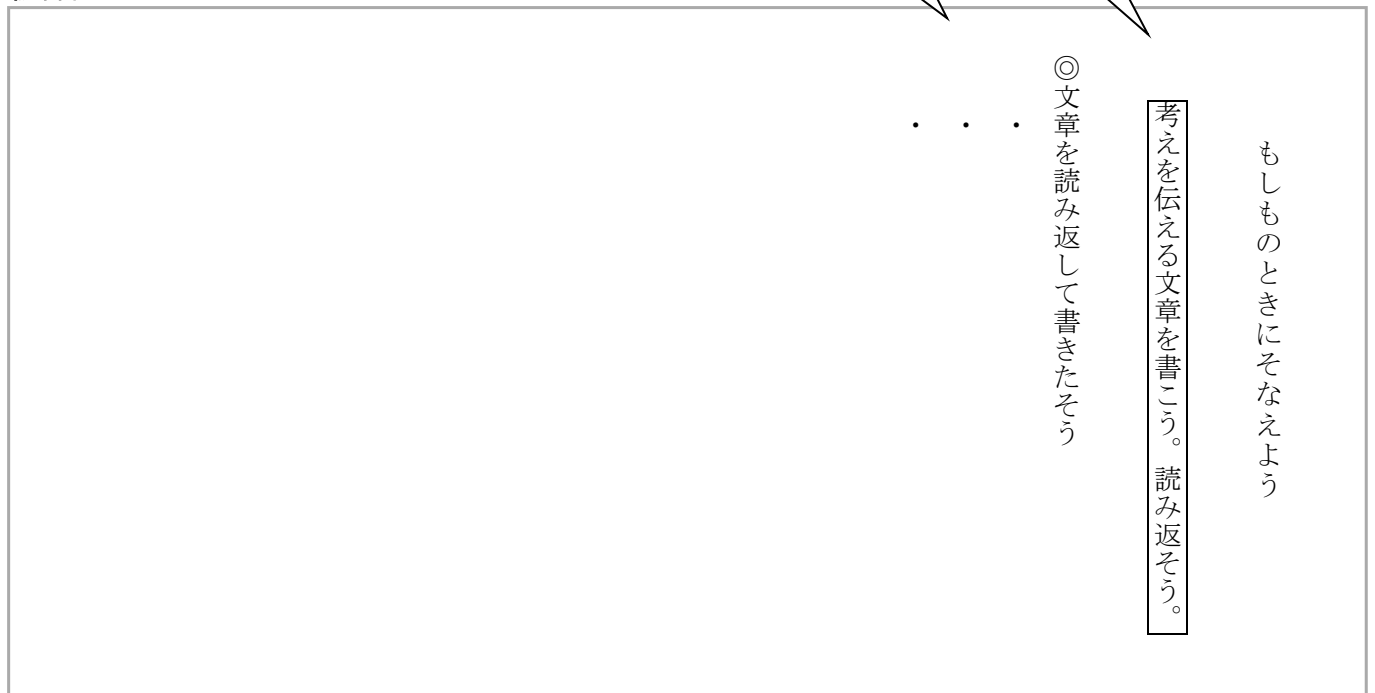
- 題材名 「もしものときにそなえよう」（第4時／4時間）
- 目標 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表）
- 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表）
- 領域等 B 書くこと

① 題材名「もしものときにそなえよう」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
「考えを伝える文章を書こう。読み返そう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

④ 前時で十分に書ききれない場合、ここで書かせるようにしたい。  
長文である必要はない。読み返し、校正するより書くことを優先したい。それでも⑤の感想交流の時間は確保したい。

### 板書例



#### <書くことが苦手な子への手だて>

○そもそも書けない、書くことが苦手な子どもには、調べてきたことをほめたうえで、北山さんや木村さんの文章を視写（書き写す）させる。どんなことを書けばよいかイメージできる。視写のポイントは、文章を少し覚えてそれを書くことである。単語ごとに移すのでは効果が薄い。覚えて書くので、ひらがなになったり、文章が変わったりする

⑧ 次時の予告をする。

「次の時間は、『調べて離そう、生活調査隊』の学習をします。」



もしものときにそなえよう

四年 組

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましょう)

考えを伝える文章を書こう。読み返そう。

書きたすときや直すときにこの用紙を使おう

自分で考えた組立の工夫を基に、北山さんや木村さんのような文章を書かせる。  
新たに書かせる必要はないが、書きたしや書き直しにこのスペースを使わせる。

# 73

**題材名** 「調べて話そう、生活調査隊」(第1時/3時間)【話す・聞く】  
**目標** 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。(知・技)  
 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表)

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「調べて話そう、生活調査隊」を黒板に書く。	
3分	②p112 題名と最初の4行を読み、ここで学習することを線で引かせる。 【留意】クラスの中で、調べ学習が成立する環境かどうかで学習の展開が変わってくる。ここでは、アンケートを取り、まとめて発表する学習を示すが、その環境にない場合、p114-115「資料の例」「発表の例」を使って、調べ学習なしに【話す・聞く】の学習を展開する。	②線で引く部分「生活に関するぎもんをグループで調査して、クラスみんなに発表しましょう。資料を使って、分かったことや考えたことが伝わるように話しましょう」
3分	③本時の目標を書かせる。声に出して読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">みんなで調べたいことを決めよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	③ワークシートに丁寧(1画を意識して中心線にまっすぐ)に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
10分	④グループに分かれ、p113①を読ませ、調べたいことを決めさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・【話す・聞く】の学習なので、自分の考えをしっかりとってわかりやすく伝える。また、相手の立場を考えながら聞き取ることを意識させる。</li> <li>・p113 下段四角囲みを例にして、決めさせる。</li> </ul>	④例「みんなに好きな日本食について聞いてみたいと思っていたんだ。だって…」
19分	⑤p113②を読ませ、資料を作るためにアンケートをとるなど、みんなの意見を聞くことができる方法を考えさせる。	⑤例「アンケートをとろうよ。子どもと大人に聞くと比べられるね」
6分	⑥今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。 側・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">勞</span> ・標・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">官</span> ・巢(20字目/202字中)	⑥筆順、「とめ・はね・はらい」を意識して練習する
2分	⑦次時の予告をする。	

## 指導のポイント

- 学習の進め方に関して
- ・「テーマ ⇒ 調べ方 ⇒ まとめ方 ⇒ 発表」とイメージをもたせて学習を進めたい。
  - ・アンケート調査の仕方は「上p96を参照」
  - ・3時間扱いなので、アンケートも簡単なものにした。

# 73

**題材名** 「調べて話そう、生活調査隊」（第1時／3時間）  
**目標** 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。（知・技）  
目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表）  
**領域等** A 話すこと・聞くこと

① 題材名「調べて話そう、生活調査隊」を黒板に書

② 本時の目標を児童に知らせる。  
「みんなで調べたいことを決めよう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

④ 学習内容を確認した上で、話し合いを子どもたちに任せていきたい。クラスの実態に応じ、どこまで全体で行うかをはっきりさせる。  
・「みんな」をどう考えるかまで

⑥ 今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

## 板書例

調べて話そう、生活調査隊

みんなで調べたいことを決めよう。

みんな ↓ クラス  
グループ ↓ 何人  
↓ テーマ別

調べたいこと ↓ テーマの決定法

☆ 今週の漢字  
字をきれいに見せるポイント  
☆ ひつじゅん  
☆ とめ・はね・はらい

◎ 調べる方法を考える ↓ 相談しよう

### <調べる内容と調べ方を充実させる手だて>

○興味がある内容は、子どもたちにとって追究できる内容となるのは自明であろう。逆に、伝えたい誰かを想定し、その人が喜びそうなことを調べてみるというのも面白い。喜んでくれる姿を想像しながら学習を進めることができる。調べ方は、アンケートのように広く意見を吸い上げることも可能。また、一人一人の考えを述べた後、「どの考えにみなさんは近いですか」と投げかけることも可。この場合、調べることが含まれないので、誰かにインタビューという活動を入れていくこと

⑦ 次時の予告をする。

「次の時間は、『調べて話そう、生活調査隊の続き』を学習しま

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

--

みんなで調べる

みんな

--

みんなで調べたいこと

--

調べる方法

--



今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

みんなで調べたいことを決めよう。

みんなで調べる

みんな

○何人で調べるか(グループ、2〜3人)  
可能性(見通し)だけメモさせる

みんなで調べたいこと

○家に帰ってから何をするか  
○好きな日本食  
○好きなアニメ  
○好きな野球選手 など  
調べたいこと・調べられる可能性があることメモさせる。

調べる方法

○アンケート  
○インタビュー など  
調べられる方法をメモさせる。



## 7 4

- 題材名** 「調べて話そう、生活調査隊」（第2時／3時間）【話す・聞く】
- 目標** 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。（知・技）
- 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表）

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「調べて話そう、生活調査隊」を黒板に書く。	
3分	②本時の目標を書かせる。声に出して読ませる。	②ワークシートに丁寧（1画を意識して中心線にまっすぐ）に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">アンケートと作る資料を考えよう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて読ませる。</li> </ul>	
10分	③p114③を読ませ、アンケート内容とまとめ方を考えさせる。 ○発表にしかた（例：資料を使ってクラスみんなに発表）を伝え、それを意識させて活動に取り組みさせる。	③例「みんなに好きな日本食について聞いてみたいと思っていたんだ。だって…」
28分	④－1【アンケート作成チーム】 簡単に答えられるアンケートを作らせる。 ・内容やだれにアンケートをとるかなどを考えながら作る ・すぐにまとめられる内容にする	④－1【アンケート作成チーム】 例「聞くのは『好きな日本食』のことだけにしよう。これなら聞きやすいしまとめやすいよ」
	④－2【資料作成チーム】 結果を見越して、まとめ方を考えさせる。 ・結果が出たらすぐにまとめられるように準備する。	④－2【資料作成チーム】 例「教科書のようにグラフがわかりやすいよ。書けるところは書いておこう」
2分	⑤次時の予告をする。	

### 指導のポイント

- 学習の進め方に関して
- ・④の場面はグループでの活動とする。日本では、このようなグループでの活動が多く出てくる。
  - ・アンケートは、各自、家でとってくるか、ほかの学年にとるか、先生にとるかが考えられるが、いずれも時間外の活動となる。

## 74

- 題材名** 「調べて話そう、生活調査隊」（第2時／3時間）
- 目標** 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。（知・技）  
目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表）
- 領域等** B 話すこと・聞くこと

① 題材名「調べて話そう、生活調査隊」を黒板に書

② 本時の目標を児童に知らせる。  
「アンケートと作る資料を考えよう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

④ 指導案では、2つに分かれて活動することになっている。指導時間が短く設置されている関係からである。時間が許すなら、どちらの学習もしたいところである。

### 板書例

調べて話そう、生活調査隊

アンケートと作る資料を考えよう。

◎アンケート内容

・何のために、何を調べる

◎どう調べる

◎どうまとめる？

#### <アンケートをよりよくとる手だて>

○アンケート対象者がどのぐらいいるかにもよるが、「イエス・ノー」で答えられたり、一言で回答できたりするアンケートを作ると集計も楽である。あれこれ聞きたいことも出てくるだろうが、できるだけ、少ない設問をわかりやすく聞くことが求められる。

⑤ 次時の予告をする。

「次の時間は、『調べて話そう、生活調査隊の続き』を学習します。」

今日の学習(中心線を意識<sup>し</sup>て、ていねいに書きましょう)

--

調べる目的と方法

何のために何を調べる

--

どう調べる

--

どうまとめる

--

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

アンケートと作る資料を考えよう。

調べる目的と方法

何のために何を調べる

みんなの遊びが広がるように家に帰ってから何をして遊ぶかを調べよう。  
のように、方向性をはっきりさせる。

どう調べる

○インタビューする。補習校の友達にできるだけたくさん聞いてみる。ほかの学年にも聞く。インターの友達にも聞いて、比べてみる。  
のように、可能性をメモさせる。

どうまとめる

○画用紙に書く。  
○遊びが多い順に表にまとめる。  
○一つブランクにしてみんなに当ててもらおう。  
など、まとめ方や発表にしかたのイメージをメモさせる。

# 75

**題材名** 「調べて話そう、生活調査隊」(第3時/3時間)【話す・聞く】  
**目標** 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。(知・技)  
 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表)

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
2分	①題材名「調べて話そう、生活調査隊」を黒板に書く。	
3分	②本時の目標を書かせる。声に出して読ませる。	②ワークシートに丁寧(1画を意識して中心線にまっすぐ)に目標を書く。大きな声でなくてよいので、ゆっくりと正しい発音で目標を読む。
22分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">資料をもとに発表しよう</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。 ③-1【アンケート作成チーム】 発表の準備をさせる。 ・相手を見て話したり聞いたりできるようにする ③-2【資料作成チーム】 アンケートをまとめ、資料を作らせる。 ・わかりやすく、説明しやすい資料を相談しながら作らせる	③-1【アンケート作成チーム】 例「話すときは、1位を最後にするとみんなが興味をもつよ。理由も伝えよう」 ③-2【資料作成チーム】 例「みんなに見えるように大きく書こう」
10分	④発表させる。 ・みんなで協力して作ったので聞き手がない。先生や校長先生に来ていただくようにする。または、交代で聞き手になる。	
6分	⑤今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。 候・察・兆・億・鏡(190字目/202字中)	⑤筆順、「とめ・はね・はらい」を意識して練習する
2分	⑥次時の予告をする。	

## 指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・④の場面はグループでの活動とする。日本では、このようなグループでの活動が多く出てくる。グループで協力させ、時間内にわかりやすく作るようにさせる。

# 75

**題材名** 「調べて話そう、生活調査隊」（第3時／3時間）  
**目標** 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。（知・技）  
目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表）  
**領域等** B 話すこと・聞くこと

① 題材名「調べて話そう、生活調査隊」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
「みんなで調べたいことを決めよう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。・声を合わせて読ませる。

④ 発表は、結果を伝えるだけでなく、なぜそれを調べたか、なぜその質問をしたかなどについても発表する。アンケートの結果（事実）とそこから生まれた考え（考察）を分けて発表するようにさせる。

⑤ 今週の漢字5つから2つ選び、新出漢字の練習をさせる。

## 板書例

調べて話そう、生活調査隊

みんなで調べたいことを決めよう。

◎どうまとめる？

◎発表

☆今週の漢字  
字をきれいに見せるポイント

☆ ひつじゅん  
☆ とめ・はね・はらい

### <発表をよりよくする手だて>

○小規模の補習校では、だれに向かって話すかが課題となる。聞き手がいれば、話し手の意欲は高まり、発表はよりよくなる。発表をよりよくするには、聞き手を育てることが大切である。話の聞き方は、「上」の教科書で学んだが、4年の最後でもあり、人間関係が醸成されているだろうから、形にこだわらず、素直な気持ちで聞いてあげることが次につながることを伝えていきたい。

⑥ 次時の予告をする。

「次の時間は、『まちがえやすい漢字』を学習します。」







今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

資料をもとに発表しよう。

発表準備、発表しよう

発表準備

- 資料を作る
  - 話すことを決める
- など、今日の見通しをメモさせる。

発表で伝えたいこと

- いろいろな楽しい遊びがあることを知ってもらいたい。
- など、伝えたいことを明確にする。

# 76

- 題材名** 「まちがえやすい漢字」（第1時／全1時間）
- 目標** 表現したり理解するために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解する。
- 領域名** 伝統的な言葉文化と国語の特質に関する事項

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「まちがえやすい漢字」を黒板に書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を用意する。</li> <li>本時の目標を知る。</li> </ul>
展開 35分	<p>使い方や読み方をまちがえやすい漢字を正しく 使いましょう 学習シートに、めあてを書きこませる。</p> <p>② 同音でも、漢字で書くと異なる意味の言葉になるものがあることに気づかせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同時に、文中の意味を考えて適切な漢字を使用しなければいけないことを理解させる。</li> </ul> <p>③ 正しい漢字の使い方を文章の意味を考えて当てはめさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>着る・切る、円い・丸い、事典・辞典、科学・化学を国語辞典で調べ、それぞれの言葉を使った文章を作らせる。</li> </ul> <p>④ なじみがあるのに読み間違える言葉を探させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>慣れ親しんでいる漢字なのに読みまちがえやすい言葉を確認させ、いろいろな漢字の読み方があることに関心を持たせる。</li> </ul> <p>⑤ 漢字辞典を使っていろいろな読み方を探させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4つの言葉には、他にどのような読み方があるか調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じ音の言葉があることに気づく。</li> <li>文中で正しい漢字を使わないといけないことに気づく。</li> <li>国語辞典を用いて、8つの言葉を調べる。意味をワークシートに書き込み、自分で文を作ってシートに書く。発表する。</li> <li>4つの例題を読む。</li> <li>国語辞典を用いて意味を調べる。</li> <li>4つの言葉を使って文章を作る。</li> </ul>
終末 5分	⑥ 学校では習わない読み方について調べさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書のP137以下を読み、漢末字の音訓だけではなく、小学校では習わない読み方があることを知る。</li> </ul>	

## 指導のポイント

- 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を身につけさせる。

- ①題材名「まちがえやすい漢字」を黒板に書く。
- ②本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを書き込ませる。

③同じ音なのに、漢字が違ふと意味が異なる言葉があることを知る。また、文の中の意味によって、使い方が異なってくることを知る。

④正しい漢字の使い方を文章の意を考えて当てはめる。

板書例

まちがえやすい漢字

文の中での言葉の意味を考えて、正しい漢字を使いましょう。

きる・・・切る・着る  
まるい・・・丸い・円い  
じてん・・・辞典・事典  
かがく・・・化学・科学

同じ音なのに、意味は違う言葉がある

合う・・・二つのものがぴったりと合う  
会う・・・友達と駅で会う  
早く・・・早くサンタが来ないかな  
速く・・・トンビは速く飛んだ  
感心・・・朝5時から勉強するなんて感心だ  
関心・・・トンボに関心があります。  
以外・・・鉛筆以外持ってきてはいけません  
意外・・・意外と頭が固いね

まちがえやすい漢字

なじみがあるのに読めない言葉や読み間違いやすい言葉を探しましょう。

米(こめ)・・・米作(べいさく)  
木(き)・・・木かげ(こかげ)  
気(き)・・・しめり気(しめりけ)  
羽(はね)・・・羽音(はおと)  
米(こめ)・・・米子市(よなごし)  
木(き)・・・古米(こまい)  
羽(はね)・・・木曜日(もくようび)  
羽(はね)・・・羽翼(うよく)  
夏(なつ)・・・夏至(げし) 立夏(りっか)

# まちがえやすい漢字

4年組 氏名( )

目標

--

国語辞典で調べましょう。

漢字	意味	この言葉を使った文を書きましょう。
米作 (べいさく)		
木(こ)かげ		
しめり気(け)		
羽音 (はおと)		

辞書を用いて次の言葉の意味を調べ、文章を作りましょう。

言葉	意味	文章
切る		
着る		
丸い		
円い		
辞典		
事典		
化学		
科学		

次の言葉を使って文を作りましょう。国語辞典を使いましょう。

例文	例文
合う	会う
早く	速く
感心	関心
意外	以外

他にも、同じ音なのに違う漢字の言葉を見つけたら、それを使った文章を書いてみましょう。

# まちがえやすい漢字

4年 組 氏名 ( )

目標

なじみがあるのに読めない言葉や読み間違いやすい言葉を探しましょう。

国語辞典で調べましょう。

漢字	意味	この言葉を使った文を書きましょう。
米作 (べいさく)		
木かけ (こ)		
しめり気 (け)		
羽音 (はおと)		

辞書を用いて次の言葉の意味を調べ、文章を作りましょう。

言葉	意味	文章
切る	連結しているものを断つ、離す。	髪の毛を切る。
着る	身につける。着用する。	洋服を着る。
丸い	かどかどしくない。穏やかである。	丸くおさめる。
円い	円形である。球形である。	部屋を円く掃く。
辞典	言葉を集めて配列し意味や用法などを解説した書物	国語辞典
事典	事物に関する知識を集めて配列し、項目ごとに配列した書物	百科事典
化学	物質の性質ならびにこれらの物質相互間の反応を研究する学問	化学薬品の爆発があった。
科学	世界の一部分を対象領域とする 経験的に論証できる系統的な合理的認識	人工衛星の打ち上げは、科学の進歩によるものだ。

次の言葉を使って文を作りましょう。国語辞典を使いましょう。

	例文		例文
合う	二つのものがぴつたりと合う	会う	友達と駅で会う
早く	早くサンタが来ないかな	速く	トンボは速く速く飛んだ
感心	朝5時から勉強するなんて感心だ	関心	トンボに関心があります。
意外	意外と頭が固いね	以外	鉛筆以外もつてきてはいけません

他にも、同じ音なのに違う漢字の言葉を見つけたら、それを使った文章を書いてみましょう。

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

どんなときに使うのかな

はやく治る↓

はやく走れる↓

戸があく↓

席があく↓

名札をかえす↓

先にかえす↓

きかい化↓

きかいをえる↓

英語いがい↓

いがいに近い↓

②意味調べ・文づくり

今日の学習(中心線を意識して、ていねいに書きましょう)

正しい漢字を使おう。

どんなときに使うのかな

はやく治る↓早く

はやく走れる↓速く

戸があく↓開く

席があく↓空く

名札をかえす↓返す

先にかえす↓帰す

きかい化↓機会

きかいをえる↓機会

英語いがい↓以外

いがいに近い↓意外

## ②意味調べ・文づくり

○米作…米作り 新潟は日本で有数の米作地帯だ。

のように、「意味」と「短文づくり」を書く。

ワークシートを読み合わせると語彙が広がる。

# 77

- 題材名** 「初雪のふる日」（第1時／全4時間）
- 目標**
- ・場面に移り変わりに注意し、登場人物の気持ちの変化や情景を、読み取ることができる。
  - ・考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方に、違いのあることに気づくことができる。
- 領域名** B 読むこと C 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 本単元の目標を知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">安房直子作品のひみつをさぐろう</div> ・教師が範読する。深い思い入れをせず、ゆっくりと大きな声で読む。 または、CDを聞かせる。	・本単元の目標を知る。 ・教師の範読かCDを聞く
展開 25分	② 初めの感想をノートに書いて、発表する。 ③ 四つの場面に分けて、場面を考えるが、大切な部分は教科書にサイドラインを引いたり、ノートに視写させたりして理解を深める手がかりにする。 ④ 場面毎の様子を考えたり、登場人物の気持ちを考えたりしながら、作者の気持ちを深く読み取ることが大切にする。 ・短冊に書かせる。	・ノートに初めの感想を書く。 ・4つの場面に分けて、大切な部分には線を引いたり、ノートに写す。 ・場面毎の様子を考えたり、登場人物の気持ちを考え、短冊に書かせる。
終末 15分	⑤ 登場人物が出てくるタイミングと、その出てくる理由を考えながら、作品のひみつに迫るようにする。	・登場人物の出てくるタイミングとその理由について考える。

## 指導のポイント

- 場面ごとに情景や人物の気持ちを深く読み取りながら、作者の主題に迫れるようにする。
- 作品の書き手の立場や、読む相手の設定を変える工夫を行い、理解を深める。



## 板書例

- ① 本単元の目標を知らせる。  
・教師が範読する。深い思い入れをせず、ゆっくりと大きな声で読む。または、CDを聞かせる。

- ② 初めの感想をノートに書いて、発表する。  
③ 四つの場面に分けて、場面を考えるが、大切な部分は教科書にサイドラインを引いたり、ノートに視写させたりして理解を深める手がかりにする。  
④ 場面毎の様子を考えたり、登場人物の気持ちを考えたりしながら、作者の気持ちを深く読み取ることが大切にする。

### 板書例

短歌を楽しもう

安房直子作品のひみつをさぐる

初めの感想を発表しよう。

四つの場面に分けてみよう。

考えたことを、短冊に書こう。

学習問題を考えよう。

- ⑤登場人物が出てくるタイミングと、その出てくる理由を考えながら、作品のひみつに迫るようにする。

「初雪のふる日」を読んで

四年

組 氏名 (

)

読んでからの自分の気持ちを書いてみましょう。

※ 作文用紙使用が望ましい。



# 78

- 題材名** 「初雪のふる日」 (第2時／全4時間)
- 目標**
- ・場面の移り変わりに注意し、登場人物の気持ちの変化や情景を、読み取ることができる。
  - ・考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方に、違いのあることに気づくことができる。
- 領域名** B 読むこと C 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	①本時のめあてを知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">場面ごとに中心となる課題を発表し合おう</div>	
展開 35分	② 音読させる。 ③ 場面分けをどうするか考えさせる。 ④ 場面ごとに中心となる課題を発表し合おう。 ・全体は大きく分けて四場面になるが、学習課題として考えたいものを場面ごとに分けて書かせる。 ⑤ なぜ、女の子が石けりをするようになったのかを考えさせる。 ⑥ うさぎの列から出られない時の女の子の気持ちを考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読する。</li> <li>・四つの場面に分ける。</li> <li>・学習課題として考えたいものを場面ごとに分けて書く。</li> <li>・場面ごとに中心となる課題を決める。</li> <li>・登場人物の気持ちを読み取る。</li> </ul>
終末 5分	⑦ 次時の予告をする。	

## 指導のポイント

- 場面ごとに情景や人物の気持ちを深く読み取りながら、作者の主題に迫れるようにする。
- 作品の書き手の立場や、読む相手の設定を変える工夫を行い、理解を深める。

# 板書例

- ① 本時のめあてを知らせる。  
場面ごとに中心となる課題を発表し合おう

- ②音読させる。  
③場面分けをどうするか考えさせる。  
④場面ごとに中心となる課題を発表し合おう。  
・全体は大きく分けて四場面になるが、学習課題として考えたいものを場面ごとに分けて書かせる。  
⑤なぜ、女の子が石けりをするようになったのかを考えさせる。  
⑥ うさぎの列から出られない時の女の子の気持ちを考えさせる。

## 板書例

短歌を楽しもう

場面ごとに中心となる課題を発表し合おう

課題として考えた理由

なぜ、女の子が石けりをするようになったのか

うさぎの列

出られなくなった

女の子の気持ち

- ⑦ 次時の予告をする。

「初詣のふる日」を読んで 2

四年 組 氏名 ( )

場面	中心場面
1	
11	
111	
四	

# 「初雪のふる日」を読んで 2

四年

組氏名 (

教材見本

)

場面	中心場面
一	<p>最初、村の一本道を女の子が歩いていました。</p> <p>石けりを調子よくやっていたのに、粉雪が降り始めて少し心配になりました。</p>
二	<p>後ろから、白いうさぎが続いてきて、その列の中に入ってしまった。</p> <p>女の子が心配。</p>
三	
四	

# 79

- 題材名** 「初雪のふる日」（第3時／全4時間）
- 目標**
- ・場面に移り変わりに注意し、登場人物の気持ちの変化や情景を、読み取ることができる。
  - ・考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方に、違いのあることに気づくことができる。
- 領域名** B 読むこと C 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 本時のめあてを知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">作者がこの作品を通じて伝えたかったことを考えよう</div>	・本時のめあてを知る。
展開 25分	② 音読させる。 ③ おばあさんの存在と、うさぎの列から離れられた訳を考えさせる。 ④ 町の人たちに親切にされた時の気持ちを、読み取らせる。	・音読する。 ・場面ごとに中心となる課題を決める。 ・登場人物の気持ちを読み取る。
終末 15分	⑤ 作者がこの作品を通じて伝えたかったことを、考えさせる。	・作者がこの作品を通じて伝えたかったことを読みとる。

## 指導のポイント

- 場面ごとに情景や人物の気持ちを深く読み取りながら、作者の主題に迫れるようにする。
- 作品の書き手の立場や、読む相手の設定を変える工夫を行い、理解を深める。



## 板書例

① 作者がこの作品を通じて伝えたかったことを考えよう。

- ② 音読させる。
- ③ おばあさんの存在と、うさぎの列から離れられた訳を考えさせる。
- ④ 町の人たちに親切にされた時の気持ちを、読み取らせる。

### 板書例

短歌を楽しもう

作者がこの作品を通じて伝えたかったことを考えよう

おばあさんの存在

うさぎの列から離れられた訳を

町の人たちに親切にされた時の気持ち

作者が伝えたかったこと

⑤ 作者がこの作品を通じて伝えたかったことを、考えさせる。

「初雪のふる日」を読んで 3

四年 組 氏名 ( )

場面	中心場面
一	
二	
三	
四	

「初雪のふる日」を読んで

四年

組

3

氏名 (

教材見本

)

場面	中心場面
一	<p>最初、村の一本道を女の子が歩いていました。</p> <p>石けりを調子よくやっていたのに、粉雪が降り始めて少し心配になりました。</p>
二	<p>後ろから、白いうきぎが続いてきて、その列の中に入ってしまった。</p> <p>女の子が心配。</p>
三	<p>おばあさんの話を思い出して、自分がうきぎ連にさらわれていくことが、わか</p> <p>ってしまう。逃げられない女の子が心配。</p>
四	<p>おばあさんに助けを呼んだ。ヨモギの葉が女の子を助けた。知らない町の人達の親切。助かった。よかつた。</p>

# 80

- 題材名** 「初雪のふる日」 (第4時／全4時間)
- 目標**
- ・場面に移り変わりに注意し、登場人物の気持ちの変化や情景を、読み取ることができる。
  - ・考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方に、違いのあることに気づくことができる。
- 領域名** B 読むこと C 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 本時のめあてを知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">ほかの安房直子作品を選んで読もう</div>	・本時のめあてを知る。
展開 25分	② 四年生で出てきた物語文の一つ一つの作品を、考えさせる。 ③ ほかの安房直子作品を、選んで読ませる。 ④ 安房直子作品を読んで、読後感とそう感じた理由をグループで話し合わせる。	・4年生で学習した物語文を振り返る。 ・安房直子作品を読む。 ・安房直子作品を読んで、読後感とそう感じた理由をグループで話し合う。
終末 15分	⑤ 学習を振り返り、単元全体の感想として今の考えや、安房直子さんへの気持ちをまとめさせ、安房直子さんに手紙を書く。	・安房直子さんに手紙を書く。

## 指導のポイント

- 場面ごとに情景や人物の気持ちを深く読み取りながら、作者の主題に迫れるようにする。
- 作品の書き手の立場や、読む相手の設定を変える工夫を行い、理解を深める。

# 板書例

①本時のめあてを知らせる。  
ほかの安房直子作品を選んで読もう

- ① 四年生で出てきた物語文の一つ一つの作品を、考えさせる。
- ② ほかの安房直子作品を、選んで読ませる。
- ③ 安房直子作品を読んで、読後感とそう感じた理由をグループで話し合わせる。

## 板書例

初雪のふる日

ほかの安房直子作品を選んで読もう

四年生で出てきた物語文

ほかの安房直子作品

作品を読んで、グループで話し合おう。

安房直子さんへの手紙を書こう。

⑤ 学習を振り返り、単元全体の感想として今の考えや、安房直子さんへの気持ちをまとめさせ、安房直子さんに手紙を書く。



